

## PACIFICO YOKOHAMA, International Conference Center 4F, 5F

パシフィコ横浜 国際会議センター 4階、5階

5F



# ISAP 2012

International Forum for Sustainable Asia and the Pacific: ISAP  
第4回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY  
UNU-IAS  
Institute of Advanced Studies

2012  
24-25 July

PACIFICO YOKOHAMA  
パシフィコ横浜  
[神奈川県横浜市]

## Steering towards a sustainable and resilient future: Beyond Rio+20

持続可能な社会、レジリエントな未来へ～リオ+20からの新たな視点



24 July [Tue] ▶ 9:00-17:30 25 July [Wed] ▶ 9:00-17:45

PACIFICO YOKOHAMA パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市みなとみらい地区)

- |               |  |
|---------------|--|
| Organisers    | Institute for Global Environmental Strategies (IGES)<br>United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)  |
| Collaborators | United Nations Environment Programme (UNEP)<br>United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP)<br>Asian Development Bank (ADB)  |
| Supporters    | Ministry of the Environment, Japan / Kanagawa Prefectural Government /<br>Hyogo Prefectural Government / City of Kitakyushu / City of Yokohama / Kawasaki City /<br>Global Cooperation Institute for Sustainable Cities, Yokohama City University /<br>Graduate School of Media and Governance, Keio University / Yokohama National University /<br>National Institute for Environmental Studies (NIES) / The Energy and Resources Institute (TERI) /<br>Nikkei Inc. / Nikkei BP Cleantech Institute |

- |    |   |
|----|---|
| 主催 | 公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)、国連大学高等研究所 (UNU-IAS)   |
| 協力 | 国連環境計画 (UNEP)、国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP)、アジア開発銀行 (ADB)   |
| 後援 | 環境省、神奈川県、兵庫県、北九州市、横浜市、川崎市、横浜市立大学グローバル都市協力研究センター、<br>慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科、横浜国立大学、独立行政法人国立環境研究所 (NIES)、<br>エネルギー資源研究所 (TERI)、日本経済新聞社、日経BPクリーンテック研究所 |

### Contact

#### Institute for Global Environmental Strategies (IGES)

2108-11 Kamiyamaguchi, Hayama, Kanagawa 240-0115, Japan  
TEL: 046-855-3720 FAX: 046-855-3709  
E-mail: iges@iges.or.jp URL: http://www.iges.or.jp

### お問い合わせ

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)  
〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11



目次 Contents

ご挨拶Welcome to ISAP2012

スケジュールSchedule1

プログラムProgramme

日本語版Japanese3

英語版English10

スピーカー略歴Speaker Profiles18

協力団体一覧Partners76

展示団体一覧Exhibitions77

ご挨拶Welcome to ISAP2012

「持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム (ISAP)」は、国際的に活躍する専門家や企業、政府、国際機関、NGO関係者が一堂に会し、アジア太平洋の持続可能な開発に関する多様な議論を行うフォーラムです。

第4回目となるISAP2012では、「持続可能な社会、レジリエントな未来へーリオ+20からの新たな視点」をメインテーマに、リオ+20の成果を検証するとともに、気候変動、レジリエントな (対応力のある) 社会、グリーン経済といった時宜を得たトピックに焦点を当てながら議論を深め、持続可能な発展の道筋に向けたメッセージを発信していきます。また、IGES白書第4巻『アジア太平洋地域のグリーン・ガバナンス』の発表とIGESが執筆に貢献した国連環境計画 (UNEP) の報告書『第5次地球環境概観 (GEO5) 』に関する報告を行います。

ISAP2012における多様な視点からの発表・議論が、持続可能な発展に向けた次なる活動に貢献することを願います。

The International Forum for Sustainable Asia and the Pacific (ISAP) is a forum held once a year with a timely theme, to promote diverse discussions on sustainable development in Asia and the Pacific. It aims to provide opportunities to boost information-sharing and strengthen collaborative efforts with front-line experts and stakeholders from business, governments, international organisations and NGOs, drawing upon the international and regional networks in which IGES plays an important role.

ISAP2012, under the theme of “Steering towards a sustainable and resilient future: Beyond Rio+20”, will be convened focusing on timely issues including the follow-up to Rio+20, climate change, resilience and green economy, to disseminate messages towards the goal of sustainable development. It will also serve as a platform for two new publications: the fourth IGES White Paper entitled “Greening Governance in Asia-Pacific” will be launched and the UNEP fifth Global Environmental Outlook (GEO5) will be presented.

We hope that this forum, through presentations and discussions from diverse perspectives, will contribute to future actions towards sustainable development.

スケジュール Schedule

■1日目 [7月24日 (火)]

時間	メイン会場 [503]	502	511&512	411&412	414&415
09:00 ┆ 09:15	オープニングセッション				
09:15 ┆ 10:45	全体会合 1 持続可能な開発に向けた グリーン経済 <div>P-1</div>				
11:00 ┆ 12:30	東アジア低炭素成長ナレッジ・ プラットフォーム:知識を政策と 投資へ <div>S1-1</div>	都市の課題:グリーン & スマートエコノミー <div>S1-2</div>	インタ ラクティブ セッション	パラレルセッション 持続可能な開発目標 (SDGs) の前途 <div>S1-3</div>	
12:40 ┆ 14:05		ランチセッション UNEP GEO5 (第5次地球環境 概観) / 持続可能な消費と生産 (SCP) 政策に関する 国際的展望 発表 <div>L-1</div>			
14:15 ┆ 15:45	全体会合 2 レジリエンス:持続可能な社会を 構築するための重要な概念 <div>P-2</div>				
16:00 ┆ 17:30	欧州の経験と知恵に学ぶ 福島の効果的な除染とは <div>S2-1</div>	SATOYAMAイニシアティブと レジリエンスー 持続可能な 社会を目指してー <div>S2-2</div>		アジアにおける省エネ住宅: 障壁と促進へ向けた政策 <div>S2-3</div>	グリーン経済に向けた レジリエントなエネルギー システム <div>S2-4</div>

■2日目 [7月25日 (水)]

時間	メイン会場 [503]	502	511&512	411&412	UNU-IAS [6F]
09:00 ┆ 10:45	全体会合 3 気候変動:ダーバン後の国際枠 組みとその行方 <div>P-3</div>				
11:00 ┆ 12:30	ダーバン後の各国気候政策 <div>S3-1</div>	アジア都市のスマート コミュニティの普及と課題 <div>S3-2</div>	インタ ラクティブ セッション	パラレルセッション レジリエンス (対応力) のため の金融革新:東日本大震災 から/バングラデシュにおける 気候変動を越えて <div>S3-3</div>	ワークショップ 都市経済のグリーン化は 可能か? ガバナンスに課せら れた課題:コベネフィット議論 とその後
12:40 ┆ 14:05		ランチセッション IGES白書IV 「アジア太平洋地域の グリーン・ガバナンス」発表 <div>L-2</div>			
14:15 ┆ 15:45	全体会合 4 リオ+20のその後 <div>P-4</div>				
16:00 ┆ 17:30	リオ+20後の制度枠組 (IFSD) <div>S4-1</div>	アジアの低炭素成長に向けた 緩和行動の計測・報告・検証 (MRV) の成功事例と教訓 <div>S4-2</div>		パラレルセッション 持続可能な開発のための 知識管理と実践コミュニティ <div>S4-3</div>	
17:30 ┆ 17:45	閉会セッション				

■DAY 1 24 July [Tue]

Time	Main Venue [503]	502	511&512	411&412	414&415
09:00 ↓ 09:15	Opening Session		Interactive session		
09:15 ↓ 10:45	Plenary Session 1 Green Economy for Sustainable Development <div>P-1</div>				
11:00 ↓ 12:30	Parallel Sessions East Asia Knowledge Platform for Low Carbon Growth - Knowledge in Action for Policy and Investment <div>S1-1</div>	Urban Challenges for a Green and Smart Economy <div>S1-2</div>		Parallel Sessions Sustainable Development Goals - The Road Ahead <div>S1-3</div>	
12:40 ↓ 14:05		Lunch Session UNEP GEO5 / Global Outlook on SCP Policies Presentation <div>L-1</div>			
14:15 ↓ 15:45	Plenary Session 2 Resilience: Key Element for Building Sustainable Society <div>P-2</div>				
16:00 ↓ 17:30	Parallel Sessions Effective Decontamination in Fukushima and Experiences in Europe <div>S2-1</div>	The Satoyama Initiative and Resilience – Pathways to a Sustainable Society – <div>S2-2</div>		Parallel Sessions Energy Efficient Housing in Asia - Barriers and Policy Drivers <div>S2-3</div>	Resilient Energy System towards Green Economy [Japanese only] <div>S2-4</div>

■DAY 2 25 July [Wed]

Time	Main Venue [503]	502	511&512	411&412	UNU-IAS [6F]
09:00 ↓ 10:45	Plenary Session 3 Climate Change: The Way Forward for Climate Regime after Durban <div>P-3</div>		Interactive session		
11:00 ↓ 12:30	Parallel Sessions Domestic Climate Actions after Durban <div>S3-1</div>	Development of Smart Communities in Asian Cities <div>S3-2</div>		Parallel Sessions Financial Innovations for Resilience: From the Tsunami in Tohoku to Climate Change in Bangladesh and Beyond <div>S3-3</div>	Workshop Governance Challenges for Greening the Urban Economy: Co-Benefits and Beyond
12:40 ↓ 14:05		Lunch Session IGES White Paper IV "Greening Governance in Asia-Pacific" <div>L-2</div>			
14:15 ↓ 15:45	Plenary Session 4 Rio+20 Follow up <div>P-4</div>				
16:00 ↓ 17:30	Parallel Sessions Future Directions for IFSD: Post Rio+20 <div>S4-1</div>	Good Practices and Lessons Learned from Measurement, Reporting and Verification (MRV) of Mitigation Actions towards the Low Carbon Development in Asia <div>S4-2</div>		Parallel Sessions Knowledge Management and Community of Practice for Sustainable Development <div>S4-3</div>	
17:30 ↓ 17:45	Closing Session				

プログラム

1日目 7月24日(火)

9:00-9:15 オープニングセッション

●オープニング 503号室

主催者挨拶  
浜中 裕徳 IGES理事長

来賓挨拶  
高山 智司 環境大臣政務官  
黒川 雅夫 神奈川県副知事

9:15-10:45 全体会合 1

●持続可能な開発に向けたグリーン経済 503号室 [P-1]

Rio+20の一連のプロセスを通じて、グリーン経済は持続可能な開発を達成する上で重要なツールとして認識され、貧困の緩和、経済成長、社会的包容力、福祉、雇用や適正な就業に寄与することが期待されています。一方で、グリーン経済の概念や具体的な実行において、例えば、融資条件や国際貿易において不公正な差別や見えない規制となるといったリスクを注意深く排除する必要があります。本セッションでは、グリーン経済への意向に向けたグローバルなトレンドが各国政府や機関の決断と行動にどのような影響を与えるのか、気候変動やエネルギー安全保障、融資等さまざまな視点から議論を行います。

【モデレーター】 浜中 裕徳 IGES理事長

【基調講演者】  
ラジェンドラ・K・パチャウリ エネルギー資源研究所 (TERI) 所長 / 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 議長  
ビンドウ・N・ロハニ アジア開発銀行 (ADB) 副総裁

【討論者】 石井 菜穂子 財務省副財務官

11:00-12:30 パラレルセッション

●東アジア低炭素成長ナレッジ・プラットフォーム：知識を政策と投資へ 503号室 [S1-1]

現在成長著しいアジアが低炭素化のための集中的な投資を行わなければ、今後半世紀にわたって旧来のエネルギー高依存型社会に「ロックイン」されてしまうことになり、今こそ地域の知恵と資金を結集して、低炭素・グリーン成長に向けて舵を切ることが求められています。本セッションでは、いかに低炭素社会実現に向けた方向を共有し、必要な知識を交換し、政策形成へ反映させ、持続的な社会に向けた賢く効果的な投資を進めるか、有識者による自由闊達な意見交換を行います。

【モデレーター】 森 秀行 IGES所長

【キーノートスピーカー】  
藤原 聖也 IGESプログラムマネージメントオフィスプリンシパル・フェロー  
中野 潤也 外務省国際協力局気候変動課気候変動交渉官

【スピーカー】  
西岡 秀三 IGES研究顧問 / 低炭素社会国際研究ネットワーク事務局長  
藤野 純一 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター主任研究員  
稲田 恭輔 国際協力機構 (JICA) 地球環境部気候変動対策室副室長

【討論者】  
ラジェンドラ・K・パチャウリ エネルギー資源研究所 (TERI) 所長 / 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 議長  
ビンドウ・N・ロハニ アジア開発銀行 (ADB) 副総裁  
アッシュ・シャルマ 北欧環境金融公社 (NEFCO) 副総裁  
リザルディ・ポアー ボゴール農科大学東南アジア太平洋気候変動リスク管理センター所長  
ケジュン・ジャン 中国・国家発展改革委員会エネルギー研究所教授  
ラム・シュレスタ アジア工科大学 (AIT) 名誉教授



●都市の課題：グリーン&スマートエコノミー

502号室 [S1-2]

国内外において、グリーン経済を実現するためのさまざまな取り組みが行われています。本セッションでは、スマートシティ事業のビジネスモデルについて概観した後、マレーシア・イスカンダール州、横浜市、川崎市の事例を紹介しつつ、今後の自治体の課題及び必要な施策について議論を行います。さらに、議論を通じ得られた共通認識をもとにさらなるグリーン経済への取り組みを促します。

**[モデレーター]** 井村 秀文 IGESプログラムマネジメントオフィス主任アドバイザー兼シニア・フェロー

**[キーノートスピーカー]** 望月 洋介 日経BPクリーンテック研究所長

**[スピーカー]**

ホー・チン・チオン マレーシア工科大学教授

信時 正人 横浜市環境未来都市推進担当理事

牧 葉子 川崎市環境局理事・環境技術情報センター所長事務取扱

**[パネリスト]**

リー・ワンシン 香港城市大学助教授

荻原 朗 IGESガバナンスと能力グループシニア・コーディネーター

アブドゥサレム・ラビィ IGES関西研究センター研究員

ルイス・アケンジ IGESフェロー

●持続可能な開発目標（SDGs）の前途

411&412号室 [S1-3]

リオにおいて将来の持続可能な開発目標（SDGs）の大枠が合意されました。今後数年間が、SDGsがグローバルな開発・経済活動の新たな方向付けを行い、持続可能な社会に導くことができるかどうかの分水嶺となります。これらの目標を達成するには、より信頼できるモニタリングとガバナンス・メカニズムが必要です。リオでの地球サミットから20年経った今、過去の取り組みを振り返り、教訓を引き出し、実施に際しての障壁を明確化するとともに、いかに目標と指標を国・地域レベルで実行可能なものにしていくかについて議論します。

**[モデレーター]** 蟹江 憲史 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻准教授

**[スピーカー]**

スレンドラ・シュレスタ リオ+20事務局持続可能な開発目標（SDGs）ディレクター兼フォーカルポイント

マスネリヤティ・ヒルマン インドネシア政府環境省有害性物質・有害性廃棄物及び固形廃棄物管理担当副大臣

杉中 淳 外務省国際協力局地球環境課長

マーク・エルダー IGESガバナンスと能力グループディレクター

吉田 哲郎 IGESガバナンスと能力グループ研究員

12:40-14:05 ランチセッション

●UNEP GEO5（第5次地球環境概観）/  
持続可能な消費と生産（SCP）政策に関する国際的展望 発表

502号室 [L-1]

国連環境計画（UNEP）の代表的な出版物である「第5次地球環境概観（GEO5）」と、「持続可能な消費と生産（SCP）政策に関する国際的展望（Global Outlook on SCP Policies）」2冊のプレゼンテーションを行います。IGESの研究者もアジア太平洋地域の章の執筆に深く関わったこれらの出版物について、IGES及びUNEPが地域における共通性や知見を発表するとともに意見交換を行います。

**[モデレーター]** ピーター・キング IGESバンコク地域センター上級ポリシアドバイザー

**[スピーカー]**

アナ・スタブラワ 国連環境計画（UNEP）早期警戒・評価局コーディネーター

ルイス・アケンジ IGESフェロー

**[討論者]**

西本 伴子 国連環境計画（UNEP）地域協力局長

ビンドゥ・N・ロハニ アジア開発銀行（ADB）副総裁

14:15-15:45 全体会合 2

●レジリエンス：持続可能な社会を構築するための重要な概念

503号室 [P-2]

「レジリエンス（対応力）」は、持続可能な開発のための重要な概念として位置づけられています。日本においては東日本大震災からの復興、特に、福島復興は引き続き大きな課題となる一方、多くのアジア諸国では、気候変動対策をはじめとする様々な分野におけるレジリエンスの強化が喫緊の課題となっています。本セッションでは、どのようにレジリエンスの要素を福島の復興及び持続可能な開発プロセスに取り込んでいくか、また、レジリエンス及び持続可能な開発を促すための効果的なガバナンスについて、包括的な視点から議論を行います。

**[モデレーター]** 竹本 和彦 環境省参与 / 国連大学高等研究所シニアフェロー

**[基調講演者]**

クラウス・テプファー ドイツ・持続性高等研究所所長

武内 和彦 国連大学副学長

西本 伴子 国連環境計画（UNEP）地域協力局長

16:00-17:30 パラレルセッション

●欧州の経験と知恵に学ぶ福島の効果的な除染とは

503号室 [S2-1]

欧州では、1986年のチェルノブイリ事故後、各国で様々な除染に関する取り組みが行われるとともに、その後、欧州委員会の下で23カ国から合計50の研究・災害関係機関が参画し、緊急時意思決定支援オンラインシステムやガイドラインが開発されました。本セッションでは、欧州からの専門家を迎え、福島での現地調査や欧州でのチェルノブイリ事故後の経験・知見を生かし、本年度本格的に実施される国・市町村等による除染のための取り組みをどのようにより効果的なものとしていくことができるのか、ガバナンス及びリスクコミュニケーションに焦点を当てて議論を行います。

**[モデレーター]** 森 秀行 IGES所長

**[キーノートスピーカー]**

鈴木 浩 福島大学名誉教授 / 福島県復興ビジョン検討委員会座長

関 莊一郎 環境省除染担当審議官

**[パネリスト]**

小牛田 政光 福島県生活環境部環境回復推進監

ミランダ・シュラーズ ベルリン自由大学教授・環境政策研究科ディレクター

ヴォルフガング・ラスコフ ドイツ連邦放射線防護庁

エドワルド・ガレゴ・ディアツ マドリッド工科大学原子力工学部長

ジル・ヘラルド・デュブリル MUTADIS所長

原科 幸彦 千葉商科大学政策情報学部教授 / 東京工業大学名誉教授

●SATOYAMAイニシアティブとレジリエンス ―持続可能な社会を目指して―

502号室 [S2-2]

地球規模での環境の変化や生物多様性の損失、東日本大震災などの自然災害等に対応していくために、私たちの社会は、回復力のある社会―レジリエンスのある社会―を形作り、将来の危機に備えることが必要とされています。「SATOYAMAイニシアティブ」は、人間活動の影響を受け形成・維持されている社会生態学的生産ランドスケープ（SEPLs）に対する地球規模での価値の認識と持続可能な形での保全を目的としています。本セッションでは、SATOYAMAイニシアティブがレジリエンスのある社会とどのようなつながっていくのかを探ります。

**[モデレーター]** アルフレッド・オテング・イエボア ガーナ共和国国家生物多様性委員会議長

**[パネリスト]**

クリシュナ・チャンドラ・パウデル ネパール連邦民主共和国内務省東部地区行政長官

ジョセリン・カリノ 先住民政策提言・教育国際センター（TEBTEBBA）

生物多様性実施のための先住民能力開発プロジェクト政策顧問兼チームリーダー

多田 克彦 有限会社多田自然農場代表取締役

**[討論者]**

香坂 玲 国連大学高等研究所（いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット）客員リサーチフェロー /

金沢大学人間社会学域 地域創造学類環境共生コース准教授

カレマニ・ジョー・ムロンゴイ 国連大学高等研究所客員研究員

● アジアにおける省エネ住宅: 障壁と促進へ向けた政策

411&412号室 [S2-3]

アジア途上国では、都市部の住宅の発展傾向の急速な変化に伴い、エネルギー確保に関する懸念が生じ、省エネルギー住宅の普及が重要な課題となっています。中国、インド、タイ及びフィリピンで現在実施されている研究プロジェクトの成果を紹介しながら、関係者がこの課題に取り組む上での障壁にはどのようなものがあるのか、また、政府がどのような政策を用いればより持続可能な住宅の促進を行うことができるのかについて考察を深めます。

【モデレーター】 マグナス・ベングソン IGES持続可能な消費と生産グループディレクター

【スピーカー】

ルイス・アケンジ IGESフェロー

パトリック・シュローダー 中国国際民間組織協力促進会 (CANGO) 国際アドバイザー

サンギース・バルグーゼ インド リードキャップ・ナレッジ・ソリューションズ最高経営責任者

郭 非 IGES持続可能な消費と生産グループ研究員

【討論者】

井村 秀文 IGESプログラムマネジメントオフィス主任アドバイザー兼シニア・フェロー

菊澤 育代 IGES北九州アーバンセンター研究員

● グリーン経済に向けたレジリエントなエネルギーシステム

414&415号室 [S2-4]

東日本大震災と福島原発事故は、日本がグリーン経済を実現していく上でレジリエント（対応力の高い）なエネルギーシステムが必要であることを明らかにしました。IGESによる研究等、最新のエネルギーシナリオ研究を踏まえ、災害に強いエネルギー供給といった観点に加え、レジリエントな地域経済というより幅広い視点から、レジリエントなエネルギーシステムの確立に向けた課題と必要な対策について議論します。

【モデレーター】 小嶋 公史 IGES経済と環境グループディレクター

【キーノートスピーカー】

上坂 博亨 富山国際大学子ども育成学部教授

倉持 壮 IGES気候変動グループ特任研究員

【パネリスト】 本藤 祐樹 横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

2日目 7月25日(水)

9:00-10:45 全体会合 3

● 気候変動：ダーバン後の国際枠組みとその行方

503号室 [P-3]

南アフリカ・ダーバンで開催された国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) 第17回締約国会議 (COP17) の結果について議論を行います。議論の焦点は、1) 世界全体の平均気温の上昇を2℃以下に抑えるために排出削減の野心レベルをどのように引き上げるか、2) 将来枠組みにおける衡平性、共通だが差異ある責任及び各国の能力 (CBDR/RC) 原則のあり方、の2点です。

【モデレーター】 森島 昭夫 日本気候政策センター理事長

【基調講演者】

バク・ヨンウ 国連環境計画アジア太平洋地域事務所 (UNEP-ROAP) 所長

トム・アタナジウ EcoEquityエグゼクティブディレクター

【討論者】 鈴木 克徳 金沢大学環境保全センター長・教授

11:00-12:30 パラレルセッション

● ダーバン後の各国気候政策

503号室 [S3-1]

世界の主要経済国における国内気候政策の最新情報と、2℃目標の達成に向けた努力に各国がどのように貢献できるかについて、中国、インド、インドネシア、日本及びドイツからの専門家と共に議論を行います。

【モデレーター】 浜中 裕徳 IGES理事長

【パネリスト】

ミランダ・シュラーズ ベルリン自由大学教授・環境政策研究科ディレクター

高村 ゆかり 名古屋大学大学院環境学研究科教授

プリヤダシ・シクラ インド経営大学院大学教授

リザルディ・ボアー ボゴール農科大学東南アジア太平洋気候変動リスク管理センター所長

明日香 壽川 IGES気候変動グループディレクター / 東北大学東北アジア研究センター教授

● アジア都市のスマートコミュニティの普及と課題

502号室 [S3-2]

本セッションでは、北九州市東田地区で整備中のスマートコミュニティと、同様のモデルをインドネシア・スラバヤ市及びマレーシア・プトラジャヤ市で展開しようとしている北九州市とそれを支援する日本政府の取り組みについて紹介します。これを通じ、同様の取り組みを拡大しようとする際の法整備、実施体制、技術等の障害を明らかにし、特に送配電網への接続状況や、都市間連携を通じたこのような取り組みの普及の可能性について議論を行います。

【モデレーター】

前田 利蔵 IGES北九州アーバンセンターアクティングディレクター

菊澤 育代 IGES北九州アーバンセンター研究員

【パネリスト】

モハメド・ロズリ・アブドラ マレーシア国エネルギー・グリーン技術・水利省局長

ギンギン・ギナンジャー インドネシア国スラバヤ市美化・景観局道路景観課職員

古川 善規 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) スマートコミュニティ部主幹

松岡 俊和 北九州市環境局環境未来都市担当理事

村岡 元司 株式会社NTTデータ経営研究所社会・環境戦略コンサルティング本部パートナー

● レジリエンス（対応力）のための金融革新：  
東日本大震災からバングラデシュにおける気候変動を越えて

411&412号室 [S3-3]

近年、自然災害による世界的な被害が増加しており、今後もさらに増え続けると予見されています。気候変動などの要因による、これらの災害に対して最も脆弱であるのは開発途上国の貧困層です。一方、東日本大震災により、技術的に発展した国であっても自然災害に対しては脆弱であり、レジリエンスという概念が先進国にとっても重要であるということが明らかになりました。本セッションでは、日本やアジアの経験をもとに、自然災害後の再建を含む対応力 (レジリエンス) 確立のためのマイクロファイナンス等、革新的な金融サービスの開発と普及について議論を深めます。

【モデレーター】

ヘンリー・スケープンス IGES自然資源管理グループディレクター

林 信濃 IGES自然資源管理グループ副ディレクター

【スピーカー】

モハマド・マフズ・カビール バングラデシュ国際戦略研究機関 (BISS) 上席研究員

ソムサク・ボロンタナラット アジア沿岸資源研究財団 (CORIN-Asia) 所長

稲田 恭輔 国際協力機構 (JICA) 地球環境部気候変動対策室副室長

齋藤 浩昭 株式会社アイリンク (三陸牡蠣復興プロジェクト) 代表

【パネリスト】

イエ・チエン 北京師範大学IHDP総合リスクガバナンスプロジェクト国際プロジェクトオフィスエグゼクティブディレクター

モハマド・モスレ・ユディン・サデク マイクロファイナンス研究所 (InM) エグゼクティブディレクター代理

モハマド・アブドゥル・バキ・カリリ ダッカ大学金融学部教授

12:40-14:05 ランチセッション

● IGES白書Ⅳ「アジア太平洋地域のグリーン・ガバナンス」発表

502号室 [L-2]

ISAP2012において発表するIGES白書第4巻「アジア太平洋地域のグリーン・ガバナンス—低炭素で持続可能なアジア太平洋に向けて—」では、持続可能な開発の実現にあたり、アジア太平洋地域の抜本的なガバナンス改革が求められるとして、グリーン経済

への移行を促すガバナンス改革と政策的解決策を提言しています。同白書の正式な発表となる本セッションでは、著者による研究報告を行うとともに、同地域の持続可能な開発の実現に必要な制度改革について参加者との議論を行います。

- [モデレーター]** ピーター・キング IGESバンコク地域センター上級ポリシーアドバイザー
- [スピーカー]**  
森 秀行 IGES所長  
サイモン・オルセン IGESガバナンスと能力グループ研究員  
堀田 康彦 IGES持続可能な消費と生産グループ副ディレクター  
エンリケ・イバラ ジェネ IGES自然資源管理グループ研究員  
小畑 一久 IGES市場メカニズムグループ副ディレクター  
アブドゥサレム・ラビィ IGES関西研究センター研究員  
前田 利蔵 IGES北九州アーバンセンターアクティングディレクター  
小林 正典 横浜国立大学大学院環境情報研究院特任准教授

14:15-15:45 全体会合 4

● リオ+20のその後 503号室 [P-4]

2012年6月に開催されたRio+20では、21世紀の文脈における持続可能な開発に向けた議論が活発化し、世界各国によるコミットメントが高まりを見せました。Rio+20の成果はグリーン経済や制度的枠組み、実施手段等多岐にわたり、今後、グローバル、地域、国家等あらゆるレベルのガバナンスに、多くの影響をもたらすことが期待されています。本セッションでは、Rio+20での成果を踏まえ、今後、持続可能な開発に関するガバナンスをどのように強化して行くのか、グローバルなレベルでの今後の行方を展望するとともに、こうした展開がアジア太平洋地域のガバナンス、ひいては経済、社会にどのように影響を与えるか議論を行います。

- [モデレーター]** 廣野 良吉 成蹊大学名誉教授
- [基調講演者]**  
チュン・ラエ・クウォン 国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) 環境開発部部長  
ネイ・トゥーン ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校教授
- [討論者]** スレンドラ・シュレスタ リオ+20事務局持続可能な開発目標 (SDGs) ディレクター兼フォーカルポイント

16:00-17:30 パラレルセッション

● リオ+20後の制度枠組 (IFSD) 503号室 [S4-1]

IFSDに関連するいくつかのプロセスが、リオ+20を契機に動き出しています。持続可能な開発委員会 (CSD) を置き換える持続可能な開発のためのハイレベル政治的フォーラムの設立、国連環境計画の強化、「ハイレベルの将来世代の代表者」の機能を決定するプロセスなどです。これらのプロセスが結果を出すためには、グローバルな政府間レベルでのアクションは十分ではなく、地域、国及び地方レベルでのアクションも必要であり、また通常持続可能性と関連が薄い分野や主体によるアクションも必要となります。リオ+20の成果を「家に持ち帰ること」に貢献するため、このセッションでは、アジアにおけるインプリケーションに重点を置き、どのような制度上の変化が地域、国及び地方レベルで必要であり、またどのように異なった経済主体を組み込むかについて議論します。

- [モデレーター]** 竹本 和彦 環境省参与 / 国連大学高等研究所シニアフェロー
- [スピーカー]**  
西本 伴子 国連環境計画 (UNEP) 地域協力局長  
ジョン・フェイソン 韓国環境政策管理学会名誉会長  
モンチップ・スリラタナ・タプカノン タイ上院議会天然資源・環境委員会シニアアドバイザー  
マーク・エルダー IGESガバナンスと能力グループディレクター  
サイモン・オルセン IGESガバナンスと能力グループ研究員

● アジアの低炭素成長に向けた緩和行動の計測・報告・検証 (MRV) の成功事例と教訓 502号室 [S4-2]

低炭素社会の構築に不可欠となる温室効果ガスの適切な測定・報告・検証 (MRV) 方法の確立を目指して、これまで先進国・途上国の既存制度において実施されてきたGHG排出量・削減量のMRVに関する具体的事例をもとに、次期気候変動国際枠組みの下

で構築されるべき温室効果ガス排出量・排出削減量のMRV方法論及びMRV実施体制のあり方とそのための技術的・政策的課題について、特にアジア諸国の取り組むべき内容に焦点を当てて議論します。

- [モデレーター]** 平石 尹彦 IGES上級コンサルタント (IPCCインベントリープログラム共同議長)
- [キーノートスピーカー]** チュン・ラエ・クウォン 国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) 環境開発部部長
- [スピーカー]**  
石井 真由美 株式会社LIXIL CSR・環境経営推進部環境推進グループ  
K.N. ラオ ACC Limitedディレクター (エネルギー・環境)  
ポンビッパ・ローソムブーン タイ温室効果ガス管理機構カーボンビジネスオフィスディレクター  
二宮 康司 IGES市場メカニズムグループディレクター  
小畑 一久 IGES市場メカニズムグループ副ディレクター

● 持続可能な開発のための知識管理と実践コミュニティ 411&412号室 [S4-3]

本セッションでは、実践コミュニティ (community of practice) がどのように発展し、知識管理や課題設定に貢献できるのかを議論し、実践コミュニティの運営の秘訣を探ります。また、持続可能な開発の促進のために実践者はどのように情報や知識を共有し管理すべきか、またその成功のカギとは何かについて議論します。

- [モデレーター]** 佐野 大輔 IGESバンコク地域センターセンター長
- [スピーカー]**  
デビッド・ガリポー 国連開発計画アジア太平洋地域センター (バンコク) 知識と革新管理実践リーダー  
ヒナ・ロティア 気候と開発知識ネットワーク (CDKN) アジア地域コーディネーター / LEADパキスタンプログラム開発部統括マネージャー
- [パネリスト]** ピーター・キング IGESバンコク地域センター上級ポリシーアドバイザー

17:30-17:45 閉会セッション

● 閉会 503号室

ワークショップ

**● 「都市経済のグリーン化は可能か？  
ガバナンスに課せられた課題：コベネフィット議論とその後」**

公開：事前申込み不要

**[日 時]** 2012年7月25日 11:00-12:30  
**[場 所]** パシフィコ横浜 横浜国際協力センター6階 国連大学高等研究所 (UNU-IAS)  
**[言 語]** 英語

グリーン経済や持続可能な発展の創出にあたって、都市には大きな役割を果たすことが期待されています。本セッションでは、都市の文脈において、グリーン経済がどのように具現化できるか、いずれも2012年上期に発行された、国連大学高等研究所が発行したグリーン経済に関するポリシーレポートと、IGESの低炭素社会に関連する書籍をもとに紹介します。

**[モデレーター]**  
久山 純弘 日本ハビタット協会 / 日本国際連合協会 / 元国連事務次長補 (国連ハビタット事務次長)

**[スピーカー]**  
ジョゼ・A・プピン・デ・オリベイラ 国連大学高等研究所副所長兼シニア・リサーチ・フェロー  
エリック・ザスマン IGES気候変動グループ主任研究員

**[討論者]**  
ダルコ・ラドヴィッチ 慶應義塾大学教授



Programme

Day 1 24 July [Tue]

9:00-9:15 Opening Session

Opening Room 503

- Welcome Remarks**  
Prof. Hironori Hamanaka, Chair of the Board of Directors, IGES
- Guest Remarks**  
Mr. Satoshi Takayama, Parliamentary Secretary of the Environment  
Mr. Masao Kurokawa, Vice Governor, Kanagawa Prefectural Government

9:15-10:45 Plenary Session 1

Green Economy for Sustainable Development Room 503 [P-1]

Through the process of Rio+20, a green economy is now recognised as an important tool available for achieving sustainable development. Positive expectations include its contribution to poverty eradication, economic growth, social inclusion, human welfare, employment and decent work. On the other hand, there are concerns about risks that need to be carefully avoided, for example, the concept and practice of green economy could be taken as unjustifiable discrimination or disguised restriction on finance and international trade. This session addresses how the global trend for shifting towards green economy may affect decisions and actions taken by countries and relevant organisations from diverse perspectives including climate change, energy security, and funding.

- [Moderator]**  
Prof. Hironori Hamanaka, Chair of the Board of Directors, IGES
- [Keynote Speakers]**  
Dr. Rajendra K. Pachauri, Director-General, The Energy and Resources Institute (TERI) / Chair, The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC)  
Dr. Bindu N. Lohani, Vice President, Knowledge Management and Sustainable Development, Asian Development Bank (ADB)
- [Discussant]**  
Dr. Naoko Ishii, Deputy Vice Minister of Finance for International Affairs, Ministry of Finance, Government of Japan

11:00-12:30 Parallel Sessions

East Asia Knowledge Platform for Low Carbon Growth – Knowledge in Action for Policy and Investment Room 503 [S1-1]

If rapidly growing Asian countries fail to make investments towards low-carbon societies in an intensive manner, they will be locked into carbon-intensive development paths for the upcoming half-century. Therefore, it is imperative that we orchestrate our knowledge and expertise from around the region as well as the necessary funds in order to steer towards low-carbon and green growth societies in an urgent fashion. On the occasion of the ISAP2012, we would like to engage in frank discussion on how to forge consensus in moving towards low-carbon societies, exchange necessary knowledge, build a substantial linkage between that knowledge and policies, and facilitate wise and effective investments towards low-carbon sustainable societies in a way that fosters active participation from like-minded stakeholders concerned.

- [Moderator]**  
Mr. Hideyuki Mori, President, IGES
- [Keynote Speakers]**  
Mr. Masaya Fujiwara, Principal Fellow, Programme Management Office, IGES  
Mr. Junya Nakano, Senior Negotiator, Climate Change Division, International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs

- [Speakers]**  
Dr. Shuzo Nishioka, Secretary General, International Research Network for Low Carbon Societies (LCS-RNet) / Senior Research Advisor, IGES  
Dr. Junichi Fujino, Senior Researcher, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NIES)  
Mr. Kyosuke Inada, Deputy Head and Advisor, Office for Climate Change, Global Environment Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)

- [Discussants]**  
Dr. Rajendra K. Pachauri, Director-General, The Energy and Resources Institute (TERI) / Chair, The Intergovernmental Panel on Climate Change  
Dr. Bindu N. Lohani, Vice President, Knowledge Management and Sustainable Development, Asian Development Bank (ADB)  
Mr. Ash Sharma, Vice President, Carbon Finance and Funds, Nordic Environment Finance Corporation (NEFCO)  
Prof. Rizaldi Boer, Executive Director, Centre for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia and Pacific, Bogor Agriculture University, Indonesia  
Prof. Jiang Kejun, Research Professor, Energy Research Institute, National Development and Reform Commission, PRC  
Prof. Ram Manohar Shrestha, Emeritus Professor, Asian Institute of Technology

Urban Challenges for a Green and Smart Economy Room 502 [S1-2]

Measures towards a “Green Economy” are taken around the globe including Japan. In this session, the business model for “smart cities” will be outlined, followed by actual measures taken by Iskandar Malaysia, Yokohama city and Kawasaki city. The aim of the session will be to highlight and discuss issues that need to be handled along with directions of future policies in order to achieve a green economy. In addition, this session aims at stimulating new measures towards a “Green Economy” with the common understanding generated by the discussion.

- [Moderator]**  
Prof. Hidefumi Imura, Senior Policy Advisor & Senior Fellow, Programme Management Office, IGES
- [Keynote Speaker]**  
Mr. Yosuke Mochizuki, Director, Nikkei BP Cleantech Institute
- [Speakers]**  
Prof. Dr. Ho Chin Siong, Universiti Teknologi Malaysia  
Mr. Masato Nobutoki, Executive Director for the FutureCity Promotion, City of Yokohama  
Ms. Yoko Maki, Executive Director, Global Environment Knowledge Centre, Environment Bureau, Kawasaki City

- [Panellists]**  
Prof. Wanxin Li, Assistant Professor, City University of Hong Kong, China  
Dr. Akira Ogihara, Senior Coordinator, Governance and Capacity Group, IGES  
Dr. Abdessalem Rabhi, Policy Researcher, Kansai Research Center, IGES  
Mr. Lewis Akenji, IGES Fellow

Sustainable Development Goals - The Road Ahead Room 411&412 [S1-3]

A broad framing of the future SDGs was agreed in Rio. The coming years will be defining if the goals can help reorient global economic and development activities onto the right path towards sustainability. Implementation toward these goals necessitates better monitoring and governance mechanisms. At this critical juncture, 20 years after the Rio Earth Summit, we will discuss how important it is to look at similar efforts in the past and draw lessons and identify barriers to their effective implementation. We must also find ways to effectively operationalise the goals, targets and indicators at national and local levels, to achieve sustainable development.

- [Moderator]**  
Prof. Norichika Kanie, Associate Professor, Department of Value and Decision Science, Graduate School of Decision Science and Technology, Tokyo Institute of Technology
- [Speakers]**  
Mr. Surendra Shrestha, Director & Focal Point for Sustainable Development Goals (SDGs) at Rio+20 Secretariat  
Ms. Masnellyarti Hilman, Deputy Minister for Hazardous Substances, Hazardous Waste and Solid Waste Management, Ministry of Environment, Republic of Indonesia  
Dr. Atsushi Suginaka, Director, Global Environment Division, International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs of Japan  
Dr. Mark Elder, Director, Governance and Capacity Group, IGES  
Mr. Tetsuro Yoshida, Researcher, Governance and Capacity Group, IGES

12:40-14:05 Lunch Session

● UNEP GEO5 / Global Outlook on SCP Policies Presentation

Room 502 [L-1]

The audience will have a unique opportunity to hear about two of UNEP's major publications -the flagship Global Environmental Outlook (GEO5), and the Global Outlook on Sustainable Consumption and Production (GO SCP). IGES researchers were closely involved in the publication of the regional chapters and together with UNEP will present the major findings followed by exchange between the two presenters on commonalities and implications for Asia-Pacific.

[Moderator]

Dr. Peter King, Senior Policy Advisor, IGES Regional Centre, Bangkok

[Speakers]

Ms. Anna Stabrawa, Regional Coordinator for Early Warning & Assessment, United Nations Environment Programme (UNEP)

Mr. Lewis Akenji, IGES Fellow

[Discussants]

Ms. Tomoko Nishimoto, Director, Division of Regional Cooperation (DRC), United Nations Environment Programme (UNEP)

Dr. Bindu N. Lohani, Vice President, Knowledge Management and Sustainable Development, Asian Development Bank (ADB)

14:15-15:45 Plenary Session 2

● Resilience: Key Element for Building Sustainable Society

Room 503 [P-2]

Resilience is identified as one of the key elements of sustainable development. Recovery from the triple disasters in Tohoku region in Japan, including Fukushima, remains an enormous challenge, while many Asian countries face the urgent need to enhance resilience for diverse issues including climate change adaptation. This session will welcome a former Environment Minister from Germany and the Director of the Division of Regional Cooperation at UNEP to share perspectives on resilience and natural disasters.

[Moderator]

Mr. Kazuhiko Takemoto, Senior Advisor to Minister of the Environment / Senior Fellow, United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)

[Keynote Speakers]

Prof. Dr. Klaus Töpfer, Executive Director, Institute for Advanced Sustainability Studies e.V. (IASS)

Prof. Kazuhiko Takeuchi, Vice Rector, United Nations University (UNU)

Ms. Tomoko Nishimoto, Director, Division of Regional Cooperation (DRC), United Nations Environment Programme (UNEP)

16:00-17:30 Parallel Sessions

● Effective Decontamination in Fukushima and Experiences in Europe

Room 503 [S2-1]

After the Chernobyl nuclear accident in 1986, actions were taken by various countries in Europe to implement decontamination, and following this, a total of 50 research and disaster-related organisations from 23 countries under the European Commission took part in the development of an on-line system and set of guidelines for emergency decision support. Inviting experts from Europe based on their experience and knowledge developed in Europe as well as field survey in Fukushima, this session promotes public discussion on how to best proceed effectively with full-scale decontamination on a national and local level from this fiscal year.

[Moderator]

Mr. Hideyuki Mori, President, IGES

[Keynote Speakers]

Dr. Hiroshi Suzuki, Professor Emeritus, Fukushima University / Chair, Fukushima Prefecture Reconstruction Committee

Mr. Soichiro Seki, Director General for Decontamination, Ministry of the Environment, Japan

[Panellists]

Mr. Masamitsu Kogota, Senior Policy Administrator of Environmental Recovery Sector, Social Affairs & Environment Department, Fukushima Prefectural Government

Prof. Dr. Miranda A. Schreurs, Director of the Environmental Policy Research Institute, The Freie Universität Berlin

Prof. Wolfgang Raskob, Professor, Karlsruhe, Institute of Technology (KIT), Germany

Prof. Eduardo Gallego Diaz, Director, Nuclear Engineering Department, Technical University of Madrid, Spain

Mr. Gilles Hériard-Dubreuil, President, MUTADIS, France

Prof. Sachihiko Harashina, Professor, Faculty of Policy Informatics, Chiba University of Commerce / Professor Emeritus, Tokyo Institute of Technology

● The Satoyama Initiative and Resilience – Pathways to a Sustainable Society –

Room 502 [S2-2]

To cope with the rising pressures of environmental change, global biodiversity loss, and extreme natural hazards such as the Great East Japan Earthquake and Tsunami, societies need to build and enhance the resilience in the face of future disturbances. The Satoyama Initiative aims to conserve sustainable human-influenced natural environments (Socio-Ecological Production Landscapes and seascapes; SEPLs) through broader global recognition of their value. Its focus on the scientific aspects of human-nature interactions in SEPLs provides insight into the importance of promoting resilience. This session will illustrate the diverse benefits obtained through SEPLs and explore possible means to integrate this notion within environmental policy decisions.

[Moderator]

Prof. Alfred Oteng-Yeboah, National Chairman, Ghana National Biodiversity Committee

[Panellists]

Dr. Krishna Chandra Paudel, Secretary, Eastern Regional Administration Office, Ministry of Home Affairs, Government of Nepal

Ms. Joji Cariño, Policy Advisor and Team Leader, Indigenous Peoples Capacity-Building Project for CBD Implementation, Indigenous Peoples' International Centre for Policy Research and Education (TEBTEBBA)

Mr. Katsuhiko Tada, President, Tada Organic Farm Co., Japan

[Discussants]

Dr. Ryo Kohsaka, Visiting Research Fellow, United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS) (Operating Unit Ishikawa Kanazawa: OUIK) / Associate Professor, Faculty of Human Sciences, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University

Dr. Kalemami Jo Mulongoy, Visiting Professor, United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)

● Energy Efficient Housing in Asia - Barriers and Policy Drivers

Room 411&412 [S2-3]

The combination of rapidly changing urban housing patterns and concerns over energy security makes energy-efficient housing (EEH) a critical issue for developing Asia. We must discuss the barriers that stakeholders face in uptake, and how government policies can facilitate a transition to more sustainable housing. This session addresses the above questions, drawing from initial findings from research projects currently being implemented in China, India, Thailand and the Philippines.

[Moderator]

Dr. Magnus Bengtsson, Director, Sustainable Consumption and Production Group, IGES

[Speakers]

Mr. Lewis Akenji, IGES Fellow

Dr. Patrick Schroeder, International Advisor, China Association for NGO Cooperation (CANGO), China

Mr. Sangeeth Varghese, Chairman and Managing Director, LeadCAP Knowledge Solutions Private Limited, India

Mr. Fei Guo, Researcher, Sustainable Consumption and Production Group, IGES

[Discussants]

Prof. Hidefumi Imura, Senior Policy Advisor & Senior Fellow, Programme Management Office, IGES

Ms. Ikuyo Kikusawa, Policy Researcher, Kitakyushu Urban Centre, IGES

● Resilient Energy System towards Green Economy

[Japanese only]

Room 414&415 [S2-4]

The Great East Japan Earthquake and the Fukushima nuclear accident revealed the necessity of resilient energy system to realise green economy. Based on recent energy scenario studies including an IGES study, this session will discuss key challenges and necessary actions to promote resilient energy system in wider perspective including a resilient regional economy as well as a resilient energy supply against disasters.

[Moderator]

Dr. Satoshi Kojima, Director, Economy and Environment Group, IGES



[Keynote Speakers]

Prof. Hiroyuki Uesaka, Professor, Faculty of Child Development and Education, Toyama University of International Studies  
Dr. Takeshi Kuramochi, Associate Researcher, Climate Change Group, IGES

[Panellist]

Prof. Hiroki Hondo, Professor, Graduate School of Environment and Information Sciences, Yokohama National University

Day 2 25 July [Wed]

9:00-10:45 Plenary Session 3

Climate Change: The Way Forward for Climate Regime after Durban Room 503 [P-3]

Prominent figures will discuss the outcomes of the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) 17th Conference of the Parties (COP17) in Durban and the issues beyond. Focus will be on two key issues: how to increase the ambition level of mitigation efforts to hold the global average temperature rise below 2 degrees Celsius; and how to address the issue of equity and common but differentiated responsibility and respective capability (CBDR/RC).

[Moderator]

Prof. Akio Morishima, Chair of the Board of Directors, Japan Climate Policy Center

[Keynote Speakers]

Dr. Young-Woo Park, Regional Director & Representative for Asia and the Pacific, United Nations Environment Programme, Regional Office for Asia & the Pacific (UNEP-ROAP)  
Mr. Tom Athanasiou, Executive Director, EcoEquity

[Discussant]

Prof. Katsunori Suzuki, Director & Professor, Environment Preservation Center, Kanazawa University

11:00-12:30 Parallel Sessions

Domestic Climate Actions after Durban Room 503 [S3-1]

This session gives an update on domestic climate actions in major economies and discusses how each country can contribute to collective action toward achieving the 2 degrees Celsius target. Experts from China, India, Indonesia, Japan and Germany are invited to provide their insights.

[Moderator]

Prof. Hironori Hamanaka, Chair of the Board of Directors, IGES

[Panellists]

Prof. Dr. Miranda A. Schreurs, Director of the Environmental Policy Research Institute, The Freie Universität Berlin  
Prof. Yukari Takamura, Professor, Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University  
Prof. Priyadarshi Shukla, Professor, Public System Group, Indian Institute of Management, Ahmedabad, India  
Prof. Rizaldi Boer, Executive Director, Centre for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia and Pacific, Bogor Agriculture University, Indonesia  
Prof. Jusen Asuka, Director, Climate Change Group, IGES /  
Professor, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University

Development of Smart Communities in Asian Cities Room 502 [S3-2]

This session introduces a smart community developed in the Higashida area of Kitakyushu City, Japan and the city's approaches in extending support to develop similar models in Surabaya, Indonesia and Putrajaya, Malaysia in cooperation with the Government of Japan. This session discusses the constraints and challenges in disseminating similar approaches in terms of legal, institutional and technical aspects with a focus on links with the national grid, and the potential of a city-to-city cooperation modality to promote these activities.

[Moderators]

Mr. Toshizo Maeda, Acting Director, Kitakyushu Urban Centre, IGES  
Ms. Ikuyo Kikusawa, Policy Researcher, Kitakyushu Urban Centre, IGES

[Panellists]

Mr. Mohd. Rosli Abdullah, Senior Under Secretary, Green Technology Sector, Ministry of Energy, Green Technology and Water, Government of Malaysia  
Mr. Gingin Ginanjar, Landscaping Section, Landscaping and Common Street Lighting Division, Cleanliness and Landscaping Surabaya City Council, Indonesia  
Mr. Yoshinori Furukawa, Director, Smart Community Department, New Energy and Industrial Technology Development Organization (NEDO), Japan  
Mr. Toshikazu Matsuoka, Chief Executive (Future City), Environment Bureau, City of Kitakyushu  
Mr. Motoshi Muraoka, Partner, Senior Executive Manager, Socio & Eco Strategic Consulting Sector, NTT Data Institute of Management Consulting, Inc.

Financial Innovations for Resilience: From the Tsunami in Tohoku to Climate Change in Bangladesh and Beyond Room 411&412 [S3-3]

This session will discuss the creation and delivery of innovative financial services, such as microfinance, to build resilience to natural disasters. Lessons will be drawn from the experiences of Asian developing countries as well as Japan. Global damage caused by natural disasters continues to increase rapidly, mainly driven by climate change. The rural poor in developing countries are particularly vulnerable to such disasters. However, as the tsunami and earthquake of March 2011 in east Japan reminded us, even technologically advanced countries are vulnerable to natural disasters, and the concept of resilience is equally as important for them as it is for developing countries.

[Moderators]

Dr. Henry Scheyvens, Director, Natural Resources Management Group, IGES  
Dr. Shinano Hayashi, Deputy Director, Natural Resources Management Group, IGES

[Speakers]

Dr. Mohammad Mahfuz Kabir, Senior Research Fellow, Bangladesh Institute of International and Strategic Studies (BIISS)  
Dr. Somsak Boromthanarat, Director, Asian Coastal Resources Institute Foundation (CORIN-Asia)  
Mr. Kyosuke Inada, Deputy Head and Advisor, Office for Climate Change, Global Environment Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)  
Mr. Hiroaki Saito, CEO, iLink Inc. (Sanriku Oysters Reconstruction Project)

[Panellists]

Prof. Qian Ye, Executive Director, International Project Office, Integrated Risk Governance Project (IRGP/IHDP), Beijing Normal University  
Dr. Md. Mosleh Uddin Sadeque, Interim Executive Director, Institute of Microfinance (InM)  
Dr. Md. Abdul Baqui Khalily, Professor, Department of Finance, University of Dhaka

12:40-14:05 Lunch Session

IGES White Paper IV “Greening Governance in Asia-Pacific” Room 502 [L-2]

The Fourth IGES White Paper, entitled “Greening Governance in Asia-Pacific”, offers recommendations for governance arrangements and policy solutions that are critical to accelerate the transition to a green economy, as without significant reform in the region global sustainable development will remain an under-implemented ideal rather than a new reality. During this official launch contributing authors will share their research results and discuss with the audience the institutional arrangements needed for regional sustainable development.

[Moderator]

Dr. Peter King, Senior Policy Advisor, IGES Regional Centre, Bangkok

[Speakers]

Mr. Hideyuki Mori, President, IGES  
Mr. Simon Olsen, Researcher, Governance and Capacity Group, IGES  
Dr. Yasuhiko Hotta, Deputy Director, Sustainable Consumption and Production Group, IGES  
Dr. Enrique Ibarra Gené, Policy Researcher, Natural Resources Management Group, IGES  
Mr. Kazuhisa Koakutsu, Deputy Director, Market Mechanism Group, IGES  
Dr. Abdessalem Rabhi, Policy Researcher, Kansai Research Centre, IGES  
Mr. Toshizo Maeda, Acting Director, Kitakyushu Urban Centre, IGES  
Mr. Masanori Kobayashi, Associate Professor, Yokohama National University Graduate School of Environment and Information Sciences

14:15-15:45 Plenary Session 4

Rio+20 Follow up

Room 503 [P-4]

Rio+20 held in June 2012 has promoted discussion on sustainable development in the 21st century context, and revitalised global commitments. Outcomes on green economy, institutional framework for sustainable development, framework for action and follow-up, means of implementation have numerous implications for sustainable development governance at all levels (global, regional, national and local). This session will have a view on how sustainable development governance would be strengthened at the global level, and discuss what kind of implications such a global movement will bring to Asia and the Pacific, particularly in terms of strengthening regional governance for sustainable development, and overall economies and social development.

[Moderator]

Prof. Ryokichi Hirono, Professor Emeritus, Seikei University

[Keynote Speakers]

Mr. Rae Kwon Chung, Director, Environment and Development Division,  
United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP)

Prof. Nay Htun, Professor, State University of New York, Stony Brook

[Discussant]

Mr. Surendra Shrestha, Director & Focal Point for Sustainable Development Goals (SDGs) at Rio+20 Secretariat

16:00-17:30 Parallel Sessions

Future Directions for IFSD: Post Rio+20

Room 503 [S4-1]

Several processes related to IFSD were set in motion at Rio+20, including creating a High Level Political Forum for Sustainable Development to replace the Commission on Sustainable Development (CSD), strengthening the United Nations Environment Programme, and a process to determine the functions of a High Level Representative for Future Generations. To ensure that these processes can deliver, actions at the global intergovernmental levels, is not enough, actions at regional, national and local levels are also necessary, as well as in sectors and by actors not traditionally associated with the sustainability agenda. Contributing to the idea of 'bringing the Rio+20 outcomes home', this session will emphasise implications in Asia and discuss which institutional changes are needed at regional, national and local levels, as well as how to integrate different economic sectors.

[Moderator]

Mr. Kazuhiko Takemoto, Senior Advisor to Minister of the Environment /  
Senior Fellow, United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)

[Speakers]

Ms. Tomoko Nishimoto, Director, Division of Regional Cooperation (DRC), United Nations Environment Programme (UNEP)

Dr. Hoi-seong Jeong, President Emeritus, Korea Environmental Policy and Administration Society

Dr. Monthip Sriratana Tabucanon, Senior Adviser, Senate Commission on Natural Resources and Environment,  
Office of the Parliament, Thailand

Dr. Mark Elder, Director, Governance and Capacity Group, IGES

Mr. Simon Olsen, Researcher, Governance and Capacity Group, IGES

Good Practices and Lessons Learned from Measurement, Reporting and Verification (MRV) of Mitigation Actions towards the Low Carbon Development in Asia

Room 502 [S4-2]

MRV (Measurement, Reporting, and Verification) of greenhouse gases (GHG) is essential to establish a low-carbon society. This session will discuss options and issues related to methodological and institutional frameworks for MRV of GHG emissions as well as emissions reduction, based on good practices and lessons learned from both developed and developing countries. It will explore how to establish effective methodologies and implementing institutions in Asia in the post-2012 climate regime from technical and political aspect.

[Moderator]

Mr. Taka Hiraishi, Senior Consultant, IGES (IPCC Inventories Programme Co-chair)

[Keynote Speaker]

Mr. Rae Kwon Chung, Director, Environment and Development Division,  
United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP)

[Speakers]

Ms. Mayumi Ishii, CSR and Environmental Management Division, LIXIL Corporation

Mr. K.N.Rao, Director (Energy & Environment), ACC Limited

Dr. Pongvipa Lohsomboon, Director of Carbon Business Office, Thailand Greenhouse Gas Mangement Organisation (TGO)

Dr. Yasushi Ninomiya, Director, Market Mechanism Group, IGES

Mr. Kazuhisa Koakutsu, Deputy Director, Market Mechanism Group, IGES

Knowledge Management and Community of Practice for Sustainable Development

Room 411&412 [S4-3]

The session will discuss how a community of practice can evolve and facilitate knowledge management and agenda setting for sustainable development and aim to identify key elements for the successful conduct of a community of practice. How can information and knowledge be shared and managed among a number of practitioners in promoting sustainable development? Are there any key elements for success?

[Moderator]

Dr. Daisuke Sano, Director, IGES Regional Centre, Bangkok

[Speakers]

Mr. David Galipeau, Knowledge and Innovation Management Practice Leader, UNDP Asia Pacific Regional Centre, Bangkok

Ms. Hina Lotia, Regional Coordinator, Asia, Climate & Development Knowledge Network (CDKN) /  
General Manager, Programme Development Department, LEAD Pakistan

[Panellist]

Dr. Peter King, Senior Policy Advisor, IGES Regional Centre, Bangkok

17:30-17:45 Closing Session

Closing

Room 503

Workshop

“Governance Challenges for Greening the Urban Economy: Co-Benefits and Beyond”

Prior registration not required

[Date and Time] 25 July 2012, 11:00–12:30

[Venue] UNU-IAS, 6F, International Organization Center, Pacifico Yokohama

Cities play a crucial role in facing the challenges to create a greener economy and the institutional framework for sustainable development. This session will discuss the concept of green economy in an urban context through the lenses of two recent publications released by IGES and UNU-IAS. One is a UNU-IAS policy paper on how to create the mechanisms for moving urban areas towards a greener economy. The other is an IGES edited book on low carbon transportation in Asia.

[Moderator]

Mr. Sumihiro Kuyama, Japan Habitat Association / UN Association of Japan /  
Former UN Assistant Secretary-General (Under-Secretary-General for UN Habitat)

[Speakers]

Dr. Jose A. Puppim de Oliveira, Assistant Director & Senior Research Fellow,  
United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)

Dr. Eric Zusman, Senior Policy Researcher, Climate Change Group, IGES

[Discussant]

Prof. Darko Radovic, Professor, Keio University

## スピーカー略歴 Speaker Profiles

(アルファベット順 / in alphabetical order)



### Mr. Mohd. Rosli Abdullah モハメド・ロズリ・アブドラ

Senior Under Secretary, Green Technology Sector,  
Ministry of Energy, Green Technology and Water, Government of Malaysia  
マレーシア国エネルギー・グリーン技術・水利省局長

Mr. Mohd Rosli Abdullah is the Senior Under Secretary for the Green Technology Sector, Ministry of Energy, Green Technology and Water. He joined the Ministry in Jun 2009.

He received his Bachelor of Science Degree in Civil Engineering from Memphis State University, USA. He obtained his Master in Environmental Management from the Flinders University, Adelaide, Australia.

He joined the Malaysia Civil Service in 1988. He has served in various ministries and agencies mostly dealing with planning and development, energy and the environment.

1988年マレーシア国政府官庁入庁。以来、各省庁や政府機関に従事し、中でも環境分野における推進及び計画事業に携わる。2009年よりマレーシア国エネルギー・グリーン技術・水利省に入省し、現在に至る。米国・メンフィス大学工学部土木工学科卒業、オーストラリア・フリンダース大学環境マネジメント修士課程修了。



### Mr. Lewis Akenji ルイス・アケンジ

IGES Fellow  
IGESフェロー

Lewis Akenji is currently a Research Fellow and Senior Consultant at IGES; his focus is on Sustainable Consumption and Production. Lewis has been Policy Coordinator and Director of International Affairs at the Central and Eastern European Network for SCP, and managed projects under the European Union PHARE/Transition Facility. He has also consulted with international organisations such as the United Nations Environment

Programme (UNEP), Consumers International, and the Asian Development Bank. He has a background in Sustainable Resource Management (Technische Universität München, Germany) and Environmental Diplomacy (University of Geneva, Switzerland). He has published on SCP, Environmental Economics and Sustainability Governance, and has been active in Marrakech Process consultations from the beginning. He was also one of the main organizers of the Global Research Forum on Sustainable Consumption and Production, which convened at Rio in June 2012 for the first time.

IGES持続可能な消費と生産グループのフェロー。SCPの中欧・東欧ネットワークのポリシー・コーディネーター及び国際担当ディレクター、欧州連合のPHARE（ポーランド・ハンガリー経済振興計画）の移行推進プログラムの下でプロジェクトを行った経験を有する。国際環境計画（UNEP）や、国際消費者機構、アジア開発銀行等の国際機関に対するコンサルタントとしての経験を有する。持続可能な資源管理（ドイツ・ミュンヘン工科大学）及び環

境外交（スイス・ジュネーブ大学）の学位を有する。SCP、環境経済及び持続可能なガバナンスについての論文・レポートの著者であり、マラケッシュプロセスにその発足当初より関わっている。2012年6月にリオで発足した持続可能な消費と生産におけるグローバル研究フォーラムの主催メンバーの一人である。



### Prof. Jusen Asuka 明日香 壽川

Director, Climate Change Group, IGES /  
Professor, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University  
IGES気候変動グループディレクター / 東北大学東北アジア研究センター教授

Graduating from the University of Tokyo (PhD), Prof. Asuka joined IGES in April 2010. Environmental and energy issues in Northeast Asia, especially in East Asia, where economic development is currently proceeding at a dramatic pace, is the focus of his work. Examining these issues in broad as well as multidimensional perspective, he seeks to clarify not only the historical process by which they emerged and the circumstances they

involve today, but also what forms of international cooperation are feasible for dealing with them. In particular, he employs the perspectives of political science, economics, sociology, and other social sciences to develop recommendations for treaties and protocols as well as for environmental taxation, emissions trading, and other specific domestic and international policies and measures designed to deal with problems such as global warming that lie beyond the power of any one country to solve.

経済発展の目覚ましいアジア地域の環境問題及びエネルギー問題に関して、その実態及び歴史的経過を解明するとともに、現在この地域でどのような国際協力が可能か、などの問いについて総合的かつ多角的に研究を行う。特に、地球温暖化問題や越境大気汚染問題のような、一国だけでは解決できない問題における条約、協定、議定書、そして環境税や排出量取引などの国内外における具体的な制度設計や政策のあり方に関して、政治学、経済学、経営学、社会学、哲学、倫理学などの社会科学の側面から追求し評価する。



### Mr. Tom Athanasiou トム・アタナジウ

Executive Director, EcoEquity  
EcoEquityエグゼクティブディレクター

Tom Athanasiou is a writer, speaker, and organizer. He is the coordinator of the Greenhouse Development Rights project. His principle interests are class division and global inequality, in the context of the global climate emergency. A simple way of putting this is that Tom seeks a global climate regime that is fair enough to actually work.

EcoEquity, together with the Stockholm Environment Institute, has developed *Greenhouse Development Rights*, a “reference framework” designed to mark out a fair-shares approach to emergency climate mobilization. The GDRs project, which remains extremely active, has been and promises to remain pivotal in the international climate equity debate. GDRs argues that, absent a deep commitment to developmental justice, we will likely fail to hold the warming within manageable limits, and this despite the coming techno-economic revolution.



Tom is the author of *Divided Planet: the Ecology of Rich and Poor*, *Dead Heat: Global Justice and Global Warming*, and (co-author) *Greenhouse Development Rights: The Right to Development in a Climate Constrained World*. He is now writing a new book, the working title of which is *A New Deal for the Greenhouse Century*.

Tom Athanasiou氏はオーガナイザーで、かつEcoEquity(米国のNGO)とストックホルム環境研究所が共同で設立した「温室効果開発の権利(Greenhouse Development Rights)」の調整役を務める一方、執筆活動及び講演活動に従事している。

「温室効果開発の権利」とは、気候変動に対する公平な分担のアプローチを定めるために設置された枠組みで、現在まで、気候変動の公平性に関する国際的な議論において極めて重要な役割を果たしてきた。「温室効果開発の権利」では、開発における正義(developmental justice)に取り組まなければ、技術・経済革新を持っても、温暖化を人間が管理できる範囲にまでに抑えることは不可能であると考えている。

主な関心は、世界的な気候変動の文脈における階級間の分断や不公平性、言い換えれば、公平な気候変動の国際枠組みである。著書には「Divided Planet: the Ecology of Rich and Poor」、「Dead Heat: Global Justice and Global Warming」、「Greenhouse Development Rights: The Right to Development in a Climate Constrained World(共著)」がある。現在は、「A New Deal for the Greenhouse Century」を執筆中である。



### Dr. Magnus Bengtsson マグナス・ベングソン

Director, Sustainable Consumption and Production Group, IGES  
IGES持続可能な消費と生産グループディレクター

He received his PhD in Environmental Systems Analysis in 2002 from Chalmers University of Technology in Göteborg, Sweden. In 2003 he moved to Japan where he took up a position as post doctoral research fellow at the University of Tokyo (UT) and worked on water demand forecasting and water demand management. Since he joined IGES in 2007, he conducts and leads research on a wide range of topics, mainly focusing on policy approaches towards Sustainable Materials Management and Sustainable Consumption in Asia and the Pacific. Magnus is a member of the Steering Group of the Chemicals in Products project run by UNEP; he is also a member of the Subsidiary Expert Group of the Regional 3R Forum in Asia, hosted by United Nations Centre for Regional Development (UNCRD), and lead author for waste management and chemicals for the Asia Pacific chapter of UNEP's 5th Global Environmental Outlook (GEO-5).

2002年スウェーデン・チャルマース工科大学にて環境システム分析の博士号取得。2003年に来日し、博士研究員として東京大学にて水需要予測と管理についての研究に従事。2007年よりIGESに勤務し、主にアジア太平洋地域における持続可能な資源管理と消費に向けた政策的アプローチに焦点を当て、広範囲の研究活動をリードしている。国連環境計画(UNEP)製品中の化学物質プロジェクトの主要メンバーであり、国連地域開発センター(UNCRD)が主催するアジア3Rフォーラムの専門家グループの一員でもある。また、UNEP「第5次地球環境概況(GEO5)」のアジア太平洋地域における廃棄物管理と化学物質についての章のリードオーサーである。



### Prof. Rizaldi Boer リザルディ・ボアー

Executive Director, Centre for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia and Pacific, Bogor Agriculture University, Indonesia  
ボゴール農科大学東南アジア太平洋気候変動リスク管理センター所長

Prof. Rizaldi Boer is currently Deputy Director of Centre for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia and Pacific of Bogor Agriculture University. He has been working on issues related to GHG mitigation strategies focusing on agriculture, forest and other land uses since 1998. Now, he is very active in conducting a number of studies related to policies toward low carbon development. Some of his recent works related to LCD are Low carbon development strategies of Bengkalis District-Riau Province that reduce pressure on peat-land ecosystems, and Reducing agricultural expansion into forests: Analysis of implementation and financing gaps. He obtained his PhD degree in Agriculture from University of Sydney, Australia in 1994.

ボアー教授は現在ボゴール農科大学の東南アジア太平洋気候変動リスク管理センター所長であり、特に農業、森林、土地利用に焦点をあてた温室効果ガス緩和戦略に関して1998年から取り組んできた。現在同氏は低炭素発展に向けた政策に関する数多くの研究に注力している。同氏は、1994年にオーストラリアのシドニー大学から農業博士の称号を得ている。



### Dr. Somsak Boromthanarat ソムサック・ボロンタナラット

Director, Asian Coastal Resources Institute Foundation (CORIN-Asia)  
アジア沿岸資源研究財団(CORIN-Asia)所長

Dr. Boromthanarat has expertise in natural resources and environmental ecosystem planning, policy analysis, and project implementation. He has graduate and post-graduate education in fisheries and biology and ecosystem budgeting. He has over ten years of practical experience in Integrated Coastal Zone Management, and Water Governance, and has a scientific background with broad knowledge of government and non government roles in resource management, regular systems and decision making processes.

He is an experienced program and project manager and has an inter-disciplinary perspective on planning, design and implementation in the development of a model environmentally and economically sustainable community livelihood projects.

自然資源・環境生態系計画、政策分析及びプロジェクトの実施における専門家。水産学・生物学・生態系の予算管理における学士号・博士号を持ち、統合的沿岸域管理、水ガバナンスにおいて10年以上にわたる実地経験を有している。また、科学的背景として資源管理、正規制度、及び意思決定プロセスにおける政府・非政府の役割に関する幅広い知識がある。

経験豊かなプログラム・プロジェクトマネジャーであり、環境的・経済的に持続可能なコミュニティでの生計プロジェクトモデルの立案、設計及び実施に関して統合的な視野を携えている。



### Ms. Joji Cariño ジョセリン・カリノ

Policy Advisor and Team Leader, Indigenous Peoples Capacity-Building Project for CBD Implementation, Indigenous Peoples' International Centre for Policy Research and Education (TEBTEBBA)

先住民政策提言・教育国際センター (TEBTEBBA)

生物多様性実施のための先住民能力開発プロジェクト政策顧問兼チームリーダー

Joji Cariño is an Ibaloi-Igorot from the Cordillera region, Philippines. Joji has worked as a policy advisor and European desk coordinator for the Tebtebba Foundation, (Indigenous Peoples' International Centre for Policy, Research and Education) with current responsibility as Team Leader, Indigenous Peoples' and Biodiversity Programme. She has worked for more than 30 years to promote respect for Indigenous peoples' rights at local, national and international levels - as an educator, community development worker, researcher/writer and policy advocate. Joji engaged with CBD issues from 1994 covering issues of forests, protected areas, freshwater issues, traditional knowledge and customary sustainable use, and access and benefit-sharing. She is the Coordinator of the Working Group on Indicators of the International Indigenous Forum on Biodiversity (IIFB), and has organised technical workshops on indicators relevant for Indigenous Peoples in the Strategic Plan for Biodiversity and on Indigenous Peoples' Well-being.

フィリピンのコルディリェラ行政地域出身のイバロイ・イゴロット族の一員です。テブテバ財団 (Tebtebba: 先住民政策提言・教育国際センター) のヨーロッパ支部コーディネーター及び政策アドバイザーとしての経験を持ち、現在は先住民と生物多様性プログラムのチームリーダーを担う。30年以上にわたり、教育者、コミュニティー開発支援者、研究者・著者、政策提言者として国際レベル・国家レベル・地方レベルにおいて先住民の権利を訴え、1994年からは森林、自然保護地域、淡水資源、伝統知識、持続可能な伝統的資源利用、遺伝資源へのアクセスと利益配分など、CBD関連の課題に取り組んでいる。生物多様性に関する国際先住民フォーラム (IIFB) の指標ワーキンググループコーディネーターも担っており、生物多様性戦略における先住民への配慮や先住民の福利を評価するための指標に関する技術的ワークショップを開催。



### Mr. Rae Kwon Chung チュン・ラエ・クウォン

Director, Environment and Development Division, United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP)

国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) 環境開発部部長

As Climate Change Ambassador, he led Korean climate negotiations up to COP 15 in Copenhagen in 2009. As division chief of UN ESCAP, he presented the concept of green growth at the 5th Ministerial Conference on Environment and Development and secured Ministerial Declaration on Green Growth in 2005 well before any other agencies came up with similar ideas.

As career diplomat, he served at Korean Missions at the UN and OECD. He attended global environmental conferences including Rio Earth Summit in 1992 and climate change conferences. He inserted the idea of compulsory licensing in Agenda 21 and proposed unilateral CDM and NAMA registry ideas during the climate change negotiations.

韓国の気候変動大使として、2009年のCOP15 (コペンハーゲン) まで韓国の気候交渉を指揮。また、国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) のディビジョン・チーフとして、2005年の第5回アジア太平洋環境と開発に関する閣僚会議 (MCED5) においてグリーン成長のコンセプトを発表し、閣僚宣言に貢献するなど、他の機関に先立ちグリーン成長の概念を推進した。

経験豊かな外交官として国連及び経済協力開発機構 (OECD) にも勤務。1992年の地球サミットや気候変動関係の会議等、地球規模の環境会議に数多く出席。気候変動に関する国際交渉において、強制実施権の概念をアジェンダ21に取り入れたほか、ユニラテラルCDMやNAMAの登録簿等について提案を行った。



### Prof. Eduardo Gallego Diaz エドワルド・ガレゴ・ディアツ

Director, Nuclear Engineering Department, Technical University of Madrid, Spain

マドリード工科大学原子力工学部長

His expertise is in the field of assessment of radiological and economic consequences of nuclear accidents, emergency planning and related problems. He graduated from the Technical University of Madrid (UPM) with Ph.D. in Engineering. He was assigned as titular Professor at UPM in 1993. In 2011, he assumed his current post. He has contributed to various international working groups of experts, such as the Nuclear Energy

Agency of the Organisation for Economic Co-operation and Development (NEA/OECD) and International Atomic Energy Agency (IAEA). He has also collaborated with the International Commission on Radiological Protection (ICRP) in the Task Group producing ICRP Publication 111, "Application of the Commission's Recommendations to the Protection of People Living in Long-term Contaminated Areas after a Nuclear Accident or a Radiation Emergency" (2010).

専門は原子力事故の放射能・経済的影響の評価、緊急計画。マドリード工科大学大学院工学博士。1993年に同大学教授に就任、2011年より現職。スペイン原子力安全審議会、経済協力開発機構原子力機関 (OECD/NEA)、国際原子力機構 (IAEA) などの専門家会合に貢献した他、国際放射線防護委員会 (ICRP) 出版物111『原子力事故または放射線緊急事態後の長期汚染地域に居住する人々』(2010)の執筆にも参加。



### Mr. Gilles Hériard-Dubreuil ジル・ヘラルド・デュブリル

President, MUTADIS, France

MUTADIS所長

Hériard Gilles Dubreuil, born 1957, received an education in mathematics and human sciences, independent researcher on governance and democracy in the context of hazardous activities in several fields research in France and at international level. He has coordinated the European research programs (TRUSTNET and TRUSTNET IN ACTION) on risk governance from 1996 to 2006. He was engaged in the context of Chernobyl since 1991, where



after several years of research on psychological and social consequences of this accident, he has initiated several participatory programs on the rehabilitation of living conditions in the contaminated territories Belarus involving the population of these territories (ETHOS, CORE). In the last fifteen years, he has also initiated research on very long term governance in the context of radioactive waste management and coordinated several European research programs in this field (COWAM and COWAM IN PRACTICE). He creates in 1990 the independent research group MUTADIS which operates in the field of governance risk activities and their consequences (very long-term pollution, for example) and notably on the practical implementation of the Convention of Aarhus (1998). He is also responsible for several initiatives in the field of sustainable development including the creation of the cooperative society Landes Bois Energie (Wood Energy) in 2000 in the French region of Aquitaine. It is also forester. It has recently established a fund to promote the development of democratic culture in Europe (Fund for Democratic Culture).

1957年生まれ、専門は数学と人間科学分野。危険な作業を背景とするガバナンスと民主主義について、フランスと国際レベルで独自の研究を行う。1996～2006年にはリスクガバナンスについて欧州の研究 (TRUSTNET and TRUSTNET IN ACTION) の調整を行った。1991年からはチェルノブイリの調査を行い、事故について数年にわたって心理学的・社会的側面の研究をした。このときベラルーシの汚染区域における生活状況の回復について、これらの地域の人々による参加型プログラム (ETHOS, CORE) を先導した。最近15年間では放射性廃棄物の管理に関する長期的ガバナンスの研究と、同分野における欧州での調査 (COWAM and COWAM IN PRACTICE) のとりまとめを行っている。1990年には独立研究グループであるMUTADISを設立、MUTADISはリスクの高い活動のガバナンスとその影響 (長期にわたる汚染等)、特に、オース条約 (1998) の具体的な運用について調査を行っている。

2000年にはフランス・アキテーヌ地方でのLandes Bois Energie (Wood Energy) の創設など持続的な開発に関するいくつかの分野で責任者を務めている。またこのLandes Bois Energieは森林監督機関でもあり、欧州民主主義文化開発推進基金 (Fund for Democratic Culture) を近年創設している。



**Dr. Mark Elder** マーク・エルダー  
Director, Governance and Capacity Group, IGES  
IGESガバナンスと能力グループディレクター

He has been leading research projects on environmental governance, biofuels, economic integration and environment, transboundary air pollution, and local initiatives. Other research interests include renewable energy and waste/recycling. He received a Ph.D. in political science from the Department of Government, Harvard University. He joined IGES from September 2006.

環境ガバナンス、バイオ燃料、経済統合と環境、越境大気汚染、そして地域ガバナンスなどの研究プロジェクトを指揮してきた。その他の研究対象は、再生産可能な燃料や廃棄物とリサイクルの関係など。ハーバード大学の行政学部にて政治学の博士号を取得、2006年9月にIGESのメンバーとなった。



**Dr. Junichi Fujino** 藤野 純一  
Senior Researcher, Center for Social and Environmental Systems Research,  
National Institute for Environmental Studies (NIES)  
国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター主任研究員

He joined NIES located in Tsukuba, 2000. He is one of the main members to develop the Asia-Pacific Integrated Model (AIM) to estimate climate change impact and to assess policy options for stabilizing global climate, her results were cited by IPCC 4th Assessment Report (AR4). He was one of the lead authors of IPCC Special Report on Renewable Energy Sources and Climate Change Mitigation (SRREN), 2011. He reported energy and climate change scenarios after Fukushima to Central Environmental Council by Ministry of the Environment Japan, and also serving as an advisory committee member of "FutureCity" initiatives under Ministry of the State Japan. He received his B.S., M.S and Ph.D. in Electrical Engineering from the University of Tokyo. He is so shocked by the nuclear power accident at Fukushima caused by the Great East Japan Earthquake, because he has engaged in energy and climate change research since 1994. So he has been supporting revitalization of Fukushima. He is recently interested in sustainable city design and transition management and wants to be social system designer.

1972年5月生まれ。2000年4月より国立環境研究所。AIMプロジェクトメンバー。日本・アジア低炭素社会シナリオづくりに従事。中央環境審議会地球環境部会に向けたエネルギーの選択肢づくり、「環境未来都市」の委員としてコンセプト作りや評価を行う。3.11以降ご縁があり、飯舘村の復興計画推進委員会、福島県再生可能エネルギー専門部会、会津みしま自然エネルギー研究会、ふくしま会議2011等で微力ながら福島の復興にかかわる。主著書に「低炭素社会に向けた12の方策」(日刊工業新聞社)、小中学生向けの「みんなの未来とエネルギー」(文溪堂)。地球環境と家庭環境の両立が永久の悩み。



**Mr. Masaya Fujiwara** 藤原 聖也  
Principal Fellow, Programme Management Office, IGES  
IGESプログラムマネジメントオフィスプリンシパル・フェロー

Mr. Fujiwara attended Rio+20 and its preparatory meetings held 13-22 June 2012 in Brazil as a main coordinator of IGES activities such as side events and exhibition at Japan Pavilion. He is a keynote speaker for the IGES Seminar at Japan Pavilion, "Towards Sustainable and Resilient Development in Asia-Pacific Region – Vision, Goals, and Implementation –" and a participant of various other side events, making impacts on both inter governmental processes and among various stakeholders.

藤原氏はIGESのメイン・コーディネーターとして2012年6月13日～22日までブラジルで開催された国連持続可能な開発会議 (Rio+20) 本会合及び関連準備会合、そしてIGES主催サイドイベントやジャパンパビリオン展示ブースにおいて、IGESの研究活動を支援・統括。ジャパンパビリオンで開催されたIGESセミナー「持続可能でリジリエントなアジア太平洋地域の発展を目指してービジョン、目標、実践ー」では基調講演を務めた。その他のサイドイベントにも出席し、政府間プロセス及び様々なステークホルダーに対し政策提言等を行った。




**Mr. Yoshinori Furukawa** 古川 善規

Director, Smart Community Department, New Energy and Industrial Technology Development Organization (NEDO), Japan

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) スマートコミュニティ部主幹

Yoshinori Furukawa is currently Director, Smart Community Department, New Energy and Industrial Technology Development Organization. He entered NEDO in April, 1991 and had been in charge of Industrial Technology Dep, Advanced Industrial Technology Dep. In January, 1999, temporary transferred for Ministry of Economy, Trade and Industry. In May, 2001, returned to NEDO and had been in charge of Biotechnology.

1991年4月、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 入構。産業技術開発部、環境技術開発室、応用技術開発を経て、1999年1月より経済産業省製造産業局生物化学産業課へ出向。2001年5月よりNEDOバイオテクノロジー・医療技術開発部へ着任、2012年4月より現職。


**Mr. David Galipeau** デビッド・ガリポー

Knowledge and Innovation Management Practice Leader  
UNDP Asia Pacific Regional Centre, Bangkok

国連開発計画アジア太平洋地域センター (バンコク) 知識と革新管理実践リーダー

For the past 20 years, David's Communications and knowledge management (KM) experiences cross-over both the traditional and digital channels and lie within the spectrum of upstream strategic planning as well as downstream project implementation.

David joined the dot.com frenzy of the late 90's and founded digital publishing, multimedia and TV production company in Germany focusing on cross-channel strategies and aligning traditional with new media channels. Both companies were successfully sold in 2000.

David joined the United Nations as the Web Manager for UNAIDS. Afterwards, he was selected as Chief of the Web and Knowledge Management Unit at the United Nations Conference on Trade and Development (UNCTAD) and is currently the Asia-Pacific Regional Knowledge and Innovation Management Practice Leader for UNDP. Based in Bangkok, Thailand, he is responsible for a range of 24 countries from Iran and Afghanistan to Fiji in the Pacific.

David holds a BA, MBA and is a PhD candidate in Knowledge and Innovation Management (KIM) at the Institute for Knowledge and Innovation South-East Asia (IKI-SEA), University of Bangkok. He will write his dissertation on Incubation models and their impact on developing nations and continues to promote research on the beneficial effects on internet technology on society and institutional organizations.

過去20年にわたり、デビッド氏はコミュニケーションと知識管理に携わっており、その範囲は、伝統的なメディアチャンネルとデジタルなメディアチャンネルの両方に及び、また、戦略的プランニング (上流) からプロジェクト実施経験 (下流) に亘っている。

デビッド氏は、1990年代のドットコム産業の隆盛の中、デジタル出版・マルチメディア・テレビ番組制作の会社を

ドイツで設立し、異なるメディアチャンネル間の戦略や、伝統的なメディアチャンネルと新しいチャンネルの融合に注力した。これらの会社は、2000年に成功裏に売却された。

デビッド氏は、国連共同エイズ計画 (UNAIDS) のウェブマネージャーとして国連に参画。その後、国際連合貿易開発会議 (UNCTAD) のウェブと知識管理部のチーフに選任され、現在は国連開発計画 (UNDP) のアジア太平洋地域知識と革新管理実践リーダーに就いている。タイのバンコクを拠点に、イラン・アフガニスタンから太平洋のフィジーに至る24カ国を担当している。

デビッド氏は、学士・経営学修士であり、現在はバンコク大学の知識と革新東南アジア研究所 (IKI-SEA) において、知識と革新管理 (KIM) の後期博士課程である。博士論文は発展途上国におけるインキュベーションモデルとそのインパクトについてであり、社会組織・産業組織に対しインターネット技術がもたらす有益な効果に関する研究を更に進めていく予定である。


**Mr. Gingin Ginanjar** ギンギン・ギナンジャー

Landscaping Section, Landscaping and Common Street Lighting Division,  
Cleanliness and Landscaping Surabaya City Council, Indonesia

インドネシア国スラバヤ市美化・景観局道路景観課職員

Bogor University of Agriculture Landscape Architecture SP (Bachelor of Agriculture). Currently he engages in administrating environmental conservation at Kitakyushu Asian Center for Low Carbon Society, the Environment Bureau of Kitakyushu city. He leads and arranges for international environmental cooperation between Surabaya city and Kitakyushu city.

ボゴール大学農学部景観建築学科卒業。現在、北九州市環境局 (アジア低炭素化センター) で環境保全行政に関する業務に従事しながらスラバヤ市と北九州市との国際環境協力の調整役を担っている。


**Mr. Fei Guo** 郭 非

Researcher, Sustainable Consumption and Production Group, IGES

IGES持続可能な消費と生産グループ研究員

His research interests include green buildings, building energy efficiency and conservation, and renewable energy application in buildings, on both technology and policy sides. He ever worked for Beijing Institute of Architectural Design (BIAD) in designing mechanical systems for buildings in China and Africa. He received a M.S. in Mechanical Engineering from the Department of Building Science, Tsinghua University in China and is also

about to complete his Ph.D. in Energy and Environmental Policy from the School of Engineering, University of Delaware in the U.S.

環境配慮型建築物、住宅における省エネルギー・エネルギー保全、建物における再生可能なエネルギー利用について研究。北京市建築設計研究院 (BIAD) では中国とアフリカにおける建築物の機械システムを設計。中国

清華大学建築技術科において機械工学の修士を取得。米国デラウェア大学工学系研究科においてエネルギーと環境政策の博士号を取得予定。



## Prof. Hironori Hamanaka 浜中 裕徳

Chair of the Board of Directors, IGES

IGES理事長

Hironori Hamanaka, a Professor at Keio University, took up the position of chair of IGES Board of Directors in April 2007. Before joining Keio University, he was the Vice-Minister for Global Environmental Affairs at the Ministry of the Environment. He served with the Government of Japan for more than 35 years, mostly in the field of environmental policies, before he left in 2004.

Over the last 9 years, he has devoted his administrative career to intergovernmental negotiations in the areas including: the Kyoto Protocol and its implementing rules; major agreements in the field of sustainable development, such as the Johannesburg Plan of Implementation agreed at the World Summit on Sustainable Development in 2002; and the development of national policies to implement international agreements, most notably the Kyoto Protocol. Based on his professional career, he served as a Co-chair of the Compliance Committee under the Kyoto Protocol and the Chair of its Facilitative Branch from 2006 to 2008. He gained a B.A. in Engineering from the University of Tokyo in 1967.

1967年東京大学工学部都市工学科卒業。1969年4月厚生省入省、1971年7月環境庁創設と共に同庁に出向。その後、外務省出向（経済協力開発機構日本政府代表部）等を経て、1995年7月同企画調整局地球環境部長、2001年1月環境省地球環境局長、同年7月同地球環境審議官。2004年7月環境省を退職、慶應義塾大学環境情報学部教授に着任。2007年4月よりIGES理事長、2011年4月より慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授に就任、現在に至る。

35年以上にわたり、環境省において地球環境政策の分野で活躍。特に、京都議定書とその実施ルールに関する政府間の交渉、2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議で同意されたヨハネスブルグ実施計画などの持続可能な開発分野の主要な合意、また、国際的な環境合意（特に京都議定書）を実施するための国家政策の作成に尽力。2006年から2008年まで京都議定書遵守委員会共同議長及び同委員会促進部議長。



## Prof. Sachihiko Harashina 原科 幸彦

Professor, Faculty of Policy Informatics, Chiba University of Commerce /  
Professor Emeritus, Tokyo Institute of Technology

千葉商科大学政策情報学部教授 / 東京工業大学名誉教授

Graduating from Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech) 1969, then received Doctor of Engineering. After working at the National Institute for Environmental Studies, he moved back to Tokyo Tech as Associated Professor, then, Professor, and became Dean of the school. His current position started from 2012. He also had been giving TV lectures at the Open

University of Japan concurrently as Guest Professor. His field is environmental planning and policy making, especially focusing on public participation and consensus building. He had been served as President of the International Association for Impact Assessment, and also as President of the Japan Association for Planning Administration. He contributed not only to make environmental impact assessment systems in Japan but also to make environmental and social consideration systems in international cooperation for such a major organization as the Japan International Cooperation Agency (JICA). He received JICA Prize for his contribution and won other prizes and awards from academic societies and national government.

1969年東京工業大学卒。工学博士。国立公害研究所（現・国立環境研究所）を経て東京工業大学助教授、教授、研究科長を務め、2012年より現職。この間、放送大学でも環境アセスのテレビ講義を担当。環境計画・政策が専門。参加と合意形成研究。国際影響評価学会（IAIA）会長、日本計画行政学会会長等を歴任。国内のアセス制度化だけでなく、国際協力機構（JICA）など日本の国際協力における環境社会配慮制度づくりにも貢献。JICA理事長賞や関連諸学会の学会賞を受賞。



## Dr. Shinano Hayashi 林 信濃

Deputy Director, Natural Resources Management Group, IGES

IGES自然資源管理グループ副ディレクター

Dr. Hayashi graduated from Keio University (BA in economics), and earned his Ph.D. from University of Connecticut after working as a foreign exchange officer at Sanwa (UFJ) Bank. His major is Agricultural Economics, and worked as an environmental consultant for GE, Goldman-Sachs and other major companies, and was an assistant professor at Temple University Japan before he started his career in IGES. His current research themes are climate change adaptation in agriculture, and Alternative Risk Transfer for natural disaster.

慶應義塾大学経済学部卒業。三和銀行・UFJ銀行勤務後、米国コネチカット大学博士課程修了。専攻は農業経済学。環境コンサルタント（GE、Goldman-Sachs等外資系企業を担当）、テンブル大学経済学部助教授を経て、現職。農業における気候変動適応策や自然災害に対する金融商品による代替的リスク移転（Alternative Risk Transfer）を中心に研究を行っている。



## Ms. Masnellyarti Hilman マスネリヤティ・ヒルマン

Deputy Minister for Hazardous Substances, Hazardous Waste and Solid Waste Management, Ministry of Environment, Republic of Indonesia

インドネシア政府環境省有害性物質・有害性廃棄物及び固形廃棄物管理担当副大臣

Mrs. Hilman is an environmental specialist, government official and lectures. She holds a Master of Science (M.Sc) from Colorado School of Mines, USA. Her undergraduate was from Padjajaran University in Bandung Indonesia. She also has been trained in several countries in related to environmental issues.



She is working for the Ministry of Environment (MoE) Republic of Indonesia from 1981 to present and she has been assigned to be a several ranking levels in the MoE Republic of Indonesia. And now, her position is a Deputy Minister for Hazardous Substances, Hazardous Wastes and Solid Wastes Management. And during her assignment as a Deputy Minister, she also has been assigned to be several National Focal Points related to Stockholm Convention on Persistent Organic Pollutants (POPs), Rotterdam Convention on the Prior Informed Consent Procedures for Certain Hazardous Chemicals and Pesticides in International Trade, Basel Convention on the Control of Transboundary Movements of Hazardous Wastes and their Disposal and she also become a Member of Board of Trustees for IGES. During her assignment as Deputy Minister, she has been attended many environment international meetings as an Indonesian Head of Delegation or Member of Delegation.

環境スペシャリスト、政府職員、そして講師を務める。米国・コロラドスクールオブマインズの科学修士号を取得、学士号はインドネシア・バンドンにあるパジャジャラン大学から取得。その他各国で環境関連のトレーニングを受ける。

1981年から現在までインドネシア環境省に勤務、ハイレベルの任務に従事する。現在のポジションは、有害物質、有害廃棄物、固形廃棄物管理担当副大臣である。副大臣として残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約、国際貿易の対象となる特定の有害な化学物質及び駆除剤についての事前のかつ情報に基づく同意の手續に関するロッテルダム条約、有害廃棄物の国境を越える移動及びその処分の規制に関するバーゼル条約のナショナル・フォーカル・ポイントとして任命され、またIGESの評議員メンバーとなる。副大臣の任期中、数々の環境国際会議にインドネシア代表団長、団員として出席。



**Mr. Taka Hiraishi** 平石 尹彦

Senior Consultant, IGES (IPCC Inventories Programme Co-chair)  
IGES上級コンサルタント(IPCCインベントリープログラム共同議長)

B.Sc. (1966) and M.Sc. from Industrial Chemistry (1968) from Tokyo University. Joined Ministry of Labour. Moved to the newly-established Environment Agency in 1971, and worked in the fields of offensive odour, acid rain, ozone layer, hazardous wastes, hazardous chemicals and water pollution (Director, Water Pollution Control Division, Environment Agency). Environment Attache (liaison with UNEP) and Second Secretary

for technical co-operation at the Embassy of Japan in Kenya. Principle Administrator, Chemical Division, Environment Directorate, OECD. Worked for UNEP in 1989-98, including Assistant Executive Director for Environmental Information and Assessment. Board of Directors, IGES from 2002 to March 2012.

Currently, Counsellor, and Senior Consultant, IGES (Senior Consultant since 1999.) Special Advisor to the Minister of the Environment, Japan. Member, IPCC Bureau and Co-chair, IPCC Inventories Task Force Bureau.

1966年東京大学工学士、68年同大学工業化学修士。労働省、公害対策本部を経て、71年に設置された環境庁へ。悪臭公害、酸性雨対策、オゾン層対策、有害廃棄物対策、有害化学物質対策、水質汚濁対策など公害対策の諸分野で勤務。ケニア大使館(環境・技術協力)、OECD事務局環境局化学品部勤務。環境庁水質保全局水質規制課長を経て、89年からUNEP事務局。同環境アセスメント・情報局長の後UNEP退職。99年国立環境研究所客

員研究官、IGES上級コンサルタント。2002年-12年3月IGES理事。現在、IGES参与・上級コンサルタント、環境省参与。IPCCビューロー委員、温室効果ガス・インベントリータスクフォース共同議長など。



**Prof. Ryokichi Hirono** 廣野 良吉

Professor Emeritus, Seikei University  
成蹊大学名誉教授

Graduated in 1958 from the University of Chicago in Economics, worked as research assistant at the Institute of Industrial relations, University of California, and as Professor at Seikei University, Tokyo and currently Professor Emeritus, Seikei University and Visiting Professor, National Graduate Institute for Policy Studies, Tokyo. Also, taught at universities in Africa, Asia, Europe, North America and worked at senior management posts at the United Nations, UNDP and other international organizations. Served in Japan on several government advisory councils and board of trustees and directors of a number of research institutes, foundations and civil society organizations.

1958年米国シカゴ大学大学院経済学研究科卒業後、カリフォルニア大学バークレー校産業関係研究所所長助手、日本能率協会エコノミスト、成蹊大学経済学部教授を経て、現在は成蹊大学名誉教授、国立政策研究大学院客員教授。その間、欧米アジア諸国で客員教授、国際連合等国際機関で上級管理職勤務。国内では、政府各種審議会委員、研究機関、財団法人、社団法人、NPO法人等で理事を兼務。著書論文：和文・英文多数。



**Prof. Hiroki Hondo** 本藤 祐樹

Professor, Graduate School of Environment and Information Sciences,  
Yokohama National University  
横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

He graduated from Tokyo Institute of Technology with a Master of Science in 1991, and received a Doctor of Energy Science from Kyoto University in 2011. He is also working in The University of Tokyo, Osaka Prefecture University, and The Open University of Japan as a lecturer, and in Waseda University as a research fellow. His main research areas are: Technology Assessment, System Analysis, Life Cycle Assessment/Analysis (LCA). More recently, he

has been interested in energy technology assessment from a socio-psychological perspective, focusing on effects of energy technologies such as solar photovoltaic systems on people's awareness and behavior.

1991年に東京工業大学大学院修士課程を修了、2011年に京都大学にてエネルギー科学博士を取得。東京大学、大阪府立大学及び放送大学にて非常勤講師、早稲田大学現代政治経済研究所の特別研究員を兼任する。専門は、技術評価、システム分析、ライフサイクル評価/分析(LCA)。最近、太陽光発電システムなどエネルギー技術が人々の意識や行動に与える影響に焦点を当て、社会心理学的な観点からのエネルギー技術評価に取り組んでいる。




**Dr. Yasuhiko Hotta** 堀田 康彦

Deputy Director, Sustainable Consumption and Production Group, IGES  
IGES持続可能な消費と生産グループ副ディレクター

He holds Dphil in International Relations from University of Sussex in 2004. Before joining IGES in September 2005, he was a project assistant of UNU/Zero Emissions Research Initiative at United Nations University/Institute for Advanced Studies Contracted Researcher (Industrial Policy Area), Mitsubishi Research Institute, Inc. He has been involved in both policy initiatives and research projects in relation to sustainable resource circulation such as G8's

3R Initiative and Working Group for 3R Policies for Southeast and East Asia at Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA). Currently, he is a member of several advisory committees for Ministry of the Environment Japan including Committee for International Promotion of Recycling Industries as well as Committee for Examination of International Resource Circulation.

2004年にサセックス大学から博士号(国際関係論)を取得。国連大学ゼロエミッション研究構想プロジェクト助手、(株)三菱総合研究所嘱託研究員(産業政策分野)などを経て、2005年9月からIGES勤務。これまでに、G8の3Rイニシアティブや、ERIAの3R作業部会等、循環型社会構築に関連する政策イニシアティブや研究プロジェクトに関わってきている。環境省の静脈産業海外展開促進有識者会合委員や、国際資源循環に関する調査検討会委員。


**Prof. Nay Htun** ネイ・トゥーン

Professor, State University of New York, Stony Brook  
ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校教授

Nay Htun is Research Professor, State University of New York at Stony Brook.

He is Hon. Patron Myanmar Development Research Institute; Founding Patron Myanmar Green Economy Green Growth, GEGG Myanmar; Visiting Professor and Fellow Imperial College London; Visiting Professor and Advisor Chulabhorn Research Institute, Bangkok Thailand; Hon. Prof. Tongji

University, Shanghai, China.; Emeritus Trustee International Vaccine Institute, Seoul Korea.

He was formerly UN Assistant-Secretary General with UNDP and UNEP; and was Member of the high-level China Council for International Cooperation on Environment and Development, CCICED; Beijing, China; Stockholm Environment Institute, Sweden; International Council of Scientific Unions, Advisory Council on the Environment, Paris, France.

ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校教授。ミャンマー開発研究所の名誉パトロンであり、ミャンマーのグリーン経済グリーン成長(GEGG)の創立にも尽力。また、インペリアルカレッジ(イギリス・ロンドン)の客員教授兼フェロー、ジュラポン研究所(タイ・バンコク)の客員教授兼アドバイザー、同済大学(中国・上海)の名誉教授も務めている。また、国際ワクチン研究所(韓国・ソウル)の名誉理事も務めている。

国連開発計画(UNDP)と国連環境計画(UNEP)では事務局長補佐など要職を歴任。環境と開発に関する国際協力のハイレベル中国委員会(中国・北京)のメンバーを務めたほか、ストックホルム環境研究所(スウェーデン)での要職や国際学術連合会議(フランス・パリ)の環境諮問委員会役員の経験もある。


**Dr. Enrique Ibarra Gené** エンリケ・イバラ ジェネ

Policy Researcher, Natural Resources Management Group, IGES  
IGES自然資源管理グループ研究員

An economist by trade, Dr. Ibarra Gené completed his Doctorate in Forest Policy at the University of Freiburg (Germany) in 2002. Before joining IGES in 2009, Dr. Ibarra Gené held a post-doctorate position at the Center for International Forestry Research (CIFOR). He is currently leading research on the financial feasibility of community carbon accounting in Indonesia within a REDD+ framework.

経済学者であるイバラ・ジェネ氏は2002年にドイツのフライブルク大学にて森林政策の博士号を取得。2009年にIGESに勤務する前は国際森林研究センター(CIFOR)にてポストドク研究に携わっていた。現在、REDD+枠組み内においてインドネシアの地域コミュニティ参加型炭素計測手法の財政上の実現可能性に関する研究を進めている。


**Prof. Hidefumi Imura** 井村 秀文

Senior Policy Advisor & Senior Fellow, Programme Management Office, IGES  
IGESプログラムマネジメントオフィス主任アドバイザー兼シニア・フェロー

Prof. Hidefumi Imura is Senior Policy Advisor of IGES, and Professor at the Global Cooperation Institute for Sustainable Cities of Yokohama City University. He studied statistical physics at the University of Tokyo. In 1974, he joined Japan Environment Agency, and then worked for the Ministry of Foreign Affairs and Yokohama Municipal Government. Having engaged in environmental policy making in national, international and local institutions, he moved to Kyushu University in 1988, where he was Professor at the Institute of Environmental Systems until August 2000. Then he was Professor for Environmental Systems Analysis and Planning, Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University until March 2010. Prof. Imura has a wide range of expertise covering domestic and international environmental policy issues, environmental technologies, environmental economics, and environmental information. He has carried out extensive studies on environmental policy issues in China.

横浜市立大学グローバル都市協力研究センター特任教授兼IGES主任アドバイザー。東京大学大学院にて統計物理学を学び、1974年環境庁入庁。外務省OECD日本政府代表部、横浜市公害対策局環境管理担当課長等を経て、1988年に九州大学工学部環境システム工学研究センター助教授。1991年、同教授。2000年より名古屋大学環境学研究科教授。専門は、環境システム分析、環境経済学、国際環境協力など。中国の環境問題について幅広い研究を行っている。著書に「中国の環境問題」「環境問題をシステムの的に考える」など。


**Mr. Kyosuke Inada** 稲田 恭輔

Deputy Head and Advisor, Office for Climate Change,  
Global Environment Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)  
国際協力機構 (JICA) 地球環境部気候変動対策室副室長

Kyosuke Inada is Deputy Head of Climate Change at JICA Global Environment Department, responsible for strategy planning and agency-wide coordination of climate change issues. He has been engaged in Japan's international development finance for nearly 20 years. He has served as 1) Representative, Beijing Office, 2) Deputy Director, Corporate Finance, contributing as a core member of the team that designed Japan

Carbon Finance Ltd., and 3) Deputy Director for operation in Africa. He studied Economics at Keio University, Japan, before obtaining a MSc in Environmental Change and Management at the University of Oxford. He studied Chinese at the Peking University.

海外経済協力基金 (OECF) 入社後、業務第2部 (中国・モンゴル向け円借款担当)、中国北京大学留学 (中国語研修)、旧国際協力銀行 (JBIC) プロジェクト開発部、北京駐在員、企業金融部 (民間連携投融资、日本カーボンファイナンス設立等担当)、開発第4部 (アフリカ向け円借款総括)、独立行政法人国際協力機構 (JICA) 総務部 (国会及び組織内総合調整)、英国オックスフォード大学留学を経て現職。


**Ms. Mayumi Ishii** 石井 真由美

CSR and Environmental Management Division, LIXIL Corporation  
株式会社LIXIL CSR・環境経営推進部環境推進グループ

Ms. Ishii joined INAX Corporation in 1995, where she was in charge of ISO14001 certification and environmental conservation activities. She moved to Environmental Affairs Office of INAX Headquarters in 2003 and engaged in ISO14001 certification of INAX group overall, Japan's Voluntary Emission Trading Scheme (JVETS) and the waste management authorization scheme. After then, due to the business integration between INAX, TOSTEM, SHIN-NIKKEI, SUNWAVE and TOEX into LIXIL Corporation, she moved to CSR and Environmental Management Division of LIXIL. Since 2011, Ms. Ishii has been reconstructing environmental management system of the LIXIL group over the world. She received her master of degree in Chemical Engineering from Graduate School of Engineering, Osaka Prefecture University, Japan.

1995年株式会社INAX入社。内装タイル工場にてISO14001認証及び環境保全業務を担当。2003年に本社環境推進室に異動し、INAXグループ統合ISO14001認証、自主参加型国内排出量取引制度 (JVETS)、産業廃棄物広域認定制度を担当。INAX、トステム、新日軽、サンウェーブ、東洋エクステリア各社の株式会社LIXILへの経営統合により、2011年から同社CSR・環境経営推進部において、LIXILグループ全体の環境マネジメントシステムを構築中。1995年大阪府立大学大学院工学研究科化学工学専攻修士課程修了。


**Dr. Naoko Ishii** 石井 菜穂子

Deputy Vice Minister of Finance for International Affairs, Ministry of Finance,  
Government of Japan  
財務省副財務官

Since joined the Ministry of Finance in 1981, Dr. Ishii has mainly been involved in the field of International Development Policy. From 2006-2010, she was stationed in Sri Lanka and served as Country Director of World Bank of Sri Lanka and Maldives. After appointed as Deputy Vice Minister of Finance in August, 2010, she was in charge of development, global environmental issues including climate change and biodiversity. She also

served as Japanese representative at Green Climate Fund design committee. From August, 2012 she will be inaugurated as CEO in Global Environment Facility (GEF).

1981年の財務省入省以来、主として国際分野とりわけ開発政策分野に携わる。2006年から2010年にはスリランカに駐在し、世界銀行のスリランカならびにモルディブ担当局長を務めた。2010年8月に財務省の副財務官に就任後は、開発問題、気候変動、生物多様性など地球環境問題、アジアにおける地域金融協力を担当するほか、緑の気候変動基金創設の委員会の日本代表を務める。2012年8月からは世界銀行グループの多国間基金であるGEF (Global Environment Facility) のCEOに就任予定。



### Dr. Hoi-seong Jeong ジョン・フェイソン

President Emeritus, Korea Environmental Policy and Administration Society  
韓国環境政策管理学会名誉会長

Hoi-Seong Jeong (Ph. D) is president of Institute for the Environment and Civilization, visiting professor of Hallym University and Gacheon University, vice president of Korean Academy of Environmental Science (KAES), president emeritus of Korea Environmental Policy and Administration Society.

He has served as president of Korea Environment Institute (KEI) and advised for many governmental institutions including the Presidential Commission on Sustainable Development (PCSD). He has also participated in many ENGOS' activities including the Citizens' Coalition for Environmental Justice.

He wrote several books and articles including *Understanding Environmental Policy* (2003, Parkyeongsa) (co-author), *Environment and Civilization at the Turning Point* (2009, Jimo), *Environmental Wisdom from the Traditional Way of Life* (2010, SNU Publication Center) (co-authors), *Environmental Policy* (2011, Parkyeongsa).

環境と文明研究所所長、翰林大学及び嘉泉大学客員教授、韓国環境科学学会 (KAES) 副会長、韓国環境政策管理学会名誉会長を務める。韓国環境政策・評価研究院 (KEI) にて理事長を務め、持続可能な開発のための大統領諮問委員会 (PCSD) など多数の政府機関に助言を行った。また、経済正義実践市民連合などの多数の NGO の活動にも参加。*Understanding Environmental Policy* (2003年、Parkyeongsa社、共著)、*Environment and Civilization at the Turning Point* (2009年、Jimo社)、*Environmental Wisdom from the Traditional Way of Life* (2010年 SNU Publication Center社、共著)、*Environmental Policy* (2011年、Parkyeongsa社) 等、研究論文・著書多数。



### Dr. Mohammad Mahfuz Kabir モハマド・マフズ・カビール

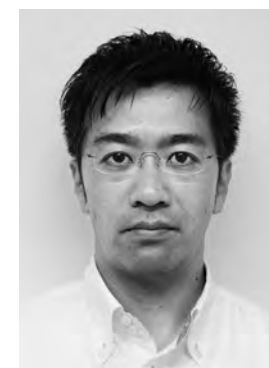
Senior Research Fellow,  
Bangladesh Institute of International and Strategic Studies (BISS)  
バングラデシュ国際戦略研究機関 (BISS) 上席研究員

Dr. Mohammad Mahfuz Kabir is a professional economist. Currently he is a Senior Research Fellow at Bangladesh Institute of International and Strategic Studies (BISS), Dhaka. He holds a PhD in Economics from the School of Economics and Finance, Curtin University, Australia. He was a researcher of External Sector and National Security components of background studies of the Sixth Five Year Plan (2011-2015) of the Government of Bangladesh. His

areas of interest include microfinance, macroeconomics, environmental and disaster economics, household survey, time series and panel data econometrics, partial and computable general equilibrium modeling.

ダッカを拠点とするバングラデシュ国際戦略研究機関 (BISS) の上席研究員を務める経済学者。オーストラリア Curtin 大学の School of Economics and Finance で博士号を取得。バングラデシュ政府の第6期5カ年計画 (2011-2015年) における背景的研究として外部セクター及び国家安全コンポーネントの研究を行った。専門

分野は、マイクロファイナンス、マクロ経済学、環境・災害経済学、家計調査、時系列分析及びパネルデータ計量経済分析、部分均衡・CGEモデルである。



### Prof. Norichika Kanie 蟹江 憲史

Associate Professor, Department of Value and Decision Science,  
Graduate School of Decision Science and Technology, Tokyo Institute of Technology  
東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻准教授

Norichika Kanie is an associate professor at the Graduate School of Decision Science and Technology, Tokyo Institute of Technology, Japan. He is also a Research Fellow at United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS) in the Sustainable Development Governance (SDG) initiative. His research focuses on international environmental governance. Among others he serves as a scientific steering committee member of the Earth Systems Governance project of IHDP, and as an editorial board member of the journal *Global Environmental Governance*. Currently he is a co-chair of the Working Party on Climate, Investment and Development (WPCID) at OECD. Since 1996 he has been a representative of Japan to air pollution regime negotiations in East Asia (EANET). From August 2009 to July 2010 he was a Marie Curie Incoming International Fellow of the European Commission and based in SciencesPo, Paris.

His recent publications include: "A Charter Moment: Restructuring Governance for Sustainability" Public and Administration and Development, 32, 292-304 (2012, lead author); "Navigating the Anthropocene: Improving Earth System Governance" Science, Vol. 335 No. 6074, 1306-1307, 16 March 2012 (Co-author); He received his Ph.D. in Media and Governance from the Keio University.

北九州市立大学助教授を経て現職。国連大学高等研究所リサーチフェローを兼務。欧州委員会Marie Curie Incoming International Fellow及びパリ政治学院客員教授 (2009-2010)。現在OECD気候変動・投資・開発作業部会共同議長、IHDP Earth System Governanceプロジェクト科学諮問委員、中央環境審議会専門委員などを兼任。専門は政治学、国際関係論。特に、持続可能な開発目標やそのガバナンス、気候変動、アジアにおける越境大気汚染に関する国際制度研究に重点を置く。近著書・論文に"A Charter Moment: Restructuring Governance for Sustainability" Public and Administration and Development, 32, 292-304 (2012, lead author); "Navigating the Anthropocene: Improving Earth System Governance" Science, Vol. 335 No. 6074, 1306-1307, 16 March 2012 (Co-author) 等。政策・メディア博士 (慶應義塾大学)。



### Prof. Jiang Kejun ケジュン・ジャン

Research Professor, Energy Research Institute,  
National Development and Reform Commission, PRC  
中国・国家発展改革委員会エネルギー研究所教授

From 1993, Kejun Jiang began the research on climate change relative to energy policy analysis, which focus on energy technology policy assessment, energy supply policy assessment, renewable energy development and energy conservation. Started from 1994, he has worked on Integrated Assessment Model (IAM) development for energy and GHG



emission scenarios, policies, focusing on China and global analysis. At present he is mainly working on policy assessment for energy and environment policy assessment by leading Integrated Policy Assessment Model for China (IPAC) team. Major focus includes energy and emission scenarios, energy policy, energy system, energy market analysis, and climate change, local environment policies and international negotiation. Started from 1997, worked with IPCC for Special Report on Emission Scenario and Working Group III Third Assessment Report, leader author for IPCC WGIII AR4 Chapter 3, and leader author for GEO-4 Chapter 2. Now he is CLA in IPCC AR5. His recent research projects include energy and emission scenarios for 2030, low carbon emission scenarios up to 2050, assessment on energy tax and fuel tax, potential for energy target in China, development of Integrated Policy Assessment model etc. He got his Ph.D in Social Engineering Department of Tokyo Institute of Technology.

1993年から、ケジュン・ジャン氏はエネルギー政策分析に関連した気候変動に関する研究を開始した。特にエネルギー技術政策評価、エネルギー供給政策評価、再生可能エネルギー開発及び省エネルギーに焦点を合わせていた。1994年から、中国及び大域分析を重点としたエネルギーと温室効果ガス排出シナリオ、また政策に関する統合評価モデル(IAM)の開発に取り組んできた。現在は主として中国の統合政策評価モデル(Integrated Policy Assessment Model for China: IPAC) チームを主導することでエネルギーと環境の政策評価を行っており、これらには主としてエネルギーと排出シナリオ、エネルギー政策、エネルギーシステム、エネルギー市場分析、また気候変動や地方の環境政策、国際交渉などが含まれている。1997年からは、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の業務として排出シナリオに関する特別レポートや第3作業部会の第3次評価報告書に関与し、また、IPCC第3作業部会、第4次評価報告書の第3章のリードオーサーや、また、地球環境概況(GEO)4の第2章のリードオーサーとなった。現在同氏はIPCCの第5次評価報告書の統括執筆責任者(CLA)である。同氏の最近の研究プロジェクトには、2030年に向けたエネルギーと排出シナリオ、また2050年までの低炭素排出シナリオ、エネルギー税や燃料税、中国のエネルギーターゲットのポテンシャルの評価、統合政策評価モデルの開発等がある。同氏は東京工業大学の社会工学専攻において博士号を取得している。



### Dr. Md. Abdul Baqui Khalily

モハメド・アブドゥル・バキ・カリリ

Professor, Department of Finance, University of Dhaka  
ダッカ大学金融学部教授

Prof. Baqui Khalily is an expert on micro finance and rural finance in Bangladesh. He did his Ph.D from the Ohio State University, USA, majoring in Finance and Development. He joined the Department of Finance, University of Dhaka, Bangladesh in 1975, and became Professor in 1992. He has conducted important studies in the area of impact assessment of micro finance, sustainability analysis, and access to financial services in

Bangladesh. Professor Khalily was the Founder Executive Director of Institute of Microfinance in Bangladesh. He has published articles in the area of sustainability, impact of micro finance, micro finance as a coping mechanism for reducing vulnerability of poor households, and credit market in national and international journals. He has co-authored several books. Professor Khalily is also associated with the movement on Corporate Governance in Bangladesh. He has participated in more than seventy five workshop/seminars either as a contributor or panelist or chair of a session at home and abroad. He has travelled more than fifteen countries including USA, France and UK.

バングラデシュにおけるマイクロファイナンス及び農村開発金融の専門家である。米国オハイオ州大学にて金融開発を専攻し、博士号を取得。1975年にバングラデシュ・ダッカ大学の金融学部にも所属し、1992年に教授に就任。持続可能性の分析、バングラデシュにおける金融サービスへのアクセスなどのマイクロファイナンスの影響評価の分野においていくつかの重要な研究を行った。同教授はバングラデシュのマイクロファイナンス機関(Institute of Microfinance)創業時のエグゼクティブディレクターである。持続可能性、マイクロファイナンスの影響、貧困家庭の脆弱性を軽減するためのしくみとしてのマイクロファイナンス、国内外の学術誌におけるクレジット市場の分野における記事を出版した。共著者としてその他の出版物にも携わる。また、バングラデシュのコーポレートガバナンスに関する活動に関わっている。国内外セッションの貢献者、パネリスト、又は議長として、75を超えるワークショップ/セミナーに参加。米国、フランス、イギリスなど15カ国以上を旅する。



### Ms. Ikuyo Kikusawa 菊澤 育代

Policy Researcher, Kitakyushu Urban Centre, IGES  
IGES北九州アーバンセンター研究員

Ms. Kikusawa is Policy Researcher at the Kitakyushu Urban Centre of IGES and has been involved in the environmental management at the local level. She holds a Masters of Resource and Environmental Management from the Dalhousie University, Halifax, Canada. Her research area covers low carbon city development, environmental governance and intercity cooperation. She currently works on the research on low carbon policy at the local level in Japan and Asia as well as the capacity development of local sectors on the associated policy formulation and MRV.

カナダ、ハリファックス市のダルハウジー大学にて資源環境管理修士号を取得。地方レベルにおける環境管理に携わる。低炭素都市の発展、環境ガバナンス、都市間協力等を専門とし、現在、日本・アジアにおける地方自治体レベルの低炭素施策の研究と途上国都市における関連施策の開発及びMRVの能力開発プロジェクトを担当する。



### Dr. Peter King ピーター・キング

Senior Policy Advisor, IGES Regional Centre, Bangkok  
IGESバンコク地域センター上級ポリシーアドバイザー

Dr. King has been an avid environmentalist since undergraduate days at Melbourne University and it has remained an abiding passion for 40 years. He started his career in the Soil Conservation Authority in the state of Victoria and became the Land Studies Coordinator in Victoria's first Ministry for Conservation. He spent some time at the Environment and Policy Institute, East West Center in Hawaii and then set up his own

environmental consulting company. Following some successful work for the Asian Development Bank (ADB) as a consultant, he started work with the ADB in March 1991 as an Environment Specialist in the Office of Environment. He established a sound reputation as ADB's leading natural resources management

("green") expert, with personal responsibility for over 50 loan and TA projects. In 1998, he was awarded a Doctor of Philosophy (Environmental Science) degree from Murdoch University in Perth. In 2005, he took early retirement from ADB and is currently a Senior Policy Advisor for IGES, heads the Asian Environmental Compliance and Enforcement Network secretariat, and is Team Leader, Adaptation Project Preparation and Finance on the ADAPT Asia-Pacific project.

キング氏は、メルボルン大学卒業後40年にわたり熱心な環境活動家であり、その情熱を持ち続けている。キング氏は、オーストラリア・ヴィクトリア州土壌保全局に入局後、ヴィクトリア州で初の保全省における土壌研究コーディネーターに就任。その後、ハワイ東西センターの環境・政策研究所を経て、コンサルタント会社を設立。1991年からアジア開発銀行 (ADB) において環境専門家として勤務し、50件以上のローン及びTAプロジェクトを担当するADBの屈指の自然資源管理専門家 (グリーン専門家) としての地位を確立した。1998年にオーストラリア・パースのマードック大学大学院 (環境科学博士) を修了。2005年にADBを退職し、現在はIGESの上級ポリシーアドバイザーとしてアジア環境法遵守執行ネットワーク事務局を率いる他、ADAPTアジア太平洋プロジェクトの適応プロジェクト準備とファイナンスチームのチームリーダーも務める。



### Mr. Kazuhisa Koakutsu 小坂 一久

Deputy Director, Market Mechanism Group, IGES

IGES市場メカニズムグループ副ディレクター

He has been engaging in the research activity on international climate policy related to market mechanisms such as the clean development mechanism (CDM). He has been involved the CDM capacity building activities in Asia for the last 10 years. He is the author of several text books on the CDM and new market mechanisms, and has been specialized on the international rules and methodologies. Currently, he is involving the capacity building of MRV (monitoring, reporting, and verification) for the new market mechanism and the methodology development.

クリーン開発メカニズム (CDM) 等、気候政策の市場メカニズムに関する政策研究を行なうと共に、アジア各国におけるCDMの能力構築事業に携わる。CDMや新たな市場メカニズムに関するテキストブックの著者として市場メカニズムの国際ルール及び方法論を担当。

現在は、新たな市場メカニズムと温室効果ガスの測定・報告・検証 (MRV) の能力構築や方法論作成に携わっている。



### Mr. Masanori Kobayashi 小林 正典

Associate Professor, Yokohama National University Graduate School of Environment and Information Sciences

横浜国立大学大学院環境情報研究院特任准教授

Mr. Masanori Kobayashi is Associate Professor, Yokohama National University Graduate School of Environment and Information Sciences supporting the Leadership Development Programme for Sustainable Living with Environmental Risks. He was Senior Coordinator, Programme Management Office of the Institute for Global Environmental Strategies (IGES) in Hayama, Japan until July 2011. Mr. Kobayashi joined IGES in

2004 and was supporting a number of international and regional networks on sustainability issues and facilitating policy dialogues, pilot field activities, good practice analysis and strategic research particularly for Asia and the Pacific. Formerly, he worked for the Secretariat of the United Nations Convention to Combat Desertification (1997-2004), United Nations Division for Sustainable Development (1995-1997), and the Japanese Ministry of Foreign Affairs as a specialized researcher at the Permanent Mission of Japan to the United Nations in New York (1992-1995). He holds LL.M (Master in Law) and M.A. in international laws and public administration.

横国大ではリスク共生型環境再生リーダー育成プログラムの実施を支援。2004年より2011年7月までIGES勤務。その間、持続可能性に関する国際・地域ネットワークを支援し、特にアジア・太平洋地域を中心に政策対話・実証プロジェクト・優良事例分析・戦略研究などを進めてきている。それ以前は、国連砂漠化対処条約事務局 (1997～2004年)、国連持続可能な開発部 (1995～97年)、外務省駐ニューヨーク国連代表部専門調査員 (1992～1995年) を歴任。法学修士及び学術修士 (国際法・行政学)。



### Mr. Masamitsu Kogota 小川田 政光

Senior Policy Administrator of Environmental Recovery Sector, Social Affairs & Environment Department, Fukushima Prefectural Government

福島県生活環境部環境回復推進監

Born in 1954. He joined Fukushima Prefectural Government in April 1978. His expertise is in community development and construction administration. He served as Director of Children & Families Support Division, Policy Administrator of Social Health & Welfare Department and Policy Administrator of Social Affairs & Environment Department. He assumed his current post in October 2011.

1954年生まれ。1978年4月福島県庁に入庁。以後、地域づくりや建設行政等を担当。児童家庭課長、保健福祉部次長、生活環境部次長を経て、2011年10月から現職。





### Dr. Ryo Kohsaka 香坂 玲

Visiting Research Fellow, United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS) (Operating Unit Ishikawa Kanazawa: OUIK) / Associate Professor, Faculty of Human Sciences, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University

国連大学高等研究所(いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット)客員リサーチフェロー / 金沢大学人間社会学域 地域創造学類環境共生コース准教授

Dr. Kohsaka is Associate Professor at Kanazawa University since April, 2012. He worked at the UNEP SCBD (Convention to the Biodiversity) and served as Adviser to COP10 Promotion Committee (2008-2011), which was held in Nagoya, Japan in 2010. He is also involved in evaluation of

the production landscape and is visiting researcher at United Nations University IAS. Dr. Kohsaka holds Ph.D in the field of Forestry Economics obtained at the University of Freiburg, Germany. He also has M.Sc. in Environment and Development from UEA, UK and B.Sc. in Rural Development, Agricultural Faculty, University of Tokyo, Japan.

2006年からカナダ・モントリオールの国連環境計画生物多様性条約事務局で勤務した後、名古屋市立大学准教授として教鞭をとりながら、2008～2010年度COP10支援実行委員会アドバイザーとして活動。東京大学農学部卒業。ハンガリーの中東欧地域環境センター勤務後、英国で修士号取得、ドイツ・フライブルク大学環境森林学部で博士号取得。近著に、「生物多様性と私たち」(岩波ジュニア新書)「地域とレジリアンス」(森林カメラ) (清水弘文堂) などがある。静岡県生まれ。



### Dr. Satoshi Kojima 小嶋 公史

Director, Economy and Environment Group, IGES

IGES経済と環境グループディレクター

Dr. Satoshi Kojima graduated from the University of Tokyo with a Master of Engineering. After engaging in water and environment related official development assistance (ODA) projects in several countries including Indonesia and Hungary, he studied environmental economics at the University of York in the United Kingdom. After receiving a Ph.D. of Environmental Economics, he joined IGES in 2005 and has engaged

mainly in quantitative policy analysis of sustainable development policy in East Asia. He published a book "Sustainable Development in Water-stressed Developing Countries: A Quantitative Policy Analysis" from Edward Elgar Publishing in 2007.

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了(工学修士)、英国ヨーク大学環境学部博士課程修了(Ph.D.)。1994年より株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナルにおいて、コンサルティング技師としてインドネシア、ハンガリーなどで上下水道・環境保全分野での政府開発援助プロジェクトに従事。その後、英国ヨーク大学で博士号(環境経済学)を取得後、2005年よりIGES勤務。主に東アジア地域の持続可能な開発に関する定量的政策分析に従事。専門は環境経済学、環境・開発政策評価。著書に「Sustainable Development in Water-stressed Developing Countries: A Quantitative Policy Analysis (2007年Edward Elgar社)」がある。



### Dr. Takeshi Kuramochi 倉持 壮

Associate Researcher, Climate Change Group, IGES

IGES気候変動グループ特任研究員

Dr. Kuramochi obtained his PhD degree from Faculty of Science, Utrecht University in the Netherlands on the techno-economic assessment of CO<sub>2</sub> capture technologies. After serving as a postdoctoral fellow at the Copernicus Institute, Utrecht University, he started working for IGES in Japan. He specializes in low-carbon energy technologies and climate change policies. His current research topics include Japan's low-carbon energy scenario using a bottom-up energy-economic model, climate policies in major emitting countries, and Japan's climate finance to developing countries.

2011年にオランダ・ユトレヒト大学より博士号取得(CO<sub>2</sub>回収技術の技術性・経済性評価)。同大学博士研究員を経てIGESに入所。専門は低炭素エネルギー技術及び気候変動政策全般。現職ではエネルギー経済モデルを用いた日本の低炭素エネルギーシナリオ分析、主要排出国の気候変動政策及び気候変動対策のための途上国支援に関する分析を行っている。



### Mr. Masao Kurokawa 黒川 雅夫

Vice Governor, Kanagawa Prefectural Government

神奈川県副知事

After graduating from Keio University, Mr. Kurokawa entered the Kanagawa Prefectural Government in April 1974. He worked his way up to the position of the Executive Director, Education Bureau in 2006, and then served as the Executive Director, General Affairs Department, before becoming the Executive Director of the Policy Department. After serving as the Special Assistant to the Governor for Specific Administrative Issues, he became Vice Governor in June 2010.

慶應義塾大学卒業後、1974年4月に神奈川県庁に入庁。教育局長、総務部長、政策部長、理事を経て、2010年6月より現職。





### Dr. Bindu N. Lohani ビンドゥ・N・ロハニ

Vice President, Knowledge Management and Sustainable Development,  
Asian Development Bank (ADB)  
アジア開発銀行 (ADB) 副総裁

Dr. Lohani is the Vice President of the Asian Development Bank. Prior to this, he was the Director General of the ADB's Regional and Sustainable Development Department (responsible for sectoral and thematic areas like energy, water, environment and governance) and the ADB's Chief Compliance Officer and Special Advisor to the President on Clean Energy and Environment. He also worked in Infrastructure and Environment Departments at ADB. Before joining the ADB, Dr. Lohani worked at the Government of Nepal. He was also Division Chairman at the Asian Institute of Technology (AIT).

Dr. Lohani holds a Doctorate degree in Engineering. He has completed several management development programs, including programs conducted by the business schools of the University of Chicago, Cornell University, and Corporate Leadership program at Yale University. Dr. Lohani is an elected member of the National Academy of Engineering of United States, and is, a diplomate of the American Academy of Environmental Engineers and Fellow of the American Association for the Advancement of Science Council.

ロハニ氏は現在、アジア開発銀行のナレッジマネジメント及び持続可能な開発部門副総裁を務めている。副総裁以前は、アジア開発銀行の地域及び持続可能な開発部門の事務局長として、エネルギー、水、環境、ガバナンス等の分野及びテーマを担当しており、また、クリーンエネルギーと環境においては、総裁のチーフ・コンプライアンス・オフィサー及び特別顧問を務めていたばかりでなく、同時に、同銀行にて、インフラや環境開発にも従事。同銀行入行以前には、ネパール政府、またアジア工科大学において、学部の主任教授も務めていた。

ロハニ氏は、工学の博士号を取得後、シカゴ大学ビジネススクール、コーネル大学、エール大学の企業リーダーシッププログラムを含む数々の経営開発プログラムを修了し、米国の国立技術アカデミーの一員に選出され、現在も米国アカデミー環境工学の有資格者として、また、学術審議会米国協会のフェローとして活躍している。



### Dr. Pongvipa Lohsomboon ポンビッパ・ローソムブーン

Director of Carbon Business Office,  
Thailand Greenhouse Gas Management Organization (TGO)  
タイ温室効果ガス管理機構カーボンビジネスオフィスディレクター

Dr. Lohsomboon is the Director of the Carbon Business Office of Thailand Greenhouse Gas Management Organization (Public Organization), a national body acting as a Designated National Authority (DNA) for Clean Development Mechanism (CDM) projects and promoting all activities related to greenhouse gas mitigation. Previously, Dr. Lohsomboon worked for the Thailand Environmental Institute in Bangkok, from 1996 to 2008

as the Director of the Business and Environment Program. She is an expert in Eco-labelling and in developing environmental criteria for green products. Dr. Lohsomboon has implemented projects promoting

environmental sustainability, including life cycle inventories and assessment, cleaner technology and the development of Environmental Performance Indicators for various industrial sectors. She serves as a national expert to TC207/SC3, SC5 and SC7 committees (ISO 14000 standards). Dr. Lohsomboon holds a Ph.D. in science from Graduate School of Life and Environmental Studies, University of Tsukuba, Japan and a master degree of Business Administration (MBA) from the Thammasart University, Thailand.

タマサート(タイ)大学経営学修士課程修了、筑波大学・生命環境学研究科博士課程修了(生物学博士)。1996年から2008年までバンコクのタイ環境機関(TEI)においてビジネス環境プログラムディレクターとして従事。エコ・ラベリング、グリーン製品の環境基準開発に関する専門家である。ライフサイクル・インベントリ及びライフサイクル評価などの環境持続性、クリーン技術、様々な工業セクターにおける環境パフォーマンス指標を推進するプロジェクトを実施してきた。また、ISO規格のTC207/SC3、SC5、SC7の各専門委員会におけるISO 14000規格の国家専門家に指名されている。現在勤務しているタイ温室効果ガス管理機構(TGO)は、クリーン開発メカニズム(CDM)プロジェクトのタイ国家指定機関(DNA)であり、温室効果ガスの緩和に関する行動の推進を全面的に担う公的機関である。



### Ms. Hina Lotia ヒナ・ロティア

Regional Coordinator, Asia, Climate & Development Knowledge Network (CDKN) /  
General Manager, Programme Development Department, LEAD Pakistan  
気候と開発知識ネットワーク(CDKN)アジア地域コーディネーター /  
LEAD/パキスタンプログラム開発部統括マネージャー

Nobody excelled in the Leadership for Environment And Development (LEAD) as quickly as did Hina - from an intern in 1999 to the General Manager Program Development Department in 2005. LEAD and Hina, both, have grown together. And now, she is literally the institution's memory and a pillar; but yet modest in her working, ready to help her colleagues and new comers. As head of the department, Hina would develop new programs/

projects and interact with the donors, clients, partners, fellows, associates, and board members to foster LEAD's objectives in sustainable development. She is working on programs that LEAD has designed to create and sustain a leadership that could meet the challenges of climate change. Her latest endeavor is LEAD Climate Action Program (L-CAP) - a five year initiative to promote climate compatible development in the country.

During LEAD's evolution, Hina's strengths were also used in such areas which added to her assigned challenges. She is now playing a strategic role in organization's policies. In 2005, she played a key role in carrying out two strategic planning exercises at LEAD that gave the organization a new road-map. She has been representing the institution at national/international forums and also serving as a trainer at various events in LEAD programs.

Also a LEAD Fellow, Hina has a master's in economics from the Quaid-e-Azam University.

LEADにおいて、ヒナ氏よりも急速に存在感を増した者はいない。ヒナ氏は1999年にインターンとして着任、2005年にプログラム開発部の統括マネージャーに就任しており、LEADとヒナ氏はともに成長したといえる。現在では、ヒナ氏は文字通りLEADの頭脳であり大黒柱であるが、業務においては謙虚で、同僚や新入職員に対し

では大変親身である。プログラム開発部の長として、新しいプログラムやプロジェクトの開発とともに、ドナーや顧客(クライアント)、パートナー、フェロー、共同参画者(アソシエイト)、理事間との仲立ちを通じ、LEADの目的である持続可能な発展を促進に寄与している。ヒナ氏はLEADが設計した、気候変動問題に対処するためのリーダーシップ創造プログラムに従事しており、目下、パキスタンにおける気候変動と共存可能な発展を促進する5年間のイニシアチブであるLEAD Climate Action Program (L-CAP) に注力している。

LEADの発展とともに、ヒナ氏の強みは他の分野でも生かされLEADの政策において戦略的な役割を担っている。2005年には、LEADにおいて2つの主要な戦略的計画の策定において重要な役割を果たし、組織に新しいロードマップを示した。彼女は国内・国外のフォーラムにおいて組織を代表し、またLEAPプログラムの様々なイベントにおいて、トレーナーとして活躍している。LEADフェローであり、経済学修士(カイデアザム大学)。



**Mr. Toshizo Maeda** 前田 利蔵

Acting Director, Kitakyushu Urban Centre, IGES  
IGES北九州アーバンセンターアクティングディレクター

Toshizo Maeda is an Acting Director / Senior Researcher of the IGES Kitakyushu Urban Centre specialized in urban environmental management and local environmental policies (P. E. Jp (Environmental Engineering)). Before joining IGES, he worked for UNDP Malaysia Office as a program manager of the Energy and Environment Cluster, CTI International Co., Ltd. as a civil engineer and Japan Overseas Cooperative Volunteers program as a high school teacher in Ghana. He graduated from Sanitary Engineering Division, Hokkaido University, and obtained a Masters Degree on Environment, Development and Policy from Sussex University.

専門は都市環境管理や都市環境政策(技術士 衛生工学)。これまでUNDPマレーシア事務所にて環境とエネルギー分野のプログラムマネージャー、CTIインターナショナル株式会社にて土木・都市環境技師、青年海外協力隊にてガーナ国の高校教師を務める。北海道大学工学部衛生工学科卒、サセックス大学大学院環境・開発政策修了。



**Ms. Yoko Maki** 牧 葉子

Executive Director, Global Environment Knowledge Centre, Environment Bureau, Kawasaki City  
川崎市環境局理事・環境技術情報センター所長事務取扱

Ms. Maki is a Executive Director, Global Environment Knowledge Centre, Environment Bureau, Kawasaki City, in charge of establishing Kawasaki Environment Research Institute, promoting collaborative studies on environmental technology among industries, universities, research facilities and the citizens, and providing information on Kawasaki's experience. She graduated from the University of Tokyo with a Master of Urban Engineering.

She joined Kawasaki City in 1980 and enforced environmental assessment, urban development, industrial development, and urban renaissance & coastal area development. She also initiated international environment policy, ordinance on promotion of global warming countermeasures, and international ecotown & eco-business forum.

She received the Asian Environmental Compliance and Enforcement 2010 Award for Commitment and Outstanding Service by a Woman.

東京大学工学部反応化学科卒、同大学院都市工学修士。川崎市入庁後、環境管理・企画・文化・都市整備・産業振興・都市再生担当後、国際環境施策参事、地球環境推進室長を経て、2010年4月から現職。都市と産業の共生をテーマとしたアジア・太平洋エコビジネスフォーラム、国際エコタウンPJ、国連グローバルコンパクト自治体初参加、地球温暖化対策推進条例・計画、環境総合研究所等を担当。2010AECEN優秀賞受賞。



**Mr. Toshikazu Matsuoka** 松岡 俊和

Chief Executive (Future City), Environment Bureau, City of Kitakyushu  
北九州市環境局環境未来都市担当理事

Mr. Matsuoka graduated from Kyushu Institute of Technology in 1981 and entered the Kitakyushu City Government. He served for 6 years as Director for Planning Division of Environment Bureau before serving as Executive Director for New Industry Department of Science and Industry Bureau. He is currently Chief Executive (Future City) of Environment Bureau. He has been a member of the subcommittee on the post-2013 countermeasures of the Global Environment Committee of the Central Environment Council.

1981年3月九州工業大学環境工学専攻修了。同4月北九州市役所入職。1999年4月～2005年3月環境局計画課長、2005年4月～2008年3月産業学術振興局新産業・学術振興部新産業部長、2008年4月～2009年3月環境局環境首都担当部長を歴任し、2009年4月より現職。



**Mr. Yosuke Mochizuki** 望月 洋介

Director, Nikkei BP Cleantech Institute  
日経BPクリーンテック研究所長

Yosuke Mochizuki is director of Nikkei BP Clean Tech Institute. He was former editor-in-chief of NIKKEI Electronics, publisher and editor-in-chief of NIKKEI MICRODEVICES. His expertise is semiconductor and FPD manufacturing. At 1987, he was joined to NIKKEI MICRODEVICES. He took charge of DRAM, flash memory, non-volatile memory, high speed bipolar, GaAs IC, liquid crystal display. Prior to joining NIKKEI MICRODEVICES, he passed through MSEE and BSEE of Chiba University.



1987年7月日経マグロウヒル入社(現日経BP)、日経マイクロデバイス配属。1995年9月、シリコンバレー支局。1997年1月、日経マイクロデバイス副編集長、2000年1月、同編集長。2004年1月、同発行人・編集長。2005年10月、日経エレクトロニクス編集長。2008年1月、電子・機械局長補佐 日経ものづくり発行人、日経マイクロデバイス発行人 FPD International委員長。2010年1月、電子・機械局長補佐 クリーンテック研究所長。2010年4月、日経BPクリーンテック研究所長。2011年1月、日経BPクリーンテック研究所長兼日経エネルギー発行人兼Smart City Week委員長。2011年10月、日経BPクリーンテック研究所長兼 Smart City Week委員長。



### Mr. Hideyuki Mori 森 秀行

President, IGES  
IGES所長

Mr. Hideyuki Mori is a graduate of the School of Engineering, Kyoto University. He joined IGES in 2003. Prior to joining IGES, he served as Environment Specialist at the Asian Development Bank, Senior Environmental Coordinator of the United Nations High Commissioner of Refugees, Director of the Office of Research and Information at the Global Environment Issues Division of the Environment Agency of Japan (present Ministry of the Environment) and as Portfolio Manager of the Division of GEF at the United Nations Environment Programme. He has served as the President of IGES since 2010.

京都大学大学院工学部工業化学科修士課程修了。1977年環境庁(現環境省)入庁。アジア開発銀行環境専門官、国連高等難民弁務官、環境庁企画調整局地球環境部環境保全対策課研究調査室長、国連環境計画GEF担当ポートフォリオマネージャーなどを経て、2003年にIGES 長期展望・政策統合プロジェクトリーダーに就任。2010年4月より現職。



### Prof. Akio Morishima 森島 昭夫

Chair of the Board of Directors, Japan Climate Policy Center  
日本気候政策センター理事長

Prof. Akio Morishima graduated from the University of Tokyo School of Law and the Harvard Law School and is the former president of the Central Environmental Council, Japan.

He served as professor at Nagoya University and Sophia University, Japan. Since 1993 he has also been involved in the Central Environment Council of Japan as the Chairman of the Policy Planning Committee, and he served as President of the Council from 2000 to 2005. For nine years from 1998, he served as the first Chair of the Board of Directors at IGES. He is currently serving as the Special Research Advisor for IGES, the President & Director General of Japan Environment Association and the Chair of the Board Directors of Japan Climate Policy Center.

1934年生まれ。前中央環境審議会会長。1958年年東京大学法学部卒。1968年ハーバード大学ロースクール法学修士。1971年名古屋大学法学部教授に就任し、1988～1990年法学部長、1994～1996年同大学大学院国際開発研究科長を務める。上智大学法学部教授等を経て、1998年から2007年3月まで初代IGES理事長を務める。2000～2005年中央環境審議会会長。著書に『不法行為法講義』『医療と人権』(いずれも有斐閣)他多数。2007年4月より現職。2007年4月より特定非営利活動法人日本気候政策センター理事長。2007年6月より財団法人日本環境協会会長、2010年4月より同理事長を兼任。



### Dr. Kalemani Jo Mulongoy カレマニ・ジョー・ムロンゴイ

Visiting Professor, United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)  
国連大学高等研究所客員研究員

President and Co-founder of the Institute for Enhanced Livelihoods, I promote the empowerment of, and assist government representatives, local communities and relevant organizations in planning, developing and implementing projects, and raising the funds required for these activities. Trained as a microbiologist, biotechnologist and food technologist, I headed the Soil Microbiology Department at the International Institute of Tropical

Agriculture (IITA) in Nigeria for 14 years; the Plant Biotechnology Programme of the International Institute for Research for Development in Africa in 1992 and 1993 in Cote d'Ivoire; directed the Biotechnology and Biodiversity Programme of the International Academy of the Environment in Geneva from 1996 to 1999; and, from 1999 until 2011, directed the Scientific, Technical and Technological Matters Division of the Secretariat of the Convention on Biological Diversity. In this capacity, I played a key role in developing the strategic plans for biodiversity and all the programmes of work of the Convention as well as the approaches (e.g. ecosystem approach), guidelines (e.g. for sustainable use of biodiversity, or for biodiversity inclusive environmental impact assessment), and initiatives (e.g. international initiative for biodiversity, food and nutrition). I am very much involved in the Satoyama Initiative.

暮らし向上研究所(Institute for Enhanced Livelihoods)の代表及び共同設立者として、政府代表者や地域コミュニティ、関連団体の能力開発や、プロジェクト立案、計画、実施及びそのための資金確保の支援に務めている。微生物学者、バイオテクノロジスト、食物技術者としての訓練を受けており、14年にわたってナイジェリアの国際熱帯農業研究所(IITA)で土壌微生物学部長として勤務し、1992年から1993年にかけてコートジボワールの国際アフリカ開発研究所にて植物バイオテクノロジープログラムを運営し、さらには1996年から1999年にかけてはジュネーヴの国際環境学術機関にてバイオテクノロジーと生物多様性プログラムを率いて、1999年から2011年までは生物多様性条約事務局の科学技術部長を務めた。これらの経験を通して、生物多様性条約の戦略計画や作業計画策定、実施手法の考案(生態系アプローチなど)やガイドライン策定(生物多様性の持続可能な利用や生物多様性を考慮した環境影響評価の手法など)、イニシアティブ推進(生物多様性、食糧及び栄養のための国際イニシアティブなど)において重要な役割を果たす。また、現在はSATOYAMAイニシアティブの活動推進においても深い係わりを持っている。




**Mr. Motoshi Muraoka** 村岡 元司

Partner, Senior Executive Manager, Socio & Eco Strategic Consulting Sector,  
NTT Data Institute of Management Consulting, Inc.  
株式会社NTTデータ経営研究所社会・環境戦略コンサルティング本部パートナー

After working at a major trading company and think tank, joined NTT Data Institute of Management Consulting, Inc. Experienced a wide range of energy & environmental consulting such as new business incubation, strategy planning for energy & environmental business and solution planning for global warming. Delivering Lecture and Contribution: Lots of Experience. Book Bibliography: PFI, Strategy for Business / Environmental

Problems for Enterprise / Procedure for Successful Local Business / Leading Edge Trend of Environmental Business (All the above are collective writing.)

大手商社、シンクタンクを経て、2001年6月より現職。環境エネルギー分野を中心に、地球温暖化対策、事業戦略策定など、幅広い実績を持つ。寄稿、講演多数。著書に「PFI ビジネス参入の戦略」、「図解 企業のための環境問題」、「成功する!地域発ビジネスの進め方」、「詳解 排出権信託 制度設計と活用事例」、「環境ビジネスのいま」(いずれも共著)等がある。


**Dr. Yasushi Ninomiya** 二宮 康司

Director, Market Mechanism Group, IGES  
IGES市場メカニズムグループディレクター

Yasushi Ninomiya is group director of Market Mechanism Group in IGES. He was deputy director of Office of Market Mechanisms in the Ministry of the Environment Japan between 2005 and 2010, particularly engaged in designing of domestic emission trading (JVETS), J-VER carbon offsetting scheme, international negotiation under UNFCCC, administration of Japanese National Registry and GHG related international standards. Ph.D

in Economics (University of Surrey).

サリー大学(英国) 経済学部博士課程修了(経済学博士)。2001年よりIGES気候政策プロジェクト研究員。2004年～2010年まで環境省・地球環境局地球温暖化対策課課長補佐、同市場メカニズム室室長補佐(国内排出量取引制度の検討、JVETS(自主参加型国内排出量取引制度)の制度設計・運営、J-VER(オフセット・クレジット)制度の制度設計・運営、CDM等京都メカニズムに関する国際交渉、国別登録簿システムの運営、GHG関連ISO規格検討等に従事)を経て、2010年より現職。


**Ms. Tomoko Nishimoto** 西本 伴子

Director, Division of Regional Cooperation (DRC),  
United Nations Environment Programme (UNEP)  
国連環境計画(UNEP) 地域協力局長

Ms. Tomoko Nishimoto joined UNEP as the Director, Division of Regional Cooperation in May 2010. She is responsible for overseeing the six regional offices of UNEP: North America; Latin America and the Caribbean; Africa; Asia and the Pacific; West Asia; and Europe.

Ms. Nishimoto has over 23 years of experience in sustainable development work within the United Nations. Her professional career has included assignments with the United Nations Development Programme (UNDP), for 18 years, and with the United Nations Children's Fund (UNICEF), for 5 years. She has held senior posts in seven countries. Among other roles, she served as the UNDP Country Director for Kenya (2008-2010), the UNDP Deputy Resident Representative in Ethiopia (2005-2008) and the UNICEF Zambia Deputy Representative (2001-2005).

2010年5月から国連環境計画地域協力局長。北米、ラテンアメリカ・カリブ、アフリカ、アジア太平洋、西アジア、ヨーロッパの6つのUNEP地域事務所の監督を担当。

国連開発計画(UNDP)で18年、国連児童基金(UNICEF)で5年等、国連において23年にわたり持続可能な開発に従事。その間、UNDPケニア事務所長(2008年～2010年)、UNDPエチオピア事務所常駐副代表(2005年～2008年)、在ザンビアUNICEF副代表(2001年～2005年)等、7カ国でシニアポストを歴任。



### Dr. Shuzo Nishioka 西岡 秀三

Secretary General, International Research Network for Low Carbon Societies (LCS-RNet) / Senior Research Advisor, IGES  
IGES研究顧問 / 低炭素社会国際研究ネットワーク事務局長

Graduated from University of Tokyo (Control Theory). Served as Professor of Tokyo Institute of Technology and Keio University, and Executive Director of National Institute for Environmental Studies (NIES). He is Senior Visiting Researcher, NIES; Secretary-General, International Research Network for Low Carbon Societies; Member of Central Council of Environment; and Co-Leader of Innovative Climate Model Project of Mext.

Main research fields are Environmental System Analysis, Global Environmental Policy. In 2004 -2009, lead a policy related research of Japan Low Carbon Society Project, which helps Japanese long term GHG reduction target setting and designing road map. His recent work focuses on collaboration with Asian countries on Low Carbon Development. Publication: Nishioka, S and H. Harasawa ed. (1998): Global Warming: The Potential Impact on Japan, Springer.

東京大学機械工学科卒、同博士課程修了、工学博士。国立環境研究所理事、東京工業大学・慶應義塾大学教授、地球環境戦略研究機関気候政策プロジェクトリーダーを経て現職。独立行政法人国立環境研究所特別客員研究員、文部科学省技術参与、中央環境審議会臨時委員。文部科学省気候予測モデル「革新プログラム」共同研究統括、「低炭素社会国際研究ネットワーク」事務局長を務める。専門は環境システム学、環境政策学。1985年よりIPCCで章主導執筆者など気候変化影響や対策シナリオ研究に従事。2004年～2008年環境省地球環境研究計画「2050年温室効果ガス削減シナリオ研究」リーダー。編著書:「日本低炭素社会のシナリオ二酸化炭素70%削減の道筋」日刊工業新聞社、「地球温暖化と日本—自然・人への影響予測」古今書院、「新しい地球環境学」古今書院など。



### Mr. Masato Nobutoki 信時 正人

Executive Director for the FutureCity Promotion, City of Yokohama  
横浜市環境未来都市推進担当理事

Mr. Nobutoki was born in 1956 in Japan and graduated from Urban Engineering Department, Faculty of Engineering of Tokyo University.

He worked at Mitsubishi Corporation from 1981 to 2002 and worked at Japan Association for the 2005 World Exposition as General Manager for Event Planning from 2002 to 2005. From 2006 to 2007, he worked at Tokyo

University as Project Professor. He joined the City of Yokohama in 2007 to work as Director General in charge of urban management strategy in the Urban Management Bureau. He took the position of Director General, Climate Change Policy Headquarters in 2009.

東京大学工学部都市工学科卒業。三菱商事株式会社を経て、財団法人2005年日本国際博覧会協会（政府出展事業 企画・催事室長）、東京大学大学院新領域創成科学研究科特任教授。2007年4月横浜市都市経営局都市経

営戦略担当理事、2009年4月横浜市地球温暖化対策事業本部長、2011年5月横浜市温暖化対策統括本部長を歴任。2007年度環境省「カーボン・オフセットのあり方検討会」委員、2010年度国土交通省「環境共生型都市開発の海外展開に向けた研究会」委員を務める。



### Dr. Akira Ogihara 荻原 朗

Senior Coordinator, Governance and Capacity Group, IGES  
IGESガバナンスと能力グループシニア・コーディネーター

After obtaining an LL.B. from Keio University in Japan, he served as a legal officer at the Ministry of Transport (currently Ministry of Land, Infrastructure and Transport) of Japan for 11 years. He then studied environmental change and management at the University of Oxford in UK and obtained an M.Sc. From 1996 to 2003, he was involved in environmental-related ODA projects in Asia and the Middle East, and carried out global environmental research

for seven years as a senior environmental specialist at Pacific Consultants International Co., Ltd. In 2003 he earned a Ph.D. in international resource management from Tohoku University, Japan. Dr. Ogihara joined IGES in 2003. He has been assigned to various projects such as the Long-term perspective and Policy Integration Project (LTP) and the Waste Management and Resource Efficiency Project (WMR) as a Project Manager, as well as conducting broad policy research towards sustainable development.

慶應義塾大学卒業後1985年に運輸省（現国土交通省）入省。約11年間運輸行政に従事したのち、オックスフォード大学で環境政策及び環境管理を学び、修士号を取得。その後、1996年から2003年まで約7年間に渡り、(株)パシフィックコンサルタンツインターナショナルにおいて、主任環境コンサルタントとして地球環境問題関連研究ならびにアジアや中東におけるODAプロジェクトに従事する。2003年に東北大学で国際資源管理の博士号を取得したのを機に、IGESに所属。長期・展望政策統合プロジェクト（LTP）、廃棄物・資源管理プロジェクト（WMR）、及びガバナンス・能力プロジェクトなどさまざまなプロジェクトに属し、持続可能な発展に向けた政策研究に従事。



### Mr. Simon Olsen サイモン・オルセン

Researcher, Governance and Capacity Group, IGES  
IGESガバナンスと能力グループ研究員

Simon is currently based in Japan, where he works as a policy researcher for IGES. Since 2010 he has researched and published papers on environmental governance, as well as institution building for cooperation on environment and sustainable development, both globally and regionally for Asia and the Pacific. He is also a contributing author to UNEP's Fifth Global Environmental Outlook Asia-Pacific, where he had the opportunity

to co-author the Asia-Pacific chapter's section on governance. Prior to working with IGES he spent three years working for the UN Economic and Social Commission for Asia and the Pacific. There he was granted the opportunity to undertake capacity building on Green Growth policy tools. During that time he also helped

draft Cambodia's National Green Growth Roadmap. He is now actively involved in the process leading up to the Rio+20 conference, which he sees as an important opportunity to update and strengthen the institutional framework for sustainable development, allowing it to better deal with current and emerging challenges. Simon is interested in culture and languages. He has a Masters Degree in Southeast Asian Studies from University of Copenhagen and has taken several additional university courses on climate change impacts, and EU environmental management.

国連アジア太平洋経済社会委員会にて3年間勤務。グリーン成長政策ツールのキャパシティ・ビルディングに取り組む一方でカンボジアの国立グリーン成長のロードマップの草稿を支援。

2010年よりIGES政策研究員として、アジア太平洋地域と世界の環境ガバナンス、及び環境と持続可能な開発における協力のための制度構築に関する研究に従事し、論文を発表。また、UNEP のアジア太平洋地球環境概況第5版の寄稿者であり、ガバナンスに関するセクションのアジア太平洋の章を共同執筆した。

文化や言語に興味関心を持ち、コペンハーゲン大学東南アジア研究にて修士号を取得、加えて気候変動インパクト、及びEU の環境管理に関するいくつかの大学コースを修了。



### Dr. Rajendra K. Pachauri ラジェンドラ・K・パチャウリ

Director-General, The Energy and Resources Institute (TERI) /  
Chair, The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC)  
エネルギー資源研究所 (TERI) 所長 / 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 議長

Since 1998, he has also been Chancellor, TERI University. In April 2002 he was elected as Chairman of the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC). Dr. Pachauri has a PhD in Industrial Engineering and a PhD in Economics. He has been on several international and national committees including membership of the Economic Advisory Council to the Prime Minister of India, the Advisory Board on Energy (ABE) which

reported directly to the Prime Minister of India, a Senior Advisor to the Administrator of the United Nations Development Programme and several others. He has been President (1988) and Chairman (1989-90) of the International Association for Energy Economics (IAEE). He has been President of the Asian Energy Institute since 1992. In April 1999, he was appointed Member of the Board of Directors of IGES and held this appointment till April 2012.

1998年からはTERI大学の顧問も兼任。2002年4月には気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の議長として選出。生産管理工学と経済において博士号を取得。また、数多くの国際的委員会や国内委員会に所属。中でも、インド首相へ直接助言を行う、経済顧問委員会・エネルギー顧問会議の一員であり、また国連開発計画 (UNDP) のシニア・アドバイザー等も務めている。国際エネルギー経済学会 (IAEE) 会長 (1988年)、理事長 (1989～1990年) を歴任。また、1992年からはアジアエネルギー機関の会長も務めている。1999年4月から2012年4月までIGES理事を務める。



### Dr. Young-Woo Park パク・ヨンウ

Regional Director & Representative for Asia and the Pacific, United Nations  
Environment Programme, Regional Office for Asia & the Pacific (UNEP-ROAP)  
国連環境計画アジア太平洋地域事務所 (UNEP-ROAP) 所長

Dr. Young-Woo Park, a national of the Republic of Korea, joined UNEP as the Regional Director of the Regional Office for Asia and the Pacific in October 2008. Dr. Park brings with him his long and vast experience working in environmental management and international cooperation both with governments and the private sector.

Before joining UNEP's Asia Pacific office, Dr. Park was the President of the Business Institute of Sustainable Development of the Korean Chamber of Commerce and Industry where he actively promoted sustainable development concepts and practices to businesses in South Korea.

He was Director General of International Cooperation in the Ministry of Environment of Korea. During his time there, Dr. Park played an active role in global environmental issues such as climate change and led the Korean delegation during bilateral and multilateral negotiations.

Dr. Park was also a member of a number of environmental committees related to environment including the Presidential Commission on Sustainable Development, the Green Citizens Committee of Seoul City and the Nuclear Power Evaluation Committee. In addition, he headed the Department of Cleaner Production Technology Development and Dissemination at the Korean National Cleaner Production Center and the Industrial Environment Department at Hyundai Institute of Eco-Management.

Dr. Park has PhD in Natural Resource and Environmental Economics from Iowa State University and a Master's Degree in Economics from Southern Illinois University.

韓国出身。2008年10月、国連環境計画 (UNEP) アジア太平洋地域事務所長就任。環境管理及び政府・民間部門との国際協力分野において長年の豊富な経験を有する。同所長就任以前は、韓国商工会議所 (KCCI) 持続可能な開発のためのビジネス研究所長として韓国国内企業に持続可能な開発の概念・実践を積極的に推進。韓国環境省国際協力局長時代には気候変動など国際環境問題において積極的な役割を果たし、二国間・多国間交渉の韓国代表団を率いた。

持続可能な開発のための大統領諮問委員会 (PCSD)、ソウル緑色市民委員会、原子力評価委員会など環境関連の様々な委員会で委員を歴任し、韓国クリーナー・プロダクション・センター (KNPC) クリーナー・プロダクション技術開発普及局長、ヒュンダイ環境管理研究所産業環境局長も務めた。南イリノイ大学で経済学修士号を取得した後、アイオワ州立大学で天然資源及び環境経済学にて博士号を取得。





## Dr. Krishna Chandra Paudel

クリシュナ・チャンドラ・パウデル

Secretary, Eastern Regional Administration Office, Ministry of Home Affairs,  
Government of Nepal

ネパール連邦民主共和国内務省東部地区行政長官

Gained Ph. D. in Agriforestry from the University of Agriculture and Forest Sciences, Vienna, Austria, in 2001. Obtained Masters in Environmental Forestry from the University of Wales, United Kingdom, in 1993, and Forestry Degree from Indian Forest College, DehraDun, India in 1985. Currently serving as Secretary and Regional Administrator, Government of Nepal, responsible for the overall security and monitoring of development

programmes in the Eastern Development Region of Nepal. Served as Director General at the Department of Forests, Wildlife, Forestry and Plant Research for many years in Nepal. Served as a CBD SBSTTA Bureau Member for three years. Contributed in the conceptualisation and decisions for Satoyama Initiative and IPSI. One of the founder members of the current IPSI. Also served as a National CBD Focal Point for Nepal for over four years. Contributed to the preparation and revision of the National Biodiversity Strategy and Action Plan (NBSAPs), Access and Benefit Sharing Bill for Nepal. Pioneered the documentation of biological resources and associated traditional knowledge in Nepal. Member of various forestry and biodiversity organisations.

アグロフォレストリ分野博士（農業森林科学大学、オーストリア、2001）、環境林業分野修士（ウェールズ大学、イギリス、1993）、林業学士（インド森林大学、インド、1985）。現在、ネパール政府東部地区行政長官としてネパール東部地区の開発計画の安全確保と監視担当。ネパールで長年に渡り、森林・野生生物・林業・植物調査局の局長として従事。3年間生物多様性条約SBSTTA（科学技術助言補助機関）事務局メンバーに従事。SATOYAMAイニシアティブとIPSI（SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ）の構想と決定に貢献。IPSIの創立メンバーの一人。4年以上ネパールの生物多様性条約のフォーカルポイントとして従事。国家生物多様性戦略計画の準備と改訂やネパールのABS（遺伝子資源へのアクセスと利益配分）法案に貢献。ネパールの生物資源と伝統的知識の文書化のパイオニアでもある。種々の林業と生物多様性関連組織のメンバーを務める。



## Dr. Abdessalem Rabhi

アブドゥサレム・ラビィ

Policy Researcher, Kansai Research Centre, IGES

IGES関西研究センター研究員

He holds a doctoral degree in comprehensive economic policy from Kobe University-Graduate School of Economics. Fundamentally an economist, later developed skills in various field of environmental management by conducting various projects related to business and environment at IGES-KRC, such as “Corporate Environmental Management”, “Application of Japanese Low Carbon Technology in India”, “Promoting Co-benefit

Approach in Asia”, etc. He has contributed in several IGES flagship outputs, such as IGES white papers and policy briefs. Originally from Tunisia.

神戸大学大学院経済学研究科より総合経済政策学博士号取得。経済学専門に加え、多様な分野の環境マネジメントに関する経験をIGES関西研究センターが実施する研究プロジェクトを通して得ている。例として、“企業における環境管理（CEM）”、“インドにおける低炭素技術の適用促進に関する研究”、“アジア諸国におけるコベネフィット技術の促進”などがある。また、IGESの主要出版物であるIGES白書ならびにポリシーブリーフに執筆貢献をしている。チュニジア出身。



## Mr. K.N. Rao

K.N.ラオ

Director (Energy & Environment), ACC Limited

ACC Limitedディレクター（エネルギー・環境）

Mr. K.N.Rao is a Chemical Engineer having 28 years of rich experience in the fields of Air pollution control equipment, Sustainable Development, Energy conservation, Environment Impact Assessment (EIA) Studies, GHG Emission reduction, Clean Development Mechanism (CDM), Environmental compliance, performance and monitoring etc. He did his M.Tech (Chemical) from IIT Chennai during the period 1980-82.

Mr. K.N.Rao started his career with Andhra Pradesh Heavy Machinery and Engineering Limited's Air Pollution control Department. Subsequently he worked with M/s Voltas Limited's Air Pollution Control Department. From there during the year 1993 he joined with M/s ACC Limited's Air Pollution Control Department as Manager. During the years he shouldered various responsibilities and currently rose to the level of “Director” heading the activities of “Environment and Energy Conservation Cell”.

化学技師。28年にわたり、大気汚染対策機器、持続可能な開発、省エネルギー、環境影響評価の研究、温室効果ガス排出削減、クリーン開発メカニズム（CDM）、環境の遵守・パフォーマンス・モニタリング等分野における豊富な経験を持つ。1980-82年にIIT Chennaiで技術修士（化学）取得。

Andhra Pradesh Heavy Machinery and Engineering Limited大気汚染対策部にてキャリアを開始。その後 Voltas Limited大気汚染対策部勤務。1993年にACC Limited大気汚染対策部のマネージャーに就任。現在はディレクターとして環境・エネルギー保全室を率いて様々な責務をこなす。



## Prof. Wolfgang Raskob

ヴォルフガング・ラスコフ

Professor, Karlsruhe, Institute of Technology (KIT), Germany

ドイツ連邦放射線防護庁

Wolfgang Raskob, borne 1957 in Trier, meteorologist, head of the Accident Consequence Assessment Group of the Institute for Nuclear and Energy Technologies at Karlsruhe Institute of Technology and elected member of the Subcommittee on Radioecology of the German Radiation Protection Commission since 2010. From 2005 – 2010 elected member of the Subcommittee on Emergency Management of the German Radiation

Protection Commission. Since 1992 involvement in the RODOS (Real-time On-line DecisiOn Support system) project as member of the hydrological working group and since 1996 as leader of the working group on countermeasures and consequences. Since 2000 responsible for the software development of the simulation models in the RODOS system and now overall coordinator of RODOS related developments. From 2005 -2009 co-ordinator of the EC supported activities on nuclear emergency management and restoration under the 6th Framework Programme (EURANOS project, contract No. FI6R-CT-2004-508843). Since 2011 co-ordinator of the EC supported project: Towards a self sustaining European Technology Platform (NERIS-TP) on Preparedness for Nuclear and Radiological Emergency Response and Recovery (FP7 project number 269718).

1957年生まれ、ドイツ・トリアー出身。気象学者。カールスルーエ工科大学 (Karlsruhe Institute of Technology: KIT)、Head of the Accident Consequence Assessment Group of the Institute for Nuclear and Energy Technologies. 2010年よりthe Subcommittee on Radioecology of the German Radiation Protection Commissionのメンバーに選出。2005～2010年にはthe Subcommittee on Emergency Management of the German Radiation Protection Commissionのメンバー。1992年よりRODOS (Real-time On-line DecisiOn Support system) プロジェクトに水文学ワーキンググループのメンバーとして従事し、1996年より対策と影響調査のワーキンググループ長を務めた。2000年からはRODOSシステムにおけるシミュレーションモデルのソフト開発責任者となっており、RODOSに関する開発全般の調整をしている。2005-2009年にはECの支援の下、6th Framework Programme (EURANOS project, contract No. FI6R-CT-2004-508843) にて、原子力災害対策や復旧に関する活動の共同コーディネーターを務めている。また2011年より、EC支援によるプロジェクト: “Towards a self sustaining European Technology Platform (NERIS-TP) on Preparedness for Nuclear and Radiological Emergency Response and Recovery (FP7 project number 269718)” の共同コーディネーターも務めている。



### Dr. Md. Mosleh Uddin Sadeque

モハマド・モスレ・ユディン・サデク

Interim Executive Director, Institute of Microfinance (InM)  
マイクロファイナンス研究所 (InM) エグゼクティブディレクター代理

Dr. Md. Mosleh Uddin Sadeque is working as Interim Executive Director at Institute of Microfinance (InM) which has given him the privilege to be involved in research, training and knowledge management. Dr. Sadeque is one of the leading professionals in microfinance and WASH (Water, Sanitation, and Hygiene) sector of Bangladesh. Over the last 30 years he has an excellent track record in working with the government, Sida, SDC, CARE, Danida and

World Bank projects. He developed operational guidelines and training modules in microfinance and WASH, and has extensive experience on community empowerment and participatory development process with the poor people at the grass roots level. Dr. Sadeque holds a Ph.D. in Environmental Economics and has authored several national and international publications.

バングラデシュのマイクロファイナンス及びWASH(水、公衆衛生、衛生学)の第一線の専門家であるサデク氏はInstitute of Microfinance (InM) のエグゼクティブディレクター代理として、研究、教育、知識管理に携わってい

る。過去30年間にわたり、政府、Sida、SDC、CARE、Danida、世界銀行などのプロジェクトに関わりながら優れた実績を上げてきた。マイクロファイナンスやWASHに関する運営の手引きやトレーニングモジュールを発展させた経験を有する。また、コミュニティの権限移譲及び草の根レベルでの貧困層の人々との参加型発展プロセスにおける経験に秀でている。サデク氏は環境経済学の博士号を取得しており、国内外で出版物を著している。



### Mr. Hiroaki Saito 齋藤 浩昭

CEO, iLink Inc. (Sanriku Oysters Reconstruction Project)  
株式会社アイリンク(三陸牡蠣復興プロジェクト)代表

Born in Miyagi Prefecture. Established iLINK Inc. in 2000. Started the website shop “Umai! Kaki-ya” operation which deals with oysters from various parts of Japan. Launched “Sanriku Oyster Recovery Support Project” on 26 March 2011 right after the East Japan Great Earthquake and supported the area. Established a business, “Wagaki (Japanese Oyster)” in December 2011, which harvests oysters in French scheme together with other oyster producers in Sanriku area.

宮城県出身。2000年に有限会社アイリンク(現株式会社アイリンク)を設立する。

2002年より「旨い! 牡蠣屋」(北海道から九州まで約30産地の全国の牡蠣を扱う牡蠣専門サイト)の運営を始める。東日本大震災直後の2011年3月26日に「三陸牡蠣復興支援プロジェクト」を立ち上げ牡蠣生産者への支援を行う。2011年12月三陸の牡蠣生産者とともに、フランス式養殖を行う株式会社和がきを設立する。



### Dr. Daisuke Sano 佐野 大輔

Director, IGES Regional Centre, Bangkok  
IGESバンコク地域センターセンター長

Dr. Sano has been with IGES since 2005 and is currently Director of the IGES Regional Centre based in Bangkok. He has been engaged in various projects including climate change adaptation, biofuels, sustainable agriculture, and the impacts of trade liberalization. He has been working on the agricultural/environmental issues for 20 years since he started his career at the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan. He holds a

doctorate degree in Food and Resource Economics from the University of Florida.

佐野氏は2005年にIGESに着任、現在はバンコクのIGES地域センターのセンター長を務める。これまで、気候変動と適応、バイオ燃料、持続可能な農業、貿易自由化による影響などの様々なプロジェクトに従事。日本の農林水産省勤務を起点に、約20年にわたり農業と環境に関わっている。食料資源経済学博士(フロリダ大学)。





### Dr. Henry Scheyvens ヘンリー・スケープンス

Director, Natural Resources Management Group, IGES  
IGES自然資源管理グループディレクター

Dr. Henry Scheyvens completed his Doctorate in Political Science at Monash University, and has served at IGES since 2004. He is the Director of the Natural Resources Management Group. At IGES, he is leading research on initiatives to mitigate climate change through sustainable forest management and he has also launched a research project on the links between climate change adaptation and microfinance. Poverty alleviation and community rights are common concerns in his approach to these research topics.

スケープンス氏はMonash大学で政治学の博士課程を終え、2004年以降、IGESで勤務している。持続可能な森林管理を通じて気候変動を緩和するためのイニシアティブにおいて積極的に研究を進めている。また、気候変動の適応とマイクロファイナンスとを関連づける研究プロジェクトを立ち上げた。こうした研究テーマに対する同氏の取り組みにおいて貧困の緩和及びコミュニティの権利が共通の懸念事項となっている。



### Prof. Dr. Miranda A. Schreurs ミランダ・シュレーズ

Director of the Environmental Policy Research Institute, The Freie Universität Berlin  
ベルリン自由大学教授・環境政策研究科ディレクター

Prof. Dr. Miranda Schreurs was born in the United States, lived in Japan and the Netherlands for several years and speaks four languages. Since 2007, Prof. Dr. Schreurs has been Director of the Environmental Policy Research Institute at Free University of Berlin. She is a member of the Advisory Council on the Environment appointed by the Federal Minister of the Environment. Her research focus includes both comparative and international dimensions

of environmental policy. Before coming to Berlin, Prof. Dr. Schreurs worked as a professor in the Department of Government and Politics at the University of Maryland. She received her doctorate from the University of Michigan and has also worked as a guest professor at universities in Japan.

アメリカ生まれ。日本、オランダなどに滞在し、4カ国語を話す。2007年よりベルリン自由大学にて環境政策研究科のディレクターを務める。ドイツ政府環境大臣の指名により環境審議会のメンバーを務める。比較・国際環境政策が研究分野。ベルリン以前は、メリーランド大学で政治機構研究の教授を務める。ミシガン大学で博士号を取得、日本の大学等にて客員教授を歴任。



### Dr. Patrick Schroeder パトリック・シュローダー

International Advisor, China Association for NGO Cooperation (CANGO), China  
中国国際民間組織協力促進会 (CANGO) 国際アドバイザー

Patrick Schroeder is international advisor to the China Association for NGO Cooperation (CANGO). This position is facilitated through the GIZ/Center for International Migration and Development to support German-Chinese cooperation on climate change. At CANGO he coordinates the China component of the IGES project "Transitioning to Energy Efficient Housing in Developing Asia". Patrick holds a PhD in Environmental Studies from the Victoria University of Wellington, New Zealand.

パトリック・シュローダーは中国国際民間組織協力促進会 (CANGO) の国際アドバイザーである。ドイツ国際協力公社 (GIZ) の国際人口移動開発センターが推進するドイツ・中国の気候変動協力に貢献。CANGOでは、IGESが行っている「アジア発展途上国における省エネルギー住宅への変換」プロジェクトにおける中国地域を担当している。ヴィクトリア大学ウェリントン校 (ニュージーランド) にて環境研究の博士号を取得。



### Mr. Soichiro Seki 関 荘一郎

Director General for Decontamination, Ministry of the Environment, Japan  
環境省除染担当審議官

After graduating from the Faculty of Engineering, Tokyo University in March 1978, Mr. Seki joined the Environment Agency and has tackled lots of environmental pollution problems. He served as Director of the Air Quality Management Division, Director of the Waste Management Division, and Director General for Water Environment. He took up his current position as Director General for Decontamination in November 2011.

1978年3月東京大学工学部卒業。同年環境庁入庁。環境汚染対策に携わる。その後、大気環境課長、廃棄物対策課長、水環境担当審議官等を経て、2011年11月より現職。



### Mr. Ash Sharma アッシュ・シャルマ

Vice President, Carbon Finance and Funds,  
Nordic Environment Finance Corporation (NEFCO)  
北欧環境金融公社 (NEFCO) 副総裁

Ash Sharma is responsible for the development and management of climate finance products and funds at the Nordic Environment Finance Corporation. He is currently focussing on broader climate finance and new market mechanisms.

Mr. Sharma has been working with climate policy and practical aspects



of CDM project development since 2000, focusing on developing countries in Asia; Latin America and Africa. More broadly, he has been working for 20 years with energy sector and municipal environmental infrastructure investments in financial, industry and consulting positions, with projects undertaken in over 40 countries. He is a scientist by training and hold postgraduate qualifications in marketing and finance.

Ash founded the carbon finance unit within NEFCO and has increased funds under management 15 fold since 2005, introducing new mandates and financial products and increasing resources commensurately. The department now has over 60 climate change projects on 4 continents.

シャルマ氏は北欧環境金融公社における気候ファイナンス商品の開発及びマネジメントを担当している。シャルマ氏は現在、広範な気候ファイナンスや市場メカニズムに重点的に取り組んでいる。

シャルマ氏は2000年より気候政策及びCDMプロジェクト開発の実務面での業務に取り組んできており、特にアジアやラテンアメリカ、アフリカの途上国での業務に専心してきた。また20年もの間、エネルギー分野や都市の環境インフラ投資に総合的な立場で従事してきており、こうして関与したプロジェクトは40カ国以上にわたる。シャルマ氏はまた、マーケティング及びファイナンスの分野での修士号を有している。

シャルマ氏は北欧環境金融公社においてカーボンファイナンスユニットの基礎を築き、様々な試みによりファンドを飛躍的に拡大することに成功した。この部署は現在4大陸における60以上の気候変動プロジェクトを有するまでに成長している。



### Prof. Ram Manohar Shrestha ラム・シュレスタ

*Emeritus Professor, Asian Institute of Technology*  
アジア工科大学 (AIT) 名誉教授

Prof. Ram Shrestha's expertise is energy and environmental economics, energy-economic modeling, and economics of GHG emission mitigation. He has been serving as a collaborating researcher of the Asia-Pacific Integrated Model (AIM) network for more than 12 years. He was Chairman of the Academic Senate of the Asian Institute of Technology during 2007-2009.

He is currently an Associate Editor of Energy-The International Journal and ASCE Journal of Energy Engineering and a member of Editorial Advisory Board of Carbon Management journal. He has a number of publications on energy policies in Asia, environmental policy and GHG mitigation in several refereed international journals. Till recently, he worked as the lead consultant for Asian Development Bank's study on Regional Economics of Climate Change in South Asia (Part 1). He also served as the main advisor to the project team at SIIT/Thammasat University for the study of Thailand's NAMAs in 2011.

シュレスタ教授はエネルギーと環境経済、エネルギー経済モデル、また温室効果ガス排出緩和の経済学の専門家である。同氏は12年以上の間、研究協力者としてアジア太平洋統合モデル (AIM) ネットワークに関与してきた。同氏は2007年～2009年の間、アジア工科大学のAcademic Senateの議長を務めた。同氏は現在エネルギー・国際ジャーナル (Energy-The International Journal)、及び、エネルギーエンジニアリングに関するASCEジャーナルのアソシエイト・エディターを務めており、また、カーボンマネジメントジャーナルの編集諮問委員会の委員を務めている。同氏にはアジアのエネルギー政策、環境政策及び温室効果ガス緩和に関する多数の著

作があり、そのうち幾つかは国際的なジャーナルで言及されている。最近まで同氏はアジア開発銀行の南アジアにおける気候変動の地域経済に関する研究のリードコンサルタントとして従事していた。また同氏は2011年に、タイ・タマサート大学によるタイのNAMAの研究に関するプロジェクトチームのメインアドバイザーを務めた。



### Mr. Surendra Shrestha スレンドラ・シュレスタ

*Director & Focal Point for Sustainable Development Goals (SDGs) at Rio+20 Secretariat*  
リオ+20事務局持続可能な開発目標 (SDGs) ディレクター兼フォーカルポイント

Prior to leading the support team for SDGs, Mr. Shrestha served the Secretariat as the Team Leader for Institutional Framework for Sustainable Development.

Mr. Shrestha is a senior staff from UNEP. He has held many critical and strategic positions at UNEP including:

- the first Director of Strategic Resource Mobilization and Special Initiatives.
- Regional Director of UNEP in the Asia and the Pacific Region.

His contributions to this region include:

- establishment of the global secretariat for Atmospheric Brown Cloud and Black Carbon consisting of over 35 institutions and 250 scientists;
- the UNEP Eco Peace Leadership Centre in Seoul in 2006;
- the Asia Pacific Sub-regional Environment Policy Dialogue (SEPD) in 2003;
- the UNEP-Tongji Institute of Environment for Sustainable Development in 2002; the Regional Resource Centre for Asia and the Pacific (RRC.AP);
- and UNEP presence in Central Asia.

SDGsサポート・チームをリードする前は、持続可能な開発のための制度的枠組み事務局のチームリーダーとして勤務。UNEPのシニア職員であり、今までに戦略的資金調達ディレクター、アジア太平洋地域UNEP地域ディレクターといった重要かつ戦略的なポジションに従事。

シュレスタ氏のアジア太平洋地域での貢献:

- 35機関、250の科学者で構成される大気褐色雲内の黒色炭素のためのグローバル事務局の設立
- 2006年、ソウルのUNEPエコ・ピース・リーダーシップ・センター
- 2003年、アジア・太平洋サブ・リージョナル環境政策ダイアログ (SEPD)
- 2002年にUNEP同済持続可能な開発環境機関、アジア太平洋地域資源センター (RRC.AP)
- 中央アジアにおけるUNEPプレゼンス



### Prof. Priyadarshi Shukla プリヤダシ・シュクラ

Professor, Public System Group, Indian Institute of Management, Ahmedabad, India  
インド経営大学院大学教授

Prof. Priyadarshi Shukla is a lead author of several prestigious international reports including nine reports of the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC). He has been a member of the official Government of India delegation to the Conference of Parties to the UN Framework Convention on Climate Change. Prof. Shukla has provided consultation and advisory services to Governments and international organizations. He has led numerous international research and consulting projects and is a member of several international teams working on energy and environment modeling and policy assessments. His key contributions include concepts and methods to represent developing country dynamics in integrated assessment modeling and policy research. Prof. Shukla is an invited member of the editorial advisory board of several international journals. He has co-authored thirteen books and numerous publications in international journals in the areas of sustainable development, energy and environment modeling and policies.

世界的に著名な報告書の著者を務めており、代表的なものには気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 発行の9つの報告書等がある。国連気候変動枠組条約締約国会議 (COP) のインド政府代表団のメンバーであり、インド政府、国際機関に対する相談・助言役として活躍しているだけでなく、国際的な研究、コンサルティング・プロジェクトを主導しながら、エネルギー・環境モデリングや政策評価を行う国際的なチームのメンバーとしても活躍している。また、統合評価モデリングや政策研究で途上国発展のダイナミクスを反映したコンセプトや方法論の考案にも貢献している。いくつかの国際誌の編集諮問委員会の招待メンバーを兼任し、持続可能な開発、エネルギー・環境モデリング、政策の分野で13の著書と国際的なジャーナルの共同執筆も行っている。



### Prof. Dr. Ho Chin Siong ホー・チン・チオン

Universiti Teknologi Malaysia  
マレーシア工科大学教授

Ho Chin Siong is currently Senate member of UTM, Professor of Faculty Built Environment and Deputy Director of Office of international affairs at Universiti Teknologi Malaysia. He is a chartered member of Chartered Institute of Logistic and Transport (CILT), registered member of the Board of Town Planning Malaysia and corporate member of Malaysian Institute of Planners (MIP). He received Bachelor of Urban and Regional Planning from

Universiti Teknologi Malaysia (1983), MSc Construction Management from Heriot Watt University, Edinburgh, UK (1987) and Doctor of Engineering from Toyohashi University of Technology, Japan (1994). He was a post doctoral fellow under Hitachi Komai Scholarship to Japan (1995) and Royal Society of Malaysia / Chevening Scholarship to United Kingdom (2005), Visiting scientist under Japan Society Promotion of Science-Vice Chancellor Council Grant (2005-2010). He is also project leader for Development Low Carbon Society

Scenario for Asian Regions working closely with Kyoto University, Okayama University and NIES Tsukuba sponsored under SATREPS program by JICA and JST (2011-2016). His current research areas of interest are in low carbon and green city planning, sustainable urban development, energy efficient city, and Built Environment education. He has published many papers in international journal and books.

マレーシア工科大学の国際交流オフィス副ディレクター、建築環境学部教授及び同大学の大学評議会委員。研究テーマは、持続的な低炭素開発と都市計画である。近年、アジア地域における低炭素社会づくりのシナリオ開発を行っている、地球規模課題対応国際科学技術協力 (Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development: SATREPS) のプロジェクトリーダーとして、プトラジャヤ、サイバージャヤ、マレーシア・イスカンダール開発地区など、マレーシア国内の都市のベースライン研究に携わってきた。



### Ms. Anna Stabrawa アナ・スタブラワ

Regional Coordinator for Early Warning & Assessment,  
United Nations Environment Programme (UNEP)  
国連環境計画 (UNEP) 早期警戒・評価局コーディネーター

Anna Stabrawa is responsible for implementation and delivery of UNEP's assessment and related data and information management activities in the Asia-Pacific region since 2008. Anna has been with UNEP for 19 years, which includes working on global assessment activities, in particular on four Global Environment Outlook (GEO) reports, and on the International Assessment of Agricultural Science and Technology for Development (IAASTD). She previously working on the Africa programme providing technical assistance to governments.

She has a BSc in Environmental Studies from the University of London, and MSc in Agricultural Economics from the University of Reading in the UK, and has worked in such diverse organizations as Price Waterhouse Management Consultants; for the Royal Institute for International Affairs (Chatham House), a leading UK policy think-tank; for the UK Ministry of Agriculture, Fisheries and Food (now DEFRA); for the Natural Resources Institute in the UK; and at Ahmadu Bello University in Nigeria. Anna has experience in a wide range of thematic and integrated environmental assessments, related capacity building, data and information management and networking and socio-economic research, in Asia and the Pacific as well as Africa and the UK.

国連開発計画 (UNEP) での評価とアジア太平洋地域における関連データと情報管理などの活動を2008年以来担当している。UNEPに19年間務めており、グローバル評価活動に携わってきた。中でもGlobal Environment Outlook (GEO) 4レポートやIAASTD開発の為に国際農業技術評価を担当してきた。それ以前は政府への技術支援を提供するアフリカのプログラムに取り組んだ経験もある。

ロンドン大学にて環境学を学んだ後、イギリスのリーディング大学にて農業経済学修士号を取得。その後、プライス・ウォーターハウス経営コンサルタント会社や王立国際問題研究所 (チャタムハウス)、英国農漁食糧省 (現 DEFRA)、英国の天然資源研究所、ナイジェリアのアフマド・ベロ大学に勤務。環境評価の中でもアジア太平洋地域、アフリカと英国においてはキャパシティービルディングやデータ・情報管理、ネットワークと経済社会研究など幅広い経験を持っている。



### Dr. Atsushi Suginaka 杉中 淳

Director, Global Environment Division, International Cooperation Bureau,  
Ministry of Foreign Affairs of Japan  
外務省国際協力局地球環境課長

Dr. Atsushi Suginaka is Director of Global Environment Division, International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs of Japan. Joining the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) in 1990, he has served as Counselor at the Mission of Japan to the European Union, and Senior Planning Officer at Policy Planning and Evaluation Division, MAFF. He also holds a Ph.D. from Graduate School of Policy Studies, Chuo University.

1990年、農林水産省入省。欧州委員会日本政府代表部参事官、農林水産省農村振興局都市農業室長を経て、2010年より現職。中央大学大学院総合政策研究科修了（博士〈総合政策〉Ph.D.）。



### Dr. Hiroshi Suzuki 鈴木 浩

Professor Emeritus, Fukushima University / Chair, Fukushima Prefecture  
Reconstruction Committee  
福島大学名誉教授 / 福島県復興ビジョン検討委員会座長

Graduated in 1978 from the Postgraduate course of Tohoku University, Engineering, worked as research assistant at the Faculty of Engineering, Tohoku University, as associated professor at Oyama National College of Technology, as visiting researcher at the University College of London, and as professor at Fukushima University and currently professor Emeritus, Fukushima University. Served on the Promoting Committee of Compact City

at Tohoku Regional Bureau, MoLIT, the Fukushima Prefecture Comprehensive Planning Council, and the Fukushima Prefecture Reconstruction Committee for the 2011 East Japan Great Earthquake.

1978年東北大学大学院工学研究科博士課程修了（工学博士）、東北大学工学部助手、国立小山高専助教授、在外研究員（ロンドン大学）を経て、福島大学行政社会学部教授、同学部長、共生システム理工学類教授を経て、現在名誉教授。国土交通省東北地方整備局コンパクトシティ推進研究会委員、福島県総合計画審議会会長、福島県復興ビジョン検討委員会座長など。主要著書：「日本版コンパクトシティ」、「地域力再生」、「地域計画の射程」など。



### Prof. Katsunori Suzuki 鈴木 克徳

Director & Professor, Environment Preservation Center, Kanazawa University  
金沢大学環境保全センター長・教授

Prof. Suzuki had been working for the Ministry of the Environment for more than 30 years, with main focus on international negotiations and international cooperation especially in Asia. His major research topics include environmental policy, international environmental cooperation including development of more appropriate regional framework on atmospheric management and promotion of co-benefits approach in East Asia.

環境庁（現環境省）に入庁後、30年以上にわたり、主に国際交渉及び特にアジアにおける国際協力関係に従事。主な研究分野は、環境政策、国際環境協力であり、東アジアにおける大気環境管理に関するより適切な地域協力枠組みの構築、コベネフィット・アプローチの推進などが含まれる。



### Dr. Monthip Sriratana Tabucanon

モンチップ・スリラタナ・タブカノン

Senior Adviser, Senate Commission on Natural Resources and Environment,  
Office of the Parliament, Thailand  
タイ上院議会天然資源・環境委員会シニアアドバイザー

She served senior positions at the Ministry of Natural Resources and Environment of Thailand including as Deputy Permanent Secretary, Director General of the Department of Environmental Quality Promotion, Director General of the Department of Pollution Control, and Principal Inspector General. She was leader of several environmental cooperation and capacity building projects in Thailand including her contribution in the

field of Gender, Integrated Research and Environmental Dispute Resolution, and in the establishments of the Environmental Research and Training Center which was a Thailand-Japan bilateral project, and of the Asia-Europe Environmental Technology Center which was an Asia-Europe multilateral project. She has served on the Boards of several international organizations including the following: Stockholm Environment Institute (SEI), Sweden; United Nations Centre for Regional Development (UNCRD), Japan; United Nations University (UNU) Institute of Water, Environment and Health, Canada; International Council of Women, France; and former Regional Councilor for South and East Asia of the World Conservation Union (IUCN); and is currently a Counselor of IGES. She has received international awards including the most recent 2009 Asian Environmental Compliance and Enforcement Award. She has received a Royal Decoration - The First Class of the Royal Order of the Polar Star from King Carl Gustaf (XVI) of Sweden. She obtained her doctorate in Urban Engineering from The University of Tokyo.

タイ王国政府天然資源・環境省にて、副事務次官、環境推進局局長、公害管理局局長、上席監察官などの上級職を歴任。現在、IGES参与。

タイで実施された複数の環境協力・能力構築プロジェクトのリーダーを務め、ジェンダー、連携研究、環境紛争解決の分野に貢献、さらにタイ環境研究研修センター（タイ・日二国間プロジェクト）やアジア欧州環境技術セン



ター(アジア欧州多国間プロジェクト)などの設立にも寄与。スウェーデンのストックホルム環境研究所(SEI)、日本のIGES、国際連合地球開発センター(UNCRD)、カナダの国連大学(UNU)水・環境・保健研究所、フランスの国際婦人連合(ICW)など様々な国際機関の理事を務め、国際自然保護連合(IUCN)東南アジア地域評議員の経験も持つ。2009年に、2009 Asian Environmental Compliance and Enforcement Award[アジア環境コンプライアンス・エンフォースメント・アワード2009]を受賞、他にもスウェーデン国王カール・グスタフ16世から北極星勲章第一等級章を授与されるなど数々の国際的な賞を受賞。東京大学で都市工学の博士号を取得。



### Mr. Katsuhiko Tada 多田 克彦

President, Tada Organic Farm Co., Japan  
有限会社多田自然農場代表取締役

After university, Mr. Tada returned to his hometown, Tono, where he worked at the city hall for ten years. In 1989, he started a dairy farm. He began selling the first brand of milk in Japan bearing the name of the producer ("Tada Katsuhiko Milk"), while producing other dairy products and vegetables that are independent of farmers cooperative association (JA), and using his own system of distribution channels. He has a keen interest in

training young people entering the field. He started a network with farm producers and manufacturers, and established the pilot for Japan's first "roadside station", or farmers market, where individual farmers can sell their own products under their own names. He has been actively involved in overseas organic agricultural and dairy projects including those in Hawaii and the Republic of Mali as an adviser. He is currently active as the senior member in the CSR Opinion Leaders Program at IBM Japan.

1955年生まれ。大学卒業後、故郷にUターン。1999年まで遠野市役所に10年間勤務し、その間、2年間サウジアラビアにて農業指導を行う。1989年2月に農場を開設。農協に頼らないマイブランド牛乳、乳製品、野菜等の生産と並行して、独自の流通ルートを確立。小売店に直送するほか3つの直営店も経営。若手育成にも注力。生産者・製造者と結成した「多田克彦自然派ネットワーク」の代表も務める。日本で初めて生産者の名前を付けた牛乳「多田克彦の牛乳」を販売。遠野市に国内初となる「道の駅」原型を設立。2010年よりハワイで有機農業の指導に入る。2011年2月、ミレニアム・プロミス・ジャパン(MPJ)理事長とともにマリ共和国のミルクプロジェクト調査。日本IBMのCSRオピニオンリーダーズ・プログラムの主要メンバーとして活躍中。



### Prof. Yukari Takamura 高村 ゆかり

Professor, Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University  
名古屋大学大学院環境学研究科教授

She serves as member of governmental advisory bodies, among others, Central Council of Environment; Council of Science and Technology; and Committee of the Environment, Council of Transport Policy. She is also associate member of Science Council of Japan. She published many books and articles, among others, 'Do markets matter? The role of markets in the

post-2012 international climate regime', in Sawa, T. et al. eds., *Achieving Global Sustainability* (2011); Chapter on Japan in Lord, R. et al. eds., *Climate Change Liability* (2011): *Tackling Leakage in a World of Unequal Carbon Prices* (in collaboration with Dröge, S. et al.) (2009); *Where Will Global Warming Negotiations Lead?: The Prospect of International Climate Change Regime Beyond 2012* (2005) and *Climate Change and International Cooperation* (2011)(both in collaboration with KAMEYAMA, Y.) (in Japanese).

1964年生まれ。専門は国際法、国際環境法。京都大学法学部卒、一橋大学大学院博士後期課程単位取得退学。静岡大学助教授、龍谷大学教授などを経て現職。主な編著作等として『地球温暖化交渉の行方』(2005)、『気候変動と国際協調』(2011)(いずれも亀山康子との共編著)'Do markets matter? The role of markets in the post-2012 international climate regime' in T. Sawa et al. eds., *Achieving Global Sustainability* (2011)、Chapter on Japan in R. Lord et al. eds., *Climate Change Liability* (2011)。



### Mr. Kazuhiko Takemoto 竹本 和彦

Senior Advisor to Minister of the Environment /  
Senior Fellow, United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)  
環境省参与 / 国連大学高等研究所シニアフェロー

Mr. Takemoto was appointed as Senior Fellow of UNU-IAS in October 2010. He is currently affiliated with the University of Tokyo IR3S as Policy Advisor for Global Change Research. He also holds a position as senior advisor to Minister of the Environment. Prior to these appointments, he developed policies on international environmental cooperation and global environment, in particular, climate change and bio-diversity as Vice-Minister for Global

Environment Affairs. He also served as a Director-General of Environmental Management Bureau (2005-08), responsible for air and water quality management and enhancement of the environmental co-benefits. Mr. Takemoto served for CBD/COP10 as its Alternate President (2010), OECD/EPOC as Vice Chair (2004-07) and UNFCCC/COP3 as Special Assistant to its President (1997). He received Master of International Public Policy from the Johns Hopkins University SAIS (1992) and Bachelor of Engineering in Environmental Planning from the University of Tokyo (1974).

東京大学工学部(都市工学)、米国ジョンズ・ホプキンス大学高等国際研究大学院(SAIS)修士。1974年環境庁入庁。地球環境部研究調査室長、広報室長、地球環境保全対策課長、廃棄物対策課長、大臣官房審議官(地球環境担当)、環境管理局長などを経て、2008年より地球環境審議官(次官級)。2010年10月より国連大学高等研究所シニアフェロー及び東京大学IR3S 地球環境政策アドバイザー。この間、東西センター(米国)、世界銀行(米国)、国際応用システム分析研究所(オーストリア)等でも勤務。環境省参与。

温暖化防止京都会議(COP3)議長補佐(1997年)、OECD 環境政策委員会副議長(2004年-2007年)、CBD/COP10(名古屋)議長代行を務める。1951年兵庫県生まれ。



**Prof. Kazuhiko Takeuchi** 武内 和彦

Vice Rector, United Nations University (UNU)

国連大学副学長

Kazuhiko Takeuchi is Vice-Rector of United Nations University and Director of United Nations University Institute for Sustainability and Peace (UNU-ISP), Director and Professor of the Integrated Research System for Sustainability Science (IR3S) at the University of Tokyo. He has served, inter alia, as a member of the Central Environment Council, and a member of the Food, Agriculture and Rural Area Policies Council, Government of Japan, Editor-in-Chief of the journal Sustainability Science (Springer).

Educated and trained as a geographer and landscape ecologist at the University of Tokyo, he engages in research and education on creating eco-friendly environments for a harmonious coexistence of people and nature, especially focusing on Asia and Africa. He leads the Satoyama Initiative as well as climate/ecosystem change research in Asia and Africa.

His recent publications include Satoyama-Traditional Rural Landscape of Japan (co-edited, Springer, 2003), Rebuilding the relationship between people and nature: The Satoyama Initiative (Ecological Research, 25, 891-897, 2010), Sustainability: Engaging in global change thorough harmonious adaptation in Asia (co-authored, Nova Acta Leopoldina, NF112, Nr. 384, 213-226, 2010), Sustainability Science: A Multidisciplinary Approach (co-edited, United Nations University, 2011), Satoyama-Satoumi Ecosystems and Human Well-Being: Socio-Ecological Production Landscapes of Japan (co-edited, United Nations University, 2012).

1974年東京大学理学部地理学科卒業、1976年同大学院農学系研究科修士課程修了。東京都立大学助手、東京大学農学部助教授、同アジア生物資源環境研究センター教授を経て、1997年より同大学院農学生命科学研究科教授。2005年東京大学サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) 副機構長、2008年より国際連合大学 (UNU) 副学長、2009年より同サステナビリティと平和研究所 (UNU-ISP) 所長を併任。2012年より東京大学サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) 機構長。



**Prof. Dr. Klaus Töpfer** クラウス・テプファー

Executive Director, Institute for Advanced Sustainability Studies e.V. (IASS)

ドイツ・持続性高等研究所所長

He is former Executive Director of the UN Environment Programme (UNEP) in Nairobi as well as Under Secretary General of the United Nations and is currently founding director of the Institute for Advanced Sustainability Studies (IASS) based in Potsdam, Germany. He studied economics in Mainz, Frankfurt am Main and Münster, graduating in 1964 with a *Diploma* degree in economics. From 1965 to 1971 he worked as a research assistant

at the Central Institute for Regional Planning at Mainz University and earned his doctorate there with a thesis on "Regional Politics and Location Decisions". From 1971 to 1978 he was head of the Department of Planning and Information of the Federal State Chancellery of Saarland, whilst also lecturing at the German

University of Administrative Sciences in Speyer and evaluating development policy in Egypt, Malawi, Brazil and Jordan. From 1978 to 1979 Töpfer was full professor at the University of Hanover where he directed the Institute of Regional Research and Development, and during this time, he was also a member of the German Advisory Council on the Environment and of the KfW Bank's Board of Supervisory Directors. In 1985 he became honorary professor of the University of Mainz and in 2005 he was made honorary professor by the Faculty of Economics and Business Administration of Tübingen University. He was also awarded an honorary professorship for environmental science and sustainable development by Shanghai University in 2007. Professor Dr. Klaus Töpfer is senator of the Helmholtz Association for the Research Field Earth and Environment.

Klaus Töpfer has been a member of the Christian Democratic Union (CDU) since 1972 and was a member of the German Bundestag from 1990 to 1998. He held office as Federal Minister for the Environment, Nature Conservation and Nuclear Safety from 1987 to 1994, and as Federal Minister of Regional Planning, Building and Urban Development from 1994 to 1998. Klaus Töpfer has received numerous honors and awards including the Order of Merit of the Federal Republic of Germany in 1990 and the German Sustainability Award in 2008.

国連環境計画(ナイロビ)事務局長ならびに国連事務次長を歴任し、現在ドイツ・ポツダムにある持続性高等研究所所長を務める。マインツ、フランクフルト、ミュンスターの大学にて経済学を学び、1964年に経済学の学位を取得。1965年～1971年までマインツ大学地域計画中央研究所にて研究助手を務め、「地域政策と意思決定」に関する論文で博士号を取得。1971年～1978年にはザールランド連邦州政府計画・情報局長を務めるとともに、シュパイヤーのドイツ行政科学大学にて講義を行い、エジプト、マラウィー、ブラジル、ヨルダンの開発計画を評価。1978年～1979年にはハノーバー大学の教授となり、地域研究・開発研究所を指揮し、ドイツ環境諮問委員会委員、ドイツ復興金融公庫の監督ディレクターも務める。1985年マインツ大学名誉教授、2005年テュービンゲン大学経済ビジネス行政学部名誉教授、2007年上海大学環境科学・持続可能な開発に関する名誉教授。地球・環境研究に関するヘルムホルツ協会セネター。

テプファー氏は1972年よりキリスト教民主同盟 (CDU) に所属し、1990年～1998年までドイツ連邦議会議員。1987年～1994年連邦環境・自然保護・原子力安全相、1994年～1998年地域計画・公共事業・都市開発相。多くの受賞歴があり、1990年にはドイツ・メルिट勲章、2008年にはドイツ持続可能性賞を受賞。



**Prof. Hiroyuki Uesaka** 上坂 博亨

Professor, Faculty of Child Development and Education, Toyama University of International Studies

富山国際大学子ども育成学部教授

Graduated University of Tsukuba in 1980. Achieved degree for doctor of science from the University of Tsukuba, and started working for FUJITSU in 1987. Took up position in 2000 as Associate Professor in the Faculty of Regional Sciences, Toyama University of International Studies (TUINS). Became visiting Professor at the ISUGA (Europe-Asia Management Institute) in 2003. Became Professor in the Faculty of Regional Sciences in 2004, and

Professor in the Faculty of Child Development and Education, TUINS in 2009. Areas of research include study of Regional Energy and Environmental Informatics. Engaged in the past five years in revitalisation of local communities using local renewable energy, especially with those from micro hydropower. Holds position of Professor of Japan EIMY (Energy In My Yard) Institute, President of Toyama's Association for



Water Energy Recovery, serves on Advisory Board of International Association of Eco-technology Research, and as a Member of DENKI-UNAZUKI Project.

1980年筑波大学第二学群生物学類卒、1987年筑波大学理学博士、富士通株式会社入社、2000年富山国際大学地域学部助教授、2003年フランス・欧亜ビジネス管理学院客員教授、2004年から地域学部教授。2009年より子ども育成学部教授。専門は環境情報学・地域エネルギー学。現在は、富山県と北陸を中心に小水力を核とした再生可能エネルギーの地域利用による地域社会形成に関する研究と講演活動を行っている。日本EIMY研究所教授、富山県小水力利用推進協議会会長、NPO 法人エコテクノロジー研究会理事、でんき宇奈月実行委員。



### Mr. Sangeeth Varghese サンギース・バルゲーゼ

Chairman and Managing Director LeadCAP Knowledge Solutions Private Limited, India  
インド リードキャップ・ナレッジ・ソリューションズ最高経営責任者

Sangeeth Varghese is a globally acknowledged development consultant, ranked among the world's top 10 in 2008 by the Bombay Stock Exchange, from Harvard and LSE and the founder of LeadCap, a research and consulting set up based out of India, Middle East, USA and Africa. He is a nominee on the Global Agenda Action Council of the World Economic Forum and the founding curator of Global Shapers.

Varghese sits on the boards of several companies and non-profits. He was honoured as the Young Global Leader 2012 by the World Economic Forum and as the Young Asian Leader by the Asia Society. He was nominated as the first youth ambassador by the government of Libya.

Varghese has authored two bestsellers - Decide to Lead and Open Source Leader, both number 1 business bestsellers. He was a contributing editor for The Economic Times and Forbes.com. He is the editor of MSNIndia.com/LeadCap, and a mentor for several CEOs. Varghese is educated at the London School of Economics and Harvard, where he completed his Master's and Research in Development Management and Leadership with scholarships. He also completed his MBA and Bachelor's in Economics with gold medals.

サンギース・バルゲーゼは2008年ボンベイ証券取引所が認定する世界における開発コンサルタントのトップ10のうちの一人。ハーバード大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスを経て、インド、中東、米国、アフリカを拠点とする研究及びコンサルティングを行うリードキャップ社の創設者。世界経済フォーラムの世界行動計画委員の候補であり、グローバル・シェイパーズの創設責任者。幾社かの会社役員及び非営利団体役員を兼任。世界経済フォーラムより2012年ヤング・グローバル・リーダーに選ばれたほか、アジアソサエティにおけるヤング・アジア・リーダーとなる。また、リビア政府より初めての青年大使として任命される。著書に、共にビジネス書ベストセラーとなった『Decide to Lead』や『Open Source Leader』がある。Economic Times 及びForbesの寄稿編集者でもあったが、現在はMSN India/LeadCapの編集者であり、数社のCEOの助言者でもある。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス及びハーバード大学に学び修士を取得し開発管理とリーダーシップの研究について奨学金を得て学んだ。優秀な成績にてMBA及び経済学学士号を取得。



### Prof. Qian Ye イェ・チエン

Executive Director, International Project Office, Integrated Risk Governance Project (IRGP/IHDP), Beijing Normal University  
北京師範大学IHDP総合リスクガバナンスプロジェクト国際プロジェクトオフィス  
エグゼクティブディレクター

Qian Ye is the Executive Director of the Integrated Risk Governance Project, a core science project of International Human Dimensions Programme on Global Environmental Change (IHDP). With a research focus on very large-scale global disasters, IRG project provides an international platform for international natural and social scientific community to exchange and share the knowledge and experience of dealing with global risks. Prof. Ye's

personal research interests include issues related to the social and economic impacts of climate and climate change in marginal areas, including the arid and semiarid lands of Central Asia and the coastal areas of the Pan-Pacific region.

地球環境変化の人間の側面に関する国際研究計画 (IHDP) の中心的な科学プロジェクトである総合リスクガバナンス (IRG) プロジェクトのエグゼクティブディレクター。IRGプロジェクトは、世界規模の災害に焦点を置き、世界的なリスクに対する知見と経験の共有に向けて、自然・社会科学分野の研究コミュニティに国際的なプラットフォームを提供している。主に、中央アジア乾燥地帯・半乾燥地帯及び汎太平洋地域の沿岸地域をはじめとした限界地域における気候変動の社会・経済的な影響に関する問題を研究。



### Prof. Alfred Oteng-Yeboah アルフレッド・オテング・イエボア

National Chairman, Ghana National Biodiversity Committee  
ガーナ共和国国家生物多様性委員会議長

Currently a Professor of Botany at the University of Ghana, Prof. Oteng-Yeboah has taught at several universities in Africa. He was the Deputy Director-General of the Council for Scientific and Industrial Research (CSIR-Ghana) with special responsibility for coordinating national research on Ghanaian environment and health issues.

He has a special interest in the conservation and sustainable use of biological diversity, especially in terms of ecosystem functions, their goods and services, and human well-being. He has a distinguished international profile spanning the three Rio Conventions – on biodiversity, climate change and desertification – and was chair of the CBD SBSTTA-9 and 10. He is the current Chair of the Steering Committee and Sub-committee for Strategy Development of the International Partnership for the Satoyama Initiative (IPSI).

現在ガーナ大学の植物学教授として勤務しているイエボア氏は、これまでもアフリカの数々の大学において学生を指導。また、ガーナ科学産業研究協議会 (CSIR-Ghana) 次長を務め、ガーナにおける環境や健康にかかわる国内研究を進めてきた。

生物多様性の保全と持続可能な利用に焦点を当て、中でも生態系機能やそこから得られる産物やサービス、人々の福祉等に注目。生物多様性、気候変動、砂漠化に関わる3つのリオ条約に長らく関わっており、生物多様



性条約の科学技術助言補助機関 (SBSTTA) 第9回会合及び第10回会合の議長を務める。現在、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) において運営委員会会長とIPSI戦略策定小委員会会長を務める。



**Mr. Tetsuro Yoshida** 吉田 哲郎  
 Researcher, Governance and Capacity Group, IGES  
 IGESガバナンスと能力グループ研究員

Tetsuro Yoshida has been working for the Governance and Capacity Group of the Institute of Global Environmental Strategies (IGES) since 2011 as policy researcher and his research focus has been on international environmental governance and renewable energy policy in developing countries.

Previously, he worked as protection and programme officer for the Office of the United Nations High Commissioner for Refugees (UNHCR) and his assignment includes the management of environmental projects (e.g. in energy, agro-forestry, reforestation and environmental education) in refugee camps and their host communities in Asia and Africa and policy formulation for guiding UNHCR's environment and climate change related activities.

He also worked as project formulation advisor for the Japan International Cooperation Agency (JICA) in the Democratic Republic of the Congo and has carried out various needs assessments and advised JICA to formulate development projects for the Congolese government.

He has lived and worked in various countries of the world, including France, South Africa, the DR of the Congo, Cyprus and Switzerland. He has obtained two master's degrees in public international law and international development from the Fletcher School of Law and Diplomacy, Tufts University and environmental science and policy from Imperial College London.

2011年からIGESガバナンスと能力グループ研究員として勤務。現在まで国際環境ガバナンスと途上国の再生可能エネルギー政策に焦点を当て研究している。以前は国連高等難民弁務官事務所 (UNHCR) にて保護・プログラム担当官として勤務し、アジア・アフリカにおける難民キャンプやホスト・コミュニティにおけるエネルギー、アグロ・フォレストリー、植林、環境教育などのプロジェクト管理や、環境・気候変動関連のUNHCRの活動に指針を与える政策策定に従事した。またコンゴ民主共和国においてプロジェクト形成担当官としてJICA現地事務所に勤務し、ニーズ・アセスメント、コンゴ(民)政府のための開発プロジェクト形成に関するアドバイス業務等に従事した。フランス、南アフリカ、コンゴ民主共和国、キプロス、スイスなどで勤務した。タフツ大学フレッチャースクールにて国際公法と国際開発を、インペリアル・カレッジ・ロンドンにて環境科学と政策を専攻し修士号を取得。

\* Speakers are subject to change. スピーカーは変更となる場合があります。  
 \* 日本語の略歴はIGES仮訳を含みます。

協力団体一覧 Partners

主催 Organisers

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)	Institute for Global Environmental Strategies (IGES)
国連大学高等研究所 (UNU-IAS)	United Nations University Institute of Advanced Studies (UNU-IAS)

協力 Collaborators

国連環境計画 (UNEP)	United Nations Environment Programme (UNEP)
国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP)	United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP)
アジア開発銀行 (ADB)	Asian Development Bank (ADB)

後援 Supporters

環境省	Ministry of the Environment, Japan
神奈川県	Kanagawa Prefectural Government
兵庫県	Hyogo Prefectural Government
北九州市	City of Kitakyushu
横浜市	City of Yokohama
川崎市	Kawasaki City
横浜市立大学グローバル都市協力研究センター	Global Cooperation Institute for Sustainable Cities, Yokohama City University
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科	Graduate School of Media and Governance, Keio University
横浜国立大学	Yokohama National University
独立行政法人国立環境研究所 (NIES)	National Institute for Environmental Studies (NIES)
エネルギー資源研究所 (TERI)	The Energy and Resources Institute (TERI)
日本経済新聞社	Nikkei Inc.
日経BPクリーンテック研究所	Nikkei BP Cleantech Institute

IGES賛助会員 <法人会員・NGO会員>  
IGES Affiliate Members <Foundations/Corporations and NGOs>

 Biso Co. Ltd. 株式会社美装	 Kawasaki City 川崎市	 Mitsubishi Corporation 三菱商事株式会社	 MITSUI & CO., LTD. 三井物産株式会社
 Overseas Environmental Cooperation Center 社団法人海外環境協力センター (OECC)	 Sompo Japan Insurance Inc. 株式会社損害保険ジャパン	 Tokyo Gas Co., Ltd. 東京ガス株式会社	 TOTO Ltd. TOTO株式会社

展示団体一覧 Exhibitions

展示団体 Exhibiting Organisations

環境省	Ministry of the Environment, Japan
神奈川県	Kanagawa Prefectural Government
北九州市	City of Kitakyushu
横浜市	City of Yokohama
川崎市	Kawasaki City
横浜国立大学	Yokohama National University
横浜市立大学グローバル都市協力研究センター	Global Cooperation Institute for Sustainable Cities, Yokohama City University
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科	Graduate School of Media and Governance, Keio University
富山市	Toyama City
低炭素社会国際研究ネットワーク	International Research Network for Low Carbon Societies (LCS-RNet)
アジア・コベネフィット・パートナーシップ (ACP)	Asian Co-benefits Partnership (ACP)

「日印交流の歴史」写真展 公益財団法人 日印協会  
Photo Exhibition "History of Japan-India Exchange" The Japan-India Association

公益財団法人日印協会は、日印関係の発展を推進する団体として1903年(明治36年)に創設されました。日本とインドとの間で平和条約が調印され、国交樹立60周年を迎える今年、協会の創設前後から今日迄の100年有余に及ぶ貴重で歴史的な日印協力の写真を集めた写真展を開催します。

両国交流の歴史を振り返ることがさらなる日印関係の発展に活力を与えることを期待します。

The Japan-India Association was first established in 1903 as an institution to promote Japan-India relations. A formal peace treaty was subsequently signed and this year, 2012, marks the 60th Anniversary of the establishment of diplomatic relations between Japan and India.

With this photo exhibition, the general public can view a selection of valuable and historical photos taken over the last one hundred years from around the time the Japan-India Association was established.

It is hoped that this exhibition will contribute to the further development of Japan-India relations in the years to come by drawing strength from our past.

ISAP2012学生ポスターセッション  
ISAP2012 Student Poster Session

IGESでは、「持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム (ISAP)」に対する若い世代の積極的な参加を期待しています。今回のISAP2012では、IGESと研究協力の覚書を締結している神奈川県内3大学(横浜国立大学、横浜市立大学、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)から協力を戴き、初めての試みとして学生ポスターセッションを開催します。

On the occasion of ISAP2012, IGES will host a poster session to give young researchers and students a chance to participate and exchange views on their research ideas with participants of ISAP. As a start-up event, this year's posters are provided by students of three universities in Kanagawa Prefecture associated with IGES, namely, Yokohama National University, Yokohama City University and Keio University Shonan Fujisawa Campus.



## ISAP2012: 持続可能なフォーラムにするために

## ISAP2012: Actions for a Sustainable Forum

IGESは、2012年3月にエコアクション21の認証登録を取得しました。  
ISAPを低炭素で環境に配慮したフォーラムにするために、以下の取り組みを行います。

IGES obtained certification of Eco Action 21 in March 2012 and in an effort to make ISAP a carbon neutral event, we are promoting the following actions. We encourage participants to take action too:

## 公共交通機関の利用

ISAPご参加の皆様には、環境への負荷が少ない公共交通機関をできるだけ利用してご来場いただくようお願いしています。

## カーボンオフセット・フライトの推奨

ISAPでは、フォーラムに出席するスピーカーやパネリストに、カーボン・オフセットのオプションがあるエアラインの利用を推奨しています。

## クール・ビズの推奨

ISAP会期中、会議場の室温は28℃に設定され、「スーパークール・ビズ」を推奨いたします。室温に応じて、上着やネクタイなどを外されたスタイルでご参加ください。

## 持続可能な紙の使用

ISAPでは、すべての書類にFSC(森林管理協議会)認証紙もしくは再生紙が使用されます。

## フォーラムのペーパーレス化

ISAPでは、ペーパーレス化を目指します。発表資料については、同コピーを当日会場で配布する代わりに、ウェブ上にアップロードして参加者とシェアすることで、ISAP会期中の紙の使用量をできるだけ抑えるよう努めます。

## 廃棄物のマネジメント

ISAP会場（パシフィコ横浜）では、会場から出る廃棄物の100%リサイクルを目指しています。会場には以下のような分別リサイクルBOXが設置され、参加者の皆様にもゴミの分別に協力いただきます。

- ビン、カン、ペットボトル
- 生ゴミ&紙コップなど
- よこれのついたプラスチック
- きれいなプラスチック(包装フィルムなど)
- 新聞、雑誌、パンフレット
- その他のゴミ

省エネルギー

ISAP会場（パシフィコ横浜）は省エネルギーな建物です。一例として建物の照明設備にはLED照明をほぼすべての箇所で導入。トイレ・階段・エスカレーターには人感センサーを設置しています。

## Public Transportation

As the organiser, IGES encourages ISAP participants to use public transportation as much as possible to have less impact on the environment.

### Carbon Offset Flight

IGES recommends that speakers and panelists at ISAP choose airlines providing a carbon offset option for their travel.

## CoolBiz

The meeting rooms will be kept at 28 degrees Celsius during the forum to promote “Super CoolBiz” – It is suggested that dress-code should be semi-formal, and men should not be required to wear a necktie.

## Sustainable Papers

All the paper used for ISAP is FSC paper or recycled paper to support sustainable forest management.

## Less Documentation

To minimise paper consumption during the forum, IGES will make every effort to share the presentation materials by uploading them onto the Internet, as opposed to the distribution of documents in hard copy.

## Waste Management

The ISAP venue (Pacifico Yokohama) pursues 100% recycling of waste produced in the building. It requests that all participants should separate any garbage so that it can be appropriately treated according to the local waste management system. The following types of waste bins are set at the venues.

- Bottles, cans, and "Pet" plastic bottles for recycling
- Raw garbage (e.g. leftover food, etc.) and dirty paper (e.g. paper cups)
- Dirty plastic
- Clean plastic (e.g. wrap film)
- Newspapers, magazines and brochures
- Others

## Energy Conservation

The ISAP venue is an energy-saving building, using LED lights in most parts of the building and the lights operated by sensor in washrooms, escalators and stairs.